

男女共同参画に関する  
市民アンケート調査結果報告書

令和4年2月

いなべ市



# 目 次

I. 調査の概要.....	1
1. 調査の概要.....	1
(1) 調査の目的.....	1
(2) 調査の概要.....	1
(3) 本報告書の留意点.....	1
2. 回答者の属性.....	2
(1) 性別.....	2
(2) 年齢.....	2
(3) 居住地区.....	2
(4) 家族構成.....	3
(5) 同居家族.....	3
II. 調査結果.....	4
1. 男女共同参画社会について.....	4
(1) 男女共同参画社会の認知度.....	4
(2) 「男は仕事、女は家庭」という考え方について.....	6
(3) 男女平等について.....	9
(4) 男女平等に必要なこと.....	28
2. 家庭生活について.....	29
(1) 家事分担の理想.....	29
(2) 家事分担の現実.....	31
(3) 家事に費やす時間.....	33
3. 就労について.....	35
(1) 女性の就労についての考え方.....	35
(2) 女性が働きやすくなっているか.....	37
(3) 働きやすい理由.....	38
(4) 就労経験の有無.....	40
(5) 仕事をやめた理由.....	41
(6) 働きやすい環境づくりに必要なこと.....	42
4. 防災活動について.....	44
(1) 防災活動への女性の参画.....	44
5. 男女の人権について.....	46
(1) DV経験の有無.....	46
(2) DVの相談について.....	48
(3) 相談先について.....	49
(4) 相談しなかった理由.....	50

(5) DV防止に必要なこと .....	52
6. コロナ禍での生活の変化について .....	53
(1) 新型コロナによる生活の変化 .....	53
7. 性のあり方の多様性について .....	57
(1) 性のあり方に関する言葉の認知度 .....	57
(2) 性の多様性についての考え方 .....	63
(3) 男性であることへの責任感 .....	64
(4) 男性であることに責任を感じる時 .....	65
8. 行政への要望について .....	66
(1) 市として取り組むべきこと .....	66
(2) 市政への女性意見の反映 .....	68

# I. 調査の概要

## 1. 調査の概要

---

### (1) 調査の目的

本調査は、いなべ市男女共同参画推進第4次推進計画の策定にあたって、市民の男女共同参画に関する現状・課題や今後の取り組みに関する要望を把握し、今後の施策検討の基礎資料とすることを目的に実施しました。

### (2) 調査の概要

本調査の調査対象、回収率等は次のとおりとなっています。

項目	内容等
調査対象	市内在住の満18歳以上の方（2,000人を無作為抽出）
調査方法	郵送法（郵送による配布・回収）
配布数	2,000票
有効回収数	833票
有効回収率	41.7%
実施時期	令和3年10月～11月

### (3) 本報告書の留意点

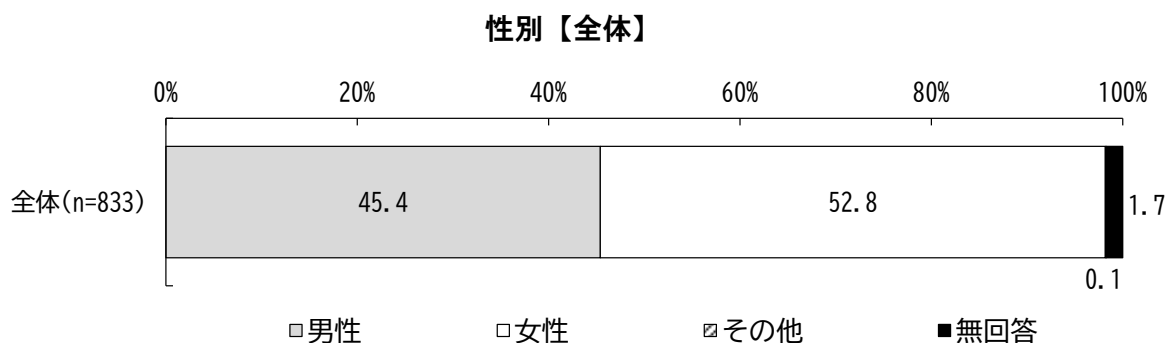
本報告書を理解する上での留意点は次のとおりとなります。

- |  |
|--|
| <p>①比率はすべて百分率（%）で表し、小数点以下2位を四捨五入して算出しています。したがって、合計が100%を上下する場合があります。</p> <p>②基数となるべき実数は、“n”として掲載し、各比率はnを100%として算出しています。</p> <p>③【複数回答】とある問は、1人の回答者が2つ以上の回答を出してもよい問であり、したがって、各回答の合計比率は100%を超える場合があります。</p> <p>④文中、図表中の選択肢の文言は作図等の都合により一部簡略化しています。</p> <p>⑤問の中には「～で〇〇とお答えの方におたずねします。」などいろいろな制限があり、回答者数が少なく、有意性の低いものも含まれます。</p> <p>⑥文中にある前回調査、国・県調査は以下の調査となります。</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・前回調査：いなべ市男女共同参画に関する市民意識調査 [平成28年度]</li><li>・国調査：内閣府男女共同参画社会に関する世論調査 [令和元年]</li><li>・県調査：三重県男女共同参画に関する県民意識と生活基礎調査 [令和元年度]</li></ul> |
|--|

## 2. 回答者の属性

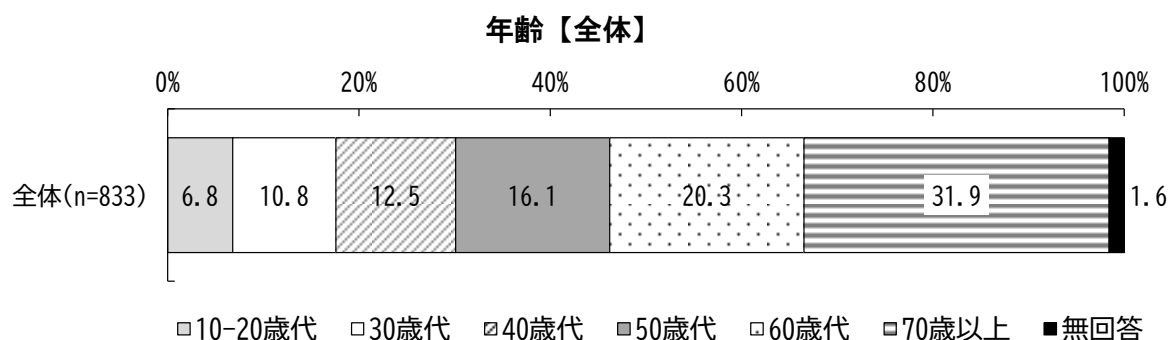
### (1) 性別

回答者の性別は、「女性」が52.8%、「男性」が45.4%、「その他」が0.1%となっています。



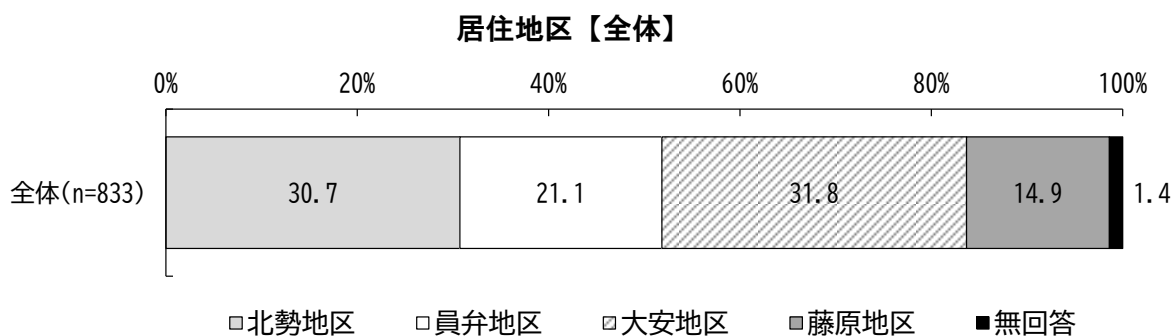
### (2) 年齢

回答者の年齢は、「70歳以上」が31.9%で最も多く、次いで「60歳代」(20.3%)、「50歳代」(16.1%)、「40歳代」(12.5%)、「30歳代」(10.8%)、「10-20歳代」(6.8%)となっています。



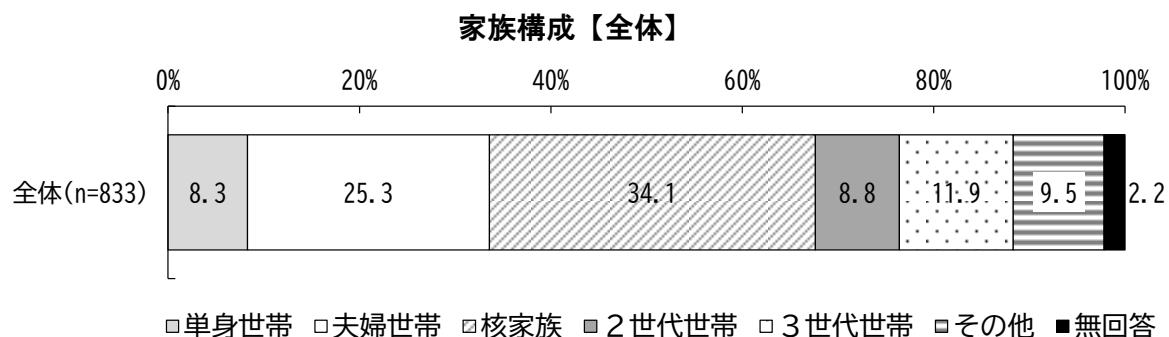
### (3) 居住地区

回答者の居住地区は、「大安地区」が31.8%で最も多く、次いで「北勢地区」(30.7%)、「員弁地区」(21.1%)、「藤原地区」(14.9%)となっています。



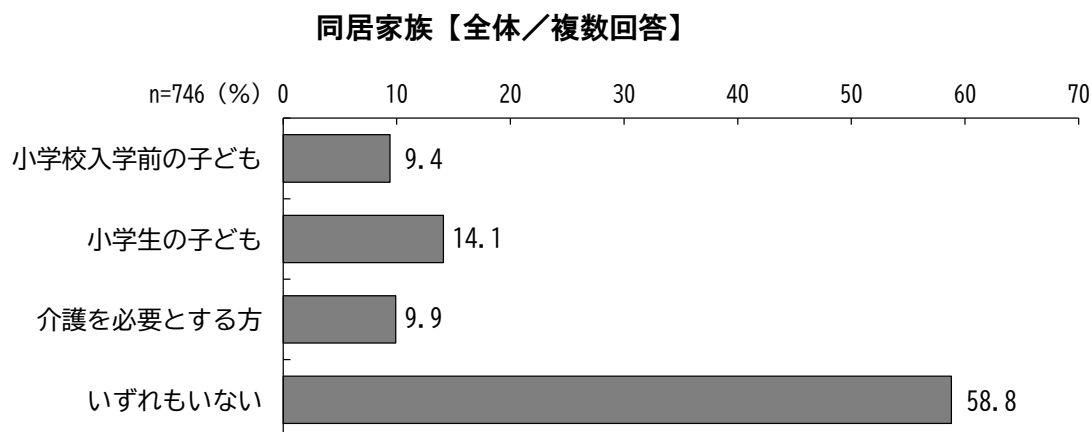
#### (4) 家族構成

回答者の家族構成は、「核家族」が34.1%で最も多く、次いで「夫婦世帯」(25.3%)、「3世代世帯」(11.9%)、「その他」(9.5%)、「2世代世帯」(8.8%)、「単身世帯」(8.3%)となっています。

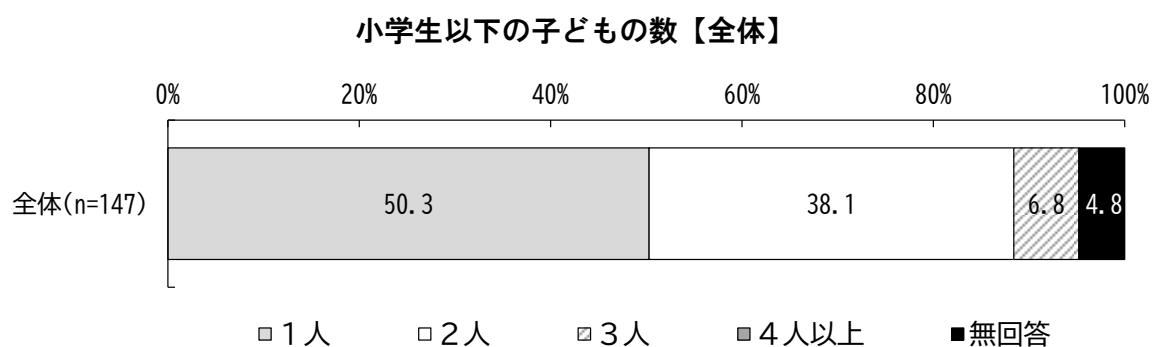


#### (5) 同居家族

回答者の同居家族は、「いずれもない」が58.8%で最も多く、次いで「小学生の子ども」(14.1%)、「介護を必要とする方」(9.9%)、「小学校入学前の子ども」(9.4%)となっています。



また、「小学生の子ども」または「小学校入学前の子ども」がいると回答した人に、小学生以下の子どもの数をたずねたところ、「1人」が50.3%で最も多く、「2人」が38.1%、「3人」が6.8%となっています。



## Ⅱ. 調査結果

### 1. 男女共同参画社会について

#### (1) 男女共同参画社会の認知度

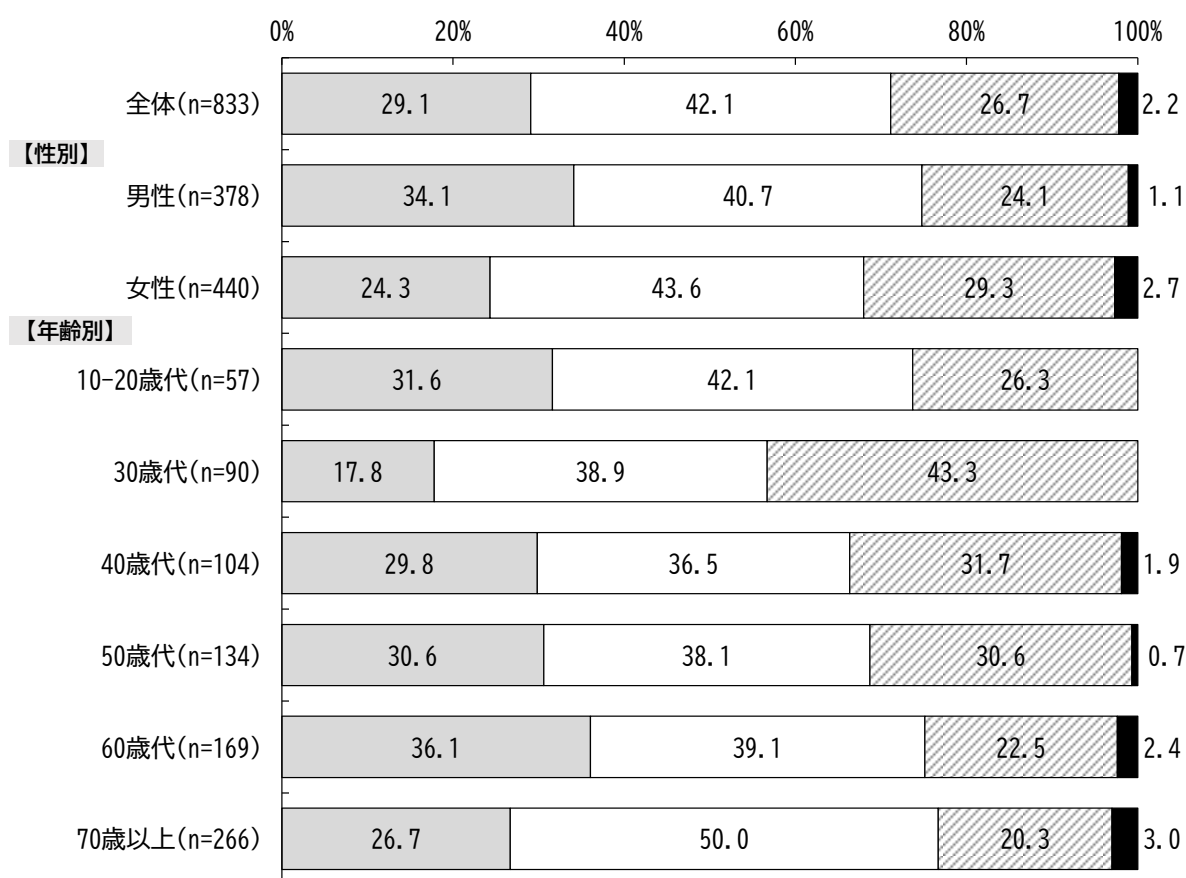
問6 あなたは、「男女共同参画社会※」とはどのようなものか知っていましたか。

◆『聞いたことがある』が約7割。

男女共同参画の認知度については、「言葉は聞いたことがある」が42.1%で最も多く、これに「知っていた」(29.1%)をあわせた『聞いたことがある』が71.2%と約7割となっています。一方、「まったく知らなかった」は26.7%となっています。

性別で『聞いたことがある』の割合をみると、男性(74.8%)が女性(67.9%)を上回ります。また、年齢別では70歳以上(76.7%)、60歳代(75.2%)、10-20歳代(73.7%)で7割を超える一方、30歳代では56.7%にとどまり、認知度が最も低くなっています。

男女共同参画社会の認知度【全体、性別、年齢別】



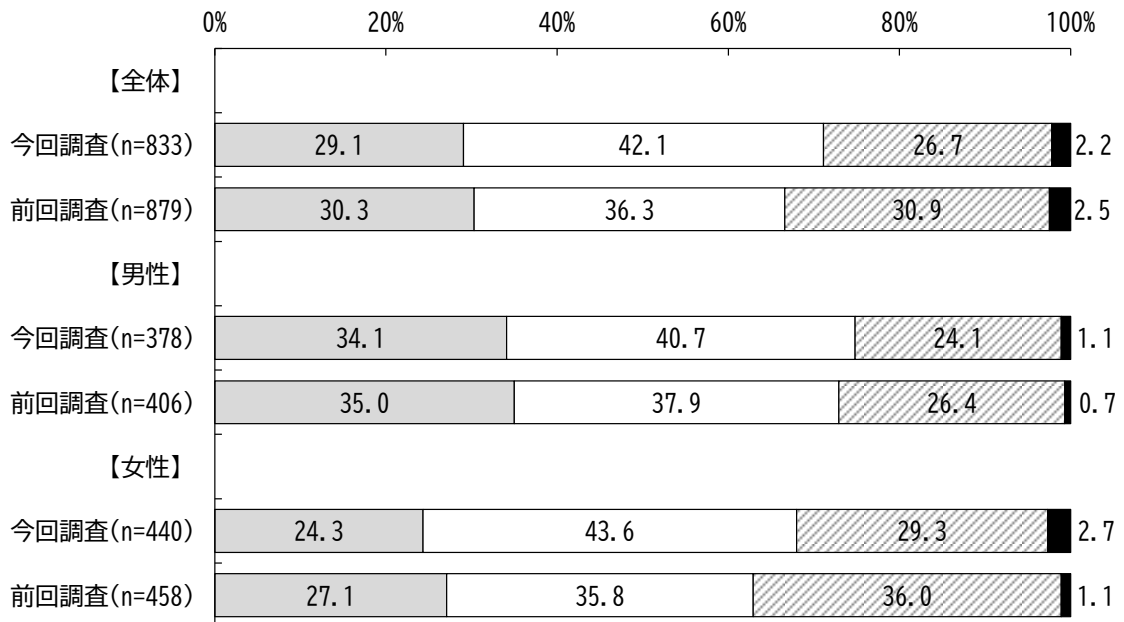
□知っていた □言葉は聞いたことがある □まったく知らなかった ■無回答



## ◎前回調査との比較（男女共同参画社会の認知度）

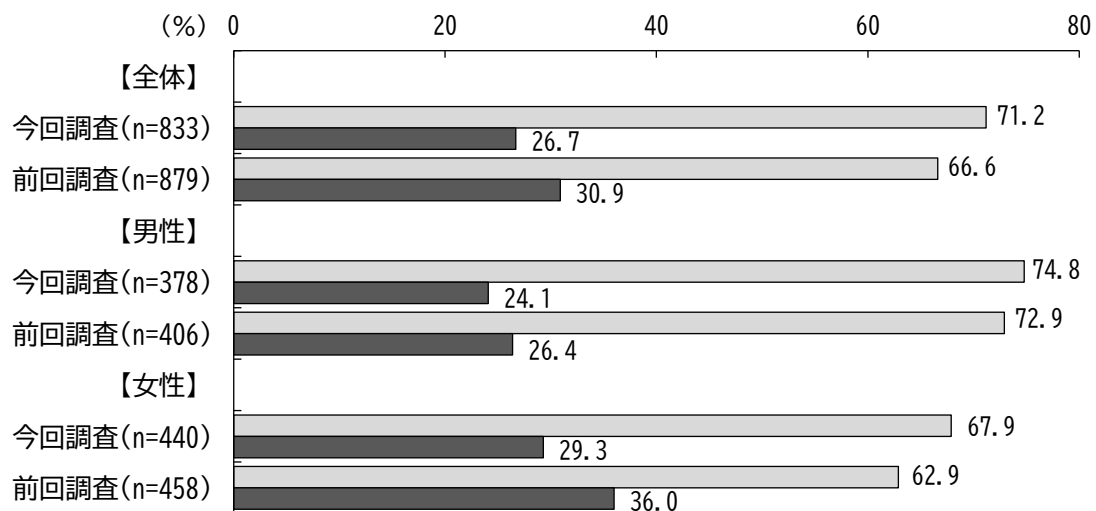
◆前回調査と比較すると、全体、男性、女性ともに「言葉は聞いたことがある」が増加し、認知度が上昇している。

### 男女共同参画社会の認知度【前回調査との比較】



□ 知っていた □ 言葉は聞いたことがある □ まったく知らなかった ■ 無回答

### 男女共同参画社会の認知度【前回調査からの推移】



□ 『聞いたことがある』 ■ 『まったく知らなかった』

#### ※男女共同参画社会

「男女が、社会の対等な構成員として、自らの意思によって社会のあらゆる分野における活動に参画する機会が確保され、もって男女が均等に政治的、経済的、社会的及び文化的利益を享受することができ、かつ、共に責任を担うべき社会」（男女共同参画社会基本法第2条）

## (2) 「男は仕事、女は家庭」という考え方について

問7 あなたは、「男は仕事、女は家庭」という考え方についてどう思いますか。

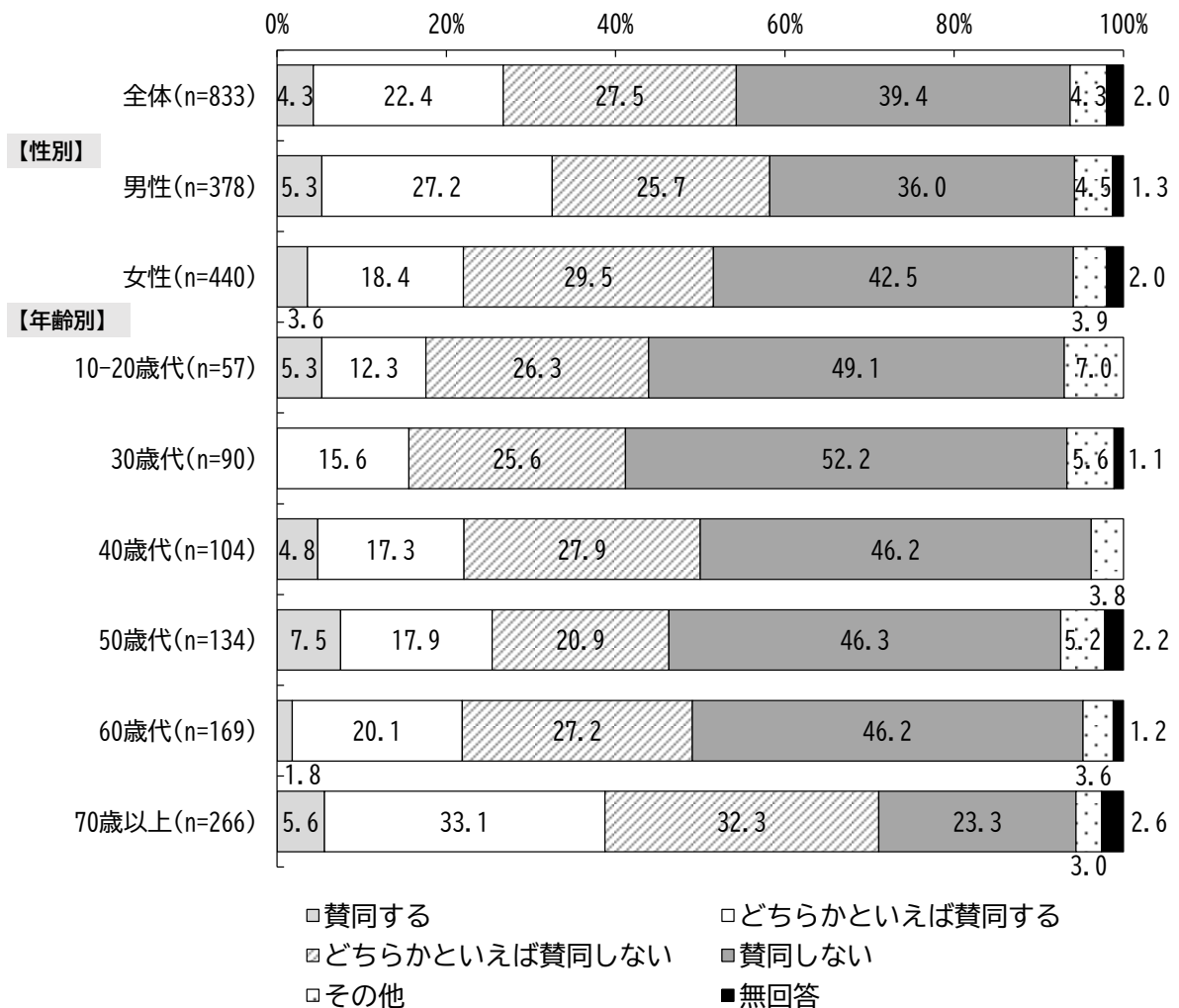
◆『否定的意見』が全体で 66.9%となるなど各層で多数を占めるが、70 歳以上では『肯定的意見』が根強く残っている。

「男は仕事、女は家庭」という考えについて、『肯定的意見』（「賛同する」と「どちらかといえば賛同する」の合計）と『否定的意見』（「どちらかといえば賛同しない」と「賛同しない」の合計）の割合をみると、全体では『肯定的意見』が 66.9%、『否定的意見』が 26.7% となっています。

性別でみると、男性・女性ともに『否定的意見』が多数を占めますが、『肯定的意見』は男性（32.5%）が女性（22.0%）を 10 ポイント以上上回っています。

年齢別でみると、『否定的意見』が各年代で多数を占め、30 歳代（77.8%）で最も多くなっています。一方、『肯定的意見』は 70 歳以上（38.7%）で最も多くなっています。

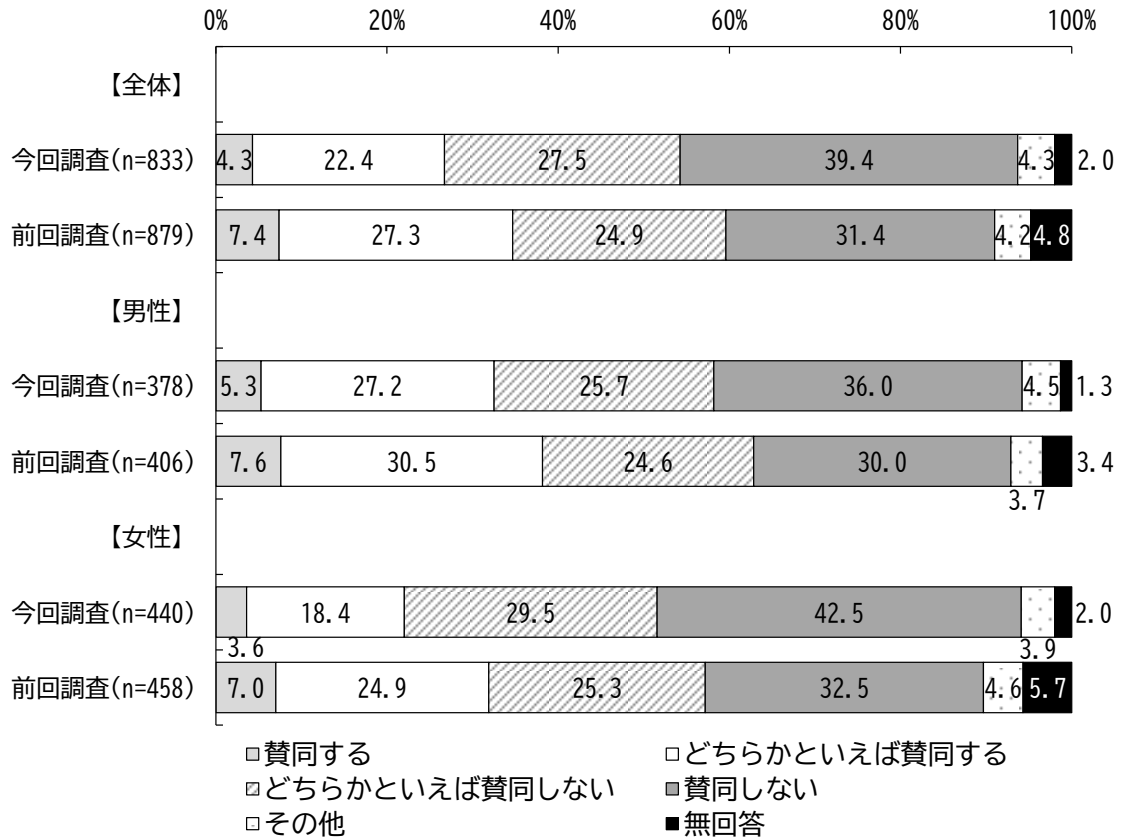
「男は仕事、女は家庭」という考え方について【全体、性別、年齢別】



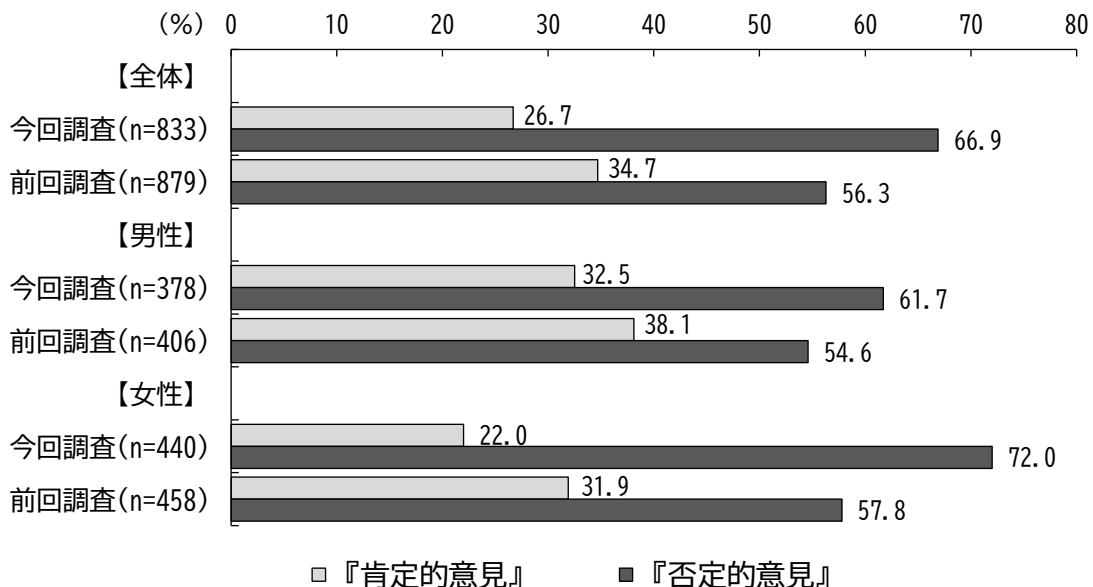
◎前回調査との比較（「男は仕事、女は家庭」という考え方について）

◆前回調査と比較すると、全体、男性、女性ともに『肯定的意見』が減少し、『否定的意見』が増加している。

「男は仕事、女は家庭」という考え方について【前回調査との比較】



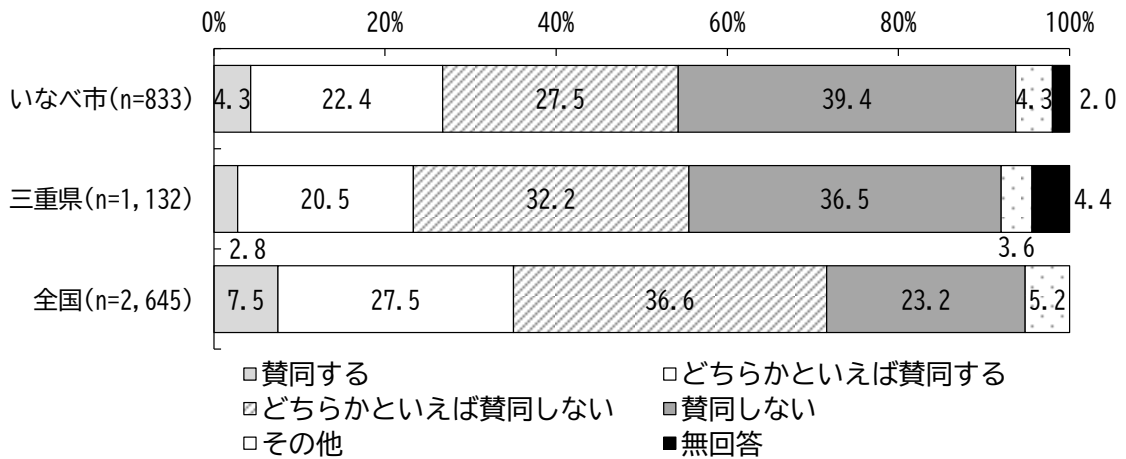
「男は仕事、女は家庭」という考え方について【前回調査からの推移】



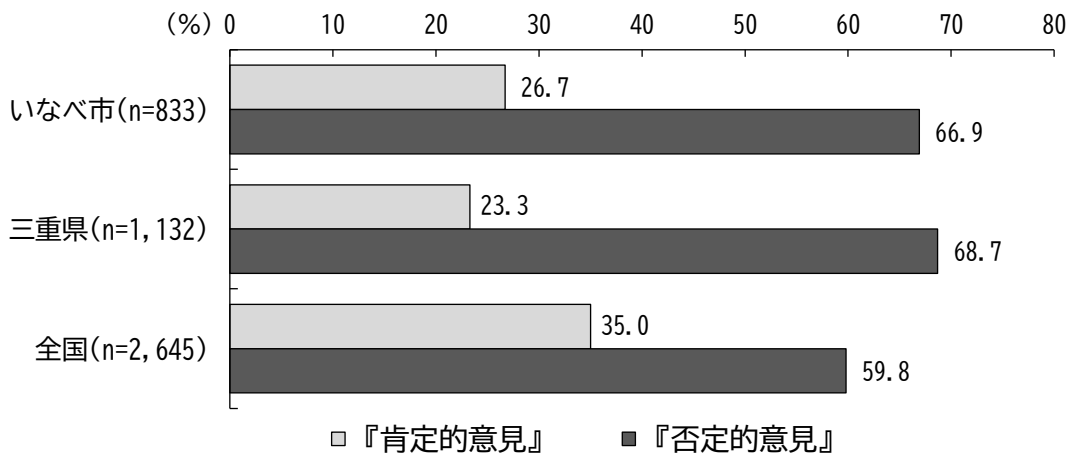
◎国・県調査との比較（「男は仕事、女は家庭」という考え方について）

◆国・県調査と比較すると、『否定的意見』の割合は県とほぼ同率となっており、国を上回る。

「男は仕事、女は家庭」という考え方について【国・県調査との比較】



「男は仕事、女は家庭」という考え方について【国・県調査との比較】



### (3) 男女平等について

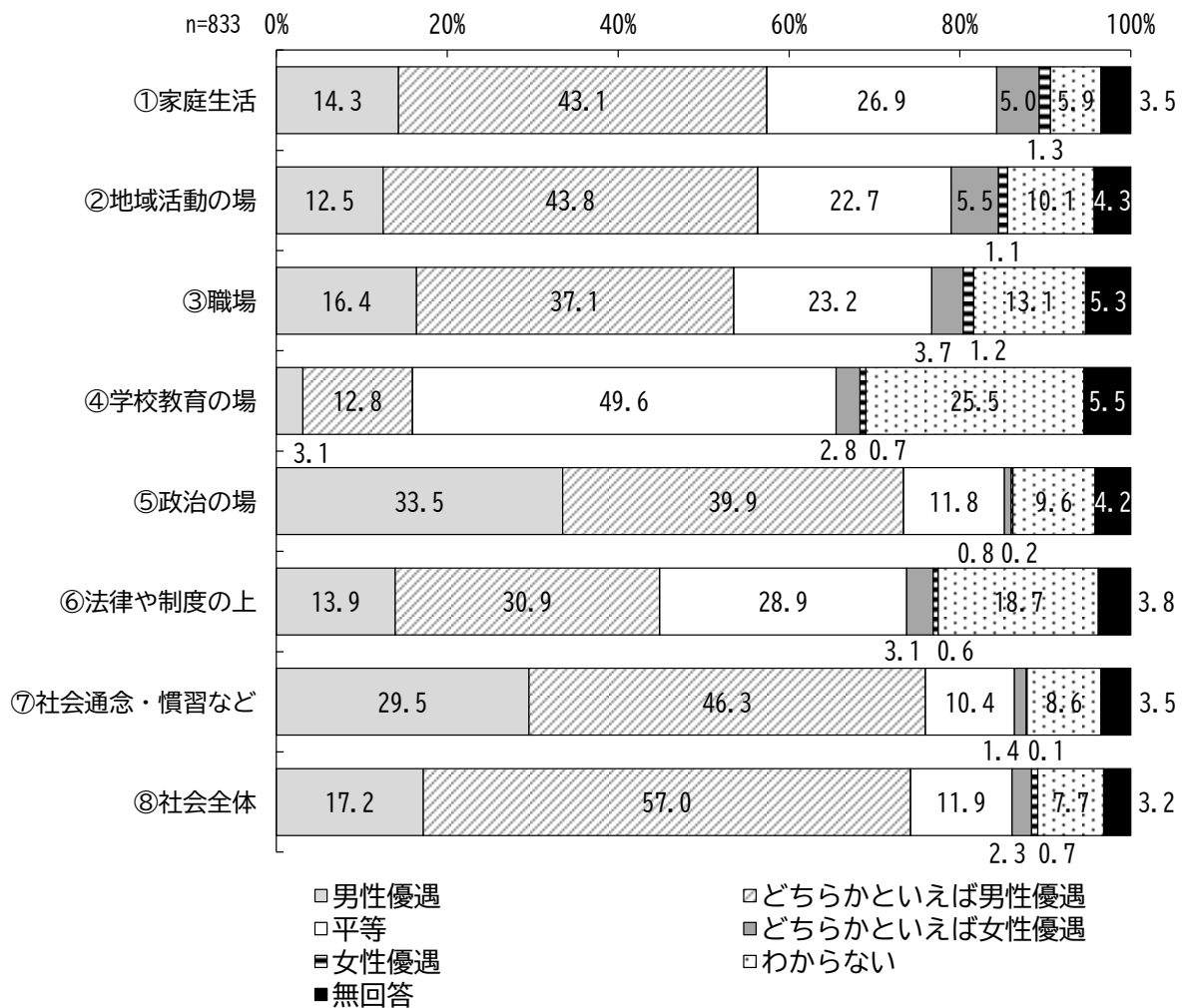
問8 次のような分野で、男女の地位は平等になっていると思いますか。

- ◆社会全体をみて『男性優遇』と感じる割合が7割を超え、特に⑦社会通念・慣習、⑤政治の場では『男性優遇』と感じる人が多い。
- ◆④学校教育の場では「平等」と感じる人が最も多い。

①家庭生活、②地域活動の場、③職場、④学校教育の場、⑤政治の場、⑥法律や制度の上、⑦社会通念・慣習などの7つの項目と、⑧社会全体における男女平等の現状認識をたずねたところ、すべての項目で設定したいずれの場でも『男性優遇』（「男性優遇」と「どちらかといえば男性優遇」の合計）が『女性優遇』（「女性優遇」と「どちらかといえば女性優遇」の合計）を上回っています。

また、『男性優遇』の割合をみると、⑦社会通念・慣習など（75.8%）で最も多く、次いで⑧社会全体（74.2%）、⑤政治の場（73.4%）などの順となっています。

男女平等について【全体】



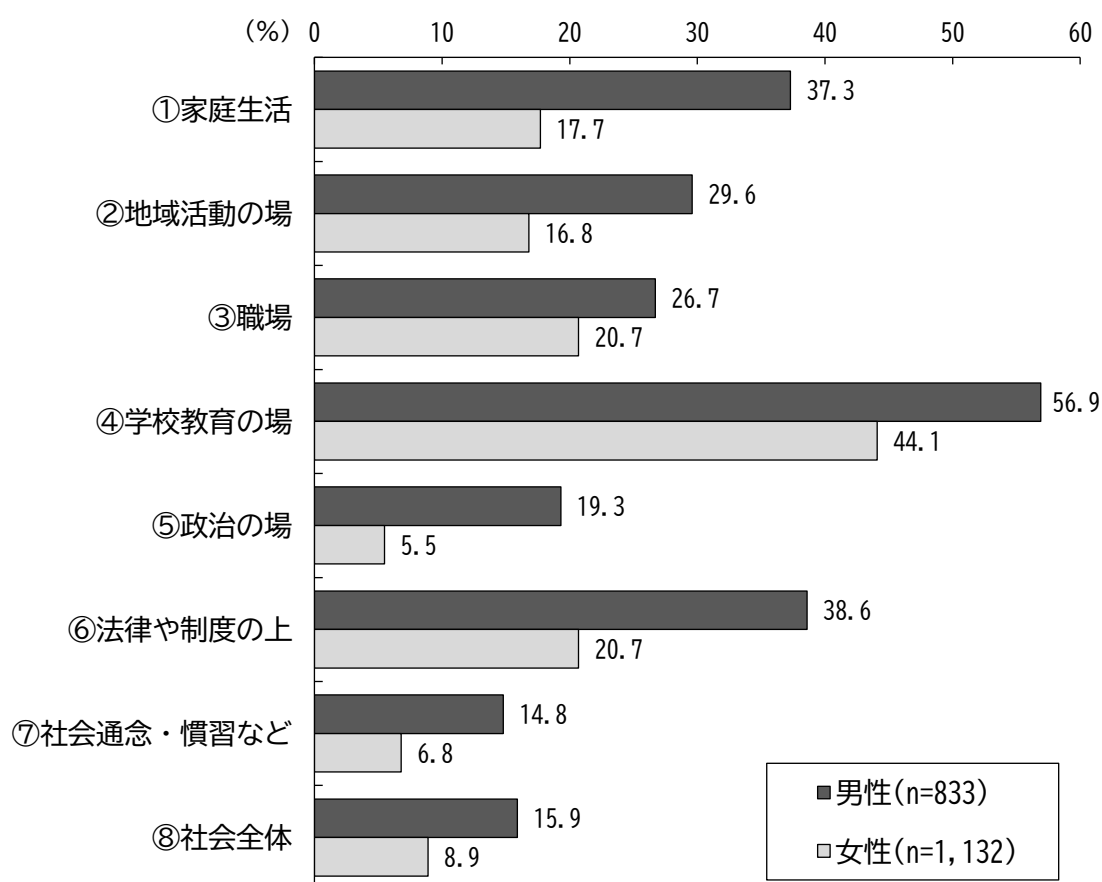
### 男女平等について【全体】

(%)	『男性優遇』	平等	『女性優遇』	わからない	無回答
①家庭生活	57.4	26.9	6.3	5.9	3.5
②地域活動の場	56.3	22.7	6.6	10.1	4.3
③職場	53.5	23.2	4.9	13.1	5.3
④学校教育の場	15.9	49.6	3.5	25.5	5.5
⑤政治の場	73.4	11.8	1.0	9.6	4.2
⑥法律や制度の上	44.8	28.9	3.7	18.7	3.8
⑦社会通念・慣習など	75.8	10.4	1.5	8.6	3.5
⑧社会全体	74.2	11.9	3.0	7.7	3.2

※第1位の回答は■。

性別でみると、8つの項目で「平等」と回答する割合が最も多い項目は、男性・女性ともに④学校教育の場（男性 56.9%、女性 44.1%）となっています。また、すべての項目において、女性より男性で「平等」と回答する割合が多い傾向がみられます。

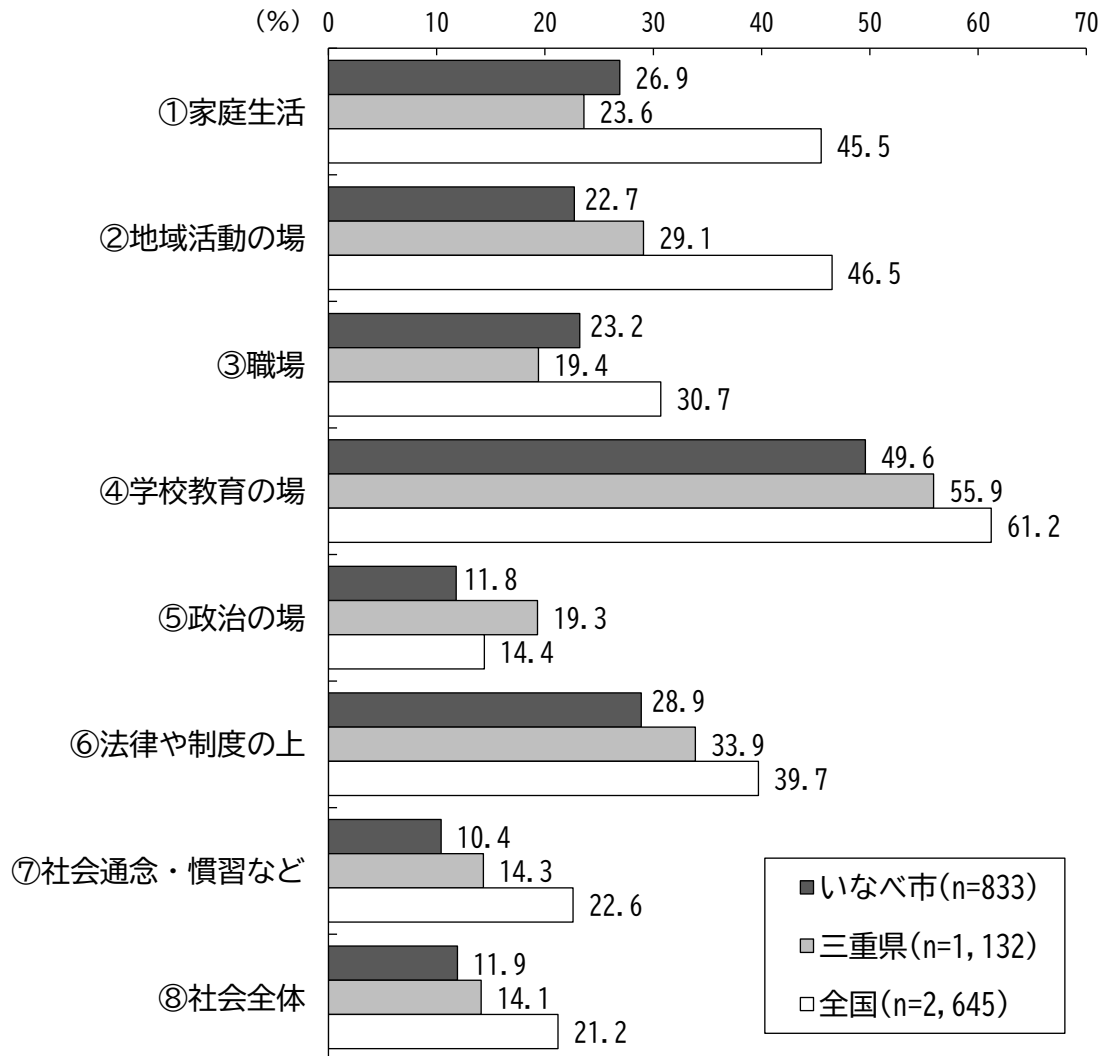
### 男女平等について【「平等」と回答した割合、性別】



◎国・県調査との比較（男女平等について）

◆国・県調査と比較すると、「平等」と回答した割合はすべての項目で国を下回る。  
また、①家庭生活、②職場では県を上回る。

男女平等について【「平等」と回答した割合、国・県調査との比較】



## ①家庭生活

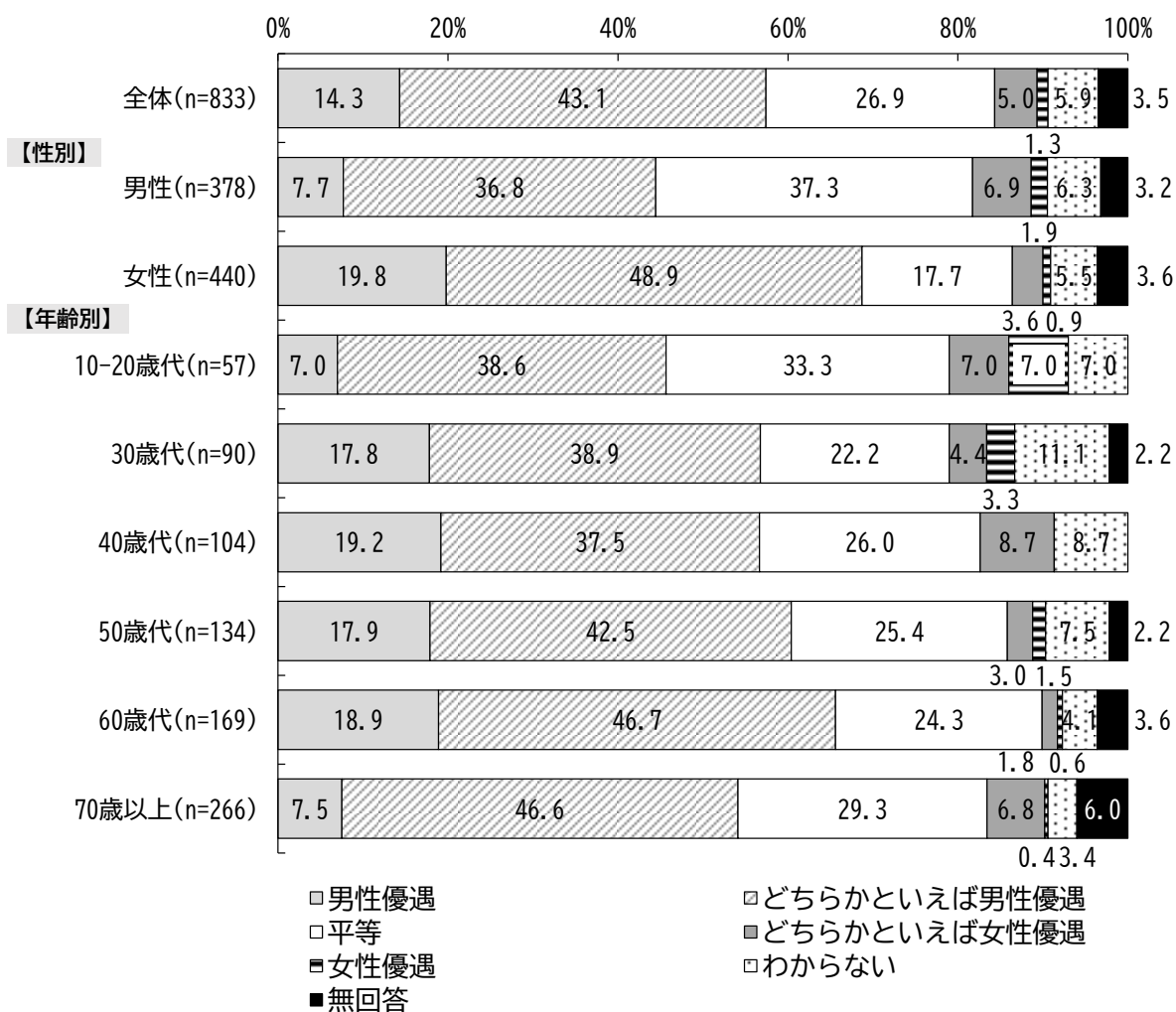
◆8つの項目の中で「平等」と回答する割合の男女差が最も大きい。

家庭生活では、『男性優遇』が57.4%で6割弱を占め、「平等」が26.9%、『女性優遇』が6.3%、「わからない」が5.9%となっています。

性別で見ると、「平等」と回答する割合が、男性では37.3%となっている一方、女性では17.7%と約20ポイントの差がみられ、設定した8つの項目の中で男女差が最も大きくなっています。

年齢別で見ると、「平等」は10-20歳代で33.3%と最も多く、『男性優遇』は60歳代で65.6%と最も多くなっています。

男女平等について①家庭生活【全体、性別、年齢別】

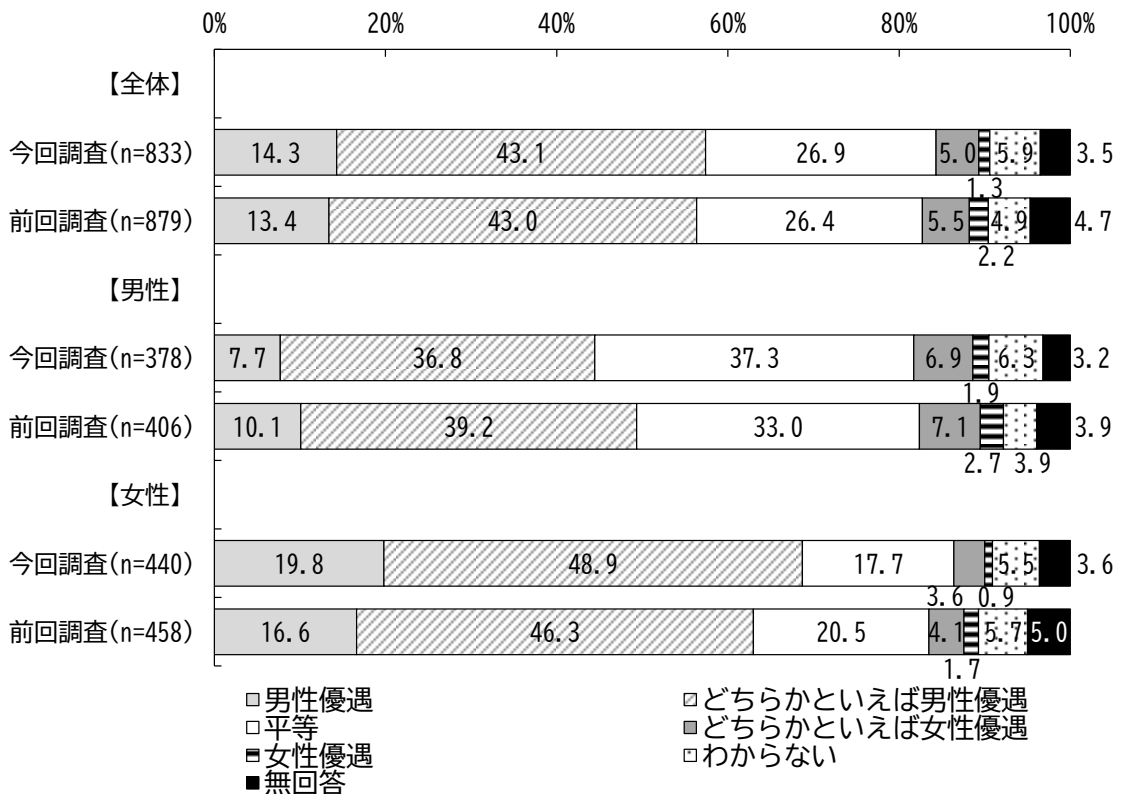




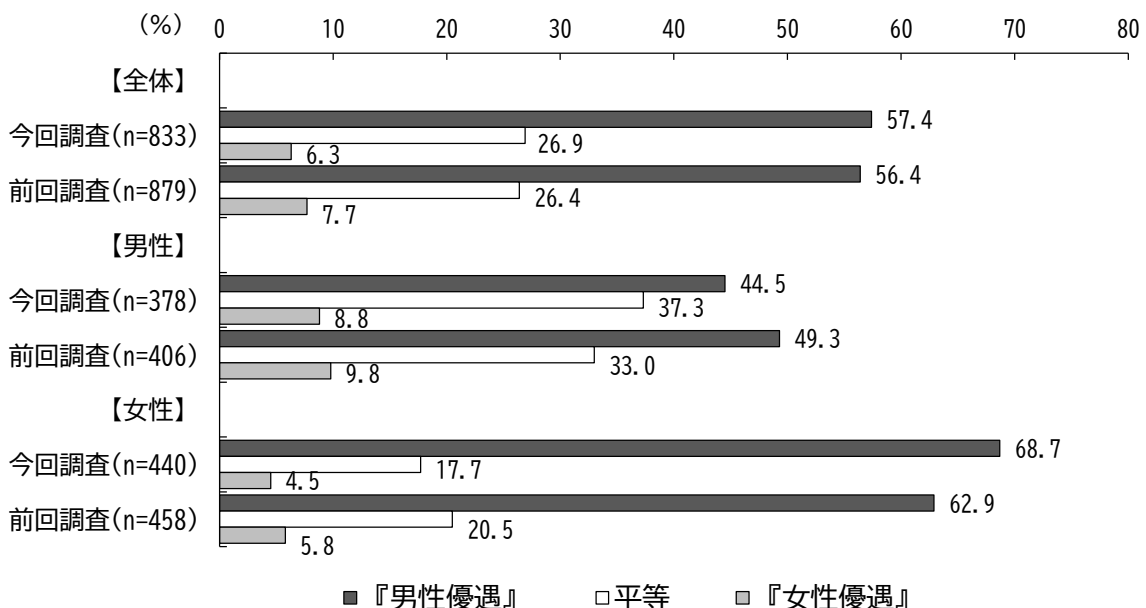
◎前回調査との比較（男女平等について①家庭生活）

◆前回調査と比較すると、男性で『男性優遇』が減少する一方、女性で『男性優遇』が増加。

男女平等について①家庭生活【前回調査との比較】



男女平等について①家庭生活【前回調査からの推移】



## ②地域活動の場

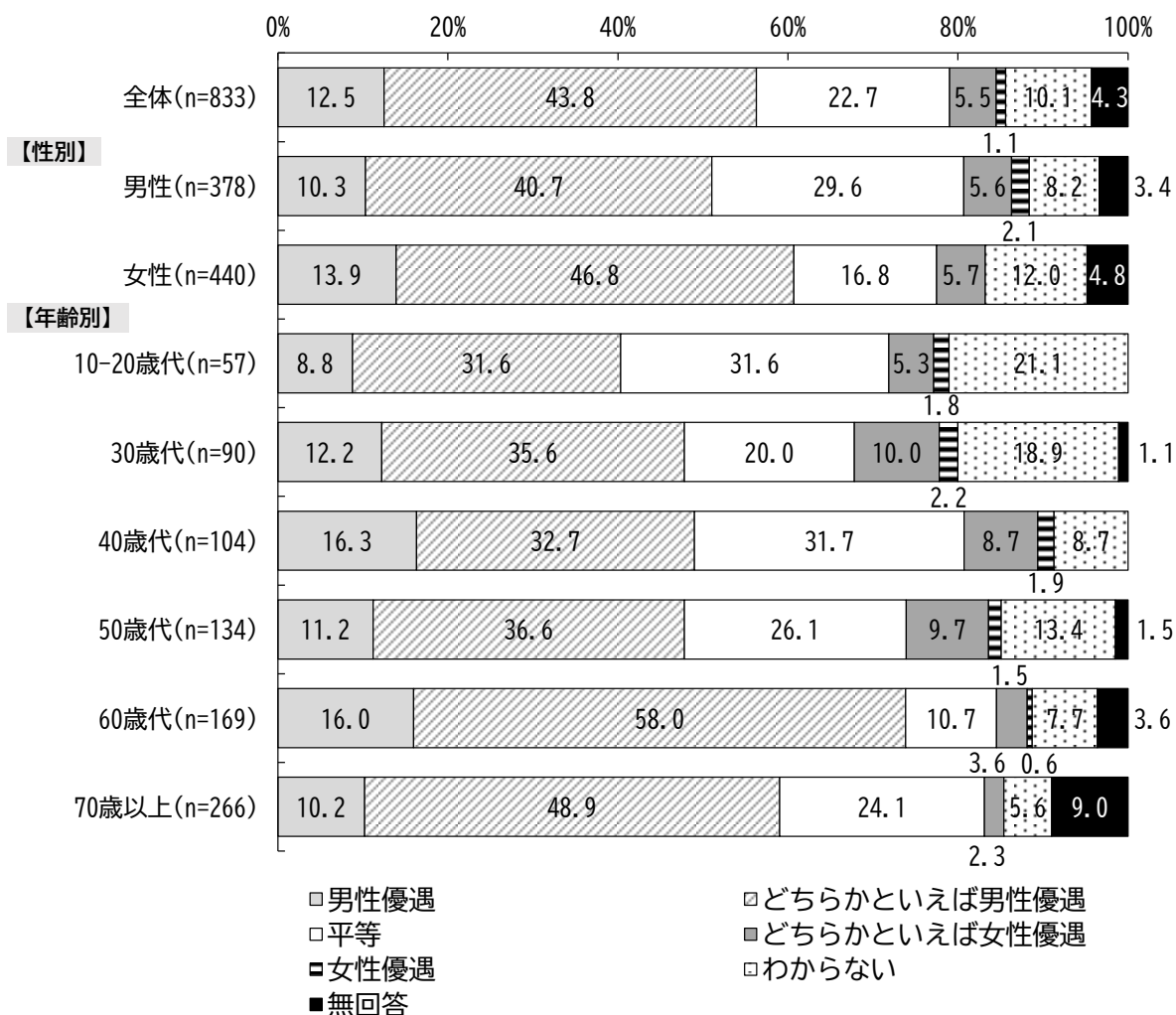
◆60歳代、70歳以上で『男性優遇』の割合が多い。

地域活動の場では、『男性優遇』が56.3%、「平等」が22.7%、『女性優遇』が6.6%、「わからない」が5.9%となっています。

性別で見ると、「平等」と回答する割合は、男性で29.6%、女性で16.8%となっています。

年齢別で見ると、「平等」は40歳代(31.7%)、10-20歳代(31.6%)で多く、『男性優遇』は60歳代(74.0%)、70歳以上(59.1%)で多くなっています。

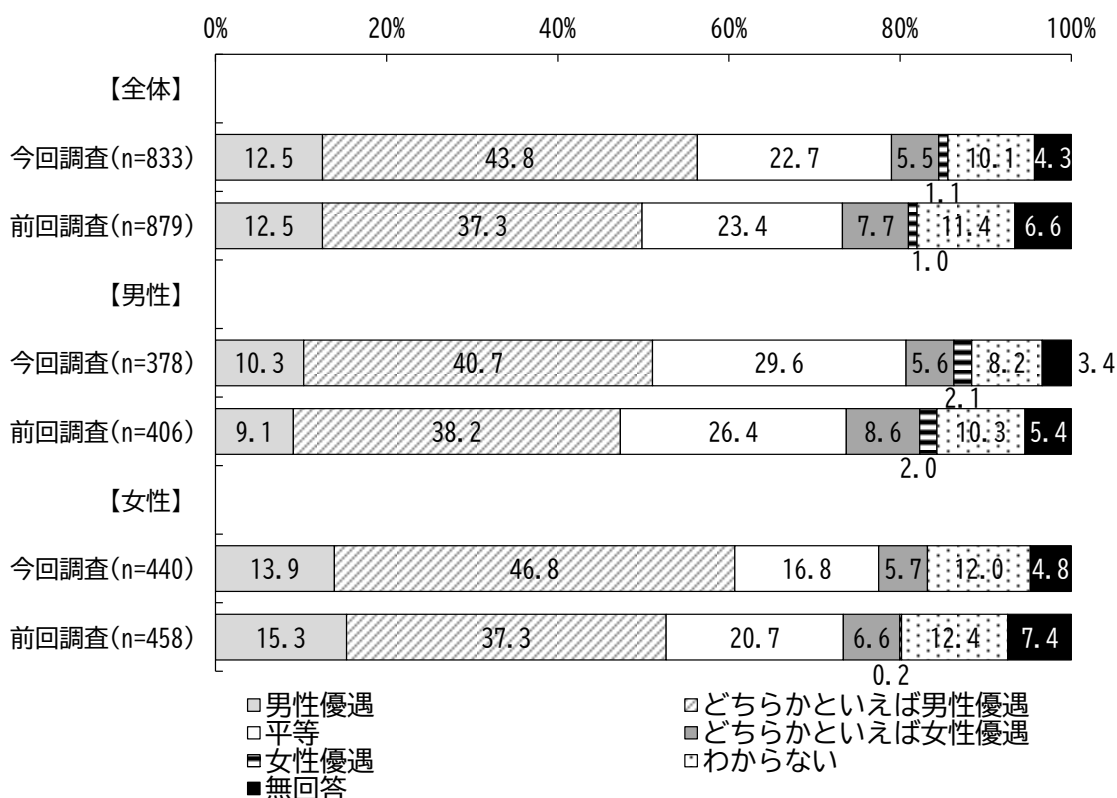
男女平等について②地域活動の場【全体、性別、年齢別】



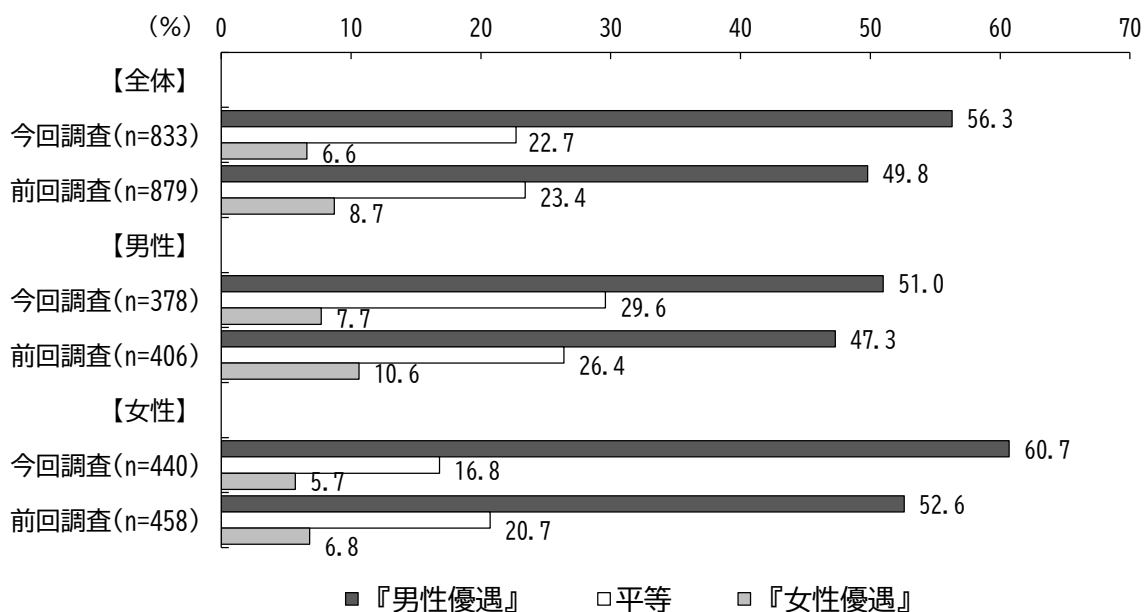
◎前回調査との比較（男女平等について②地域活動の場）

◆前回調査と比較すると、全体、男性、女性ともに『男性優遇』が増加。

男女平等について②地域活動の場【前回調査との比較】



男女平等について②地域活動の場【前回調査からの推移】



### ③職場

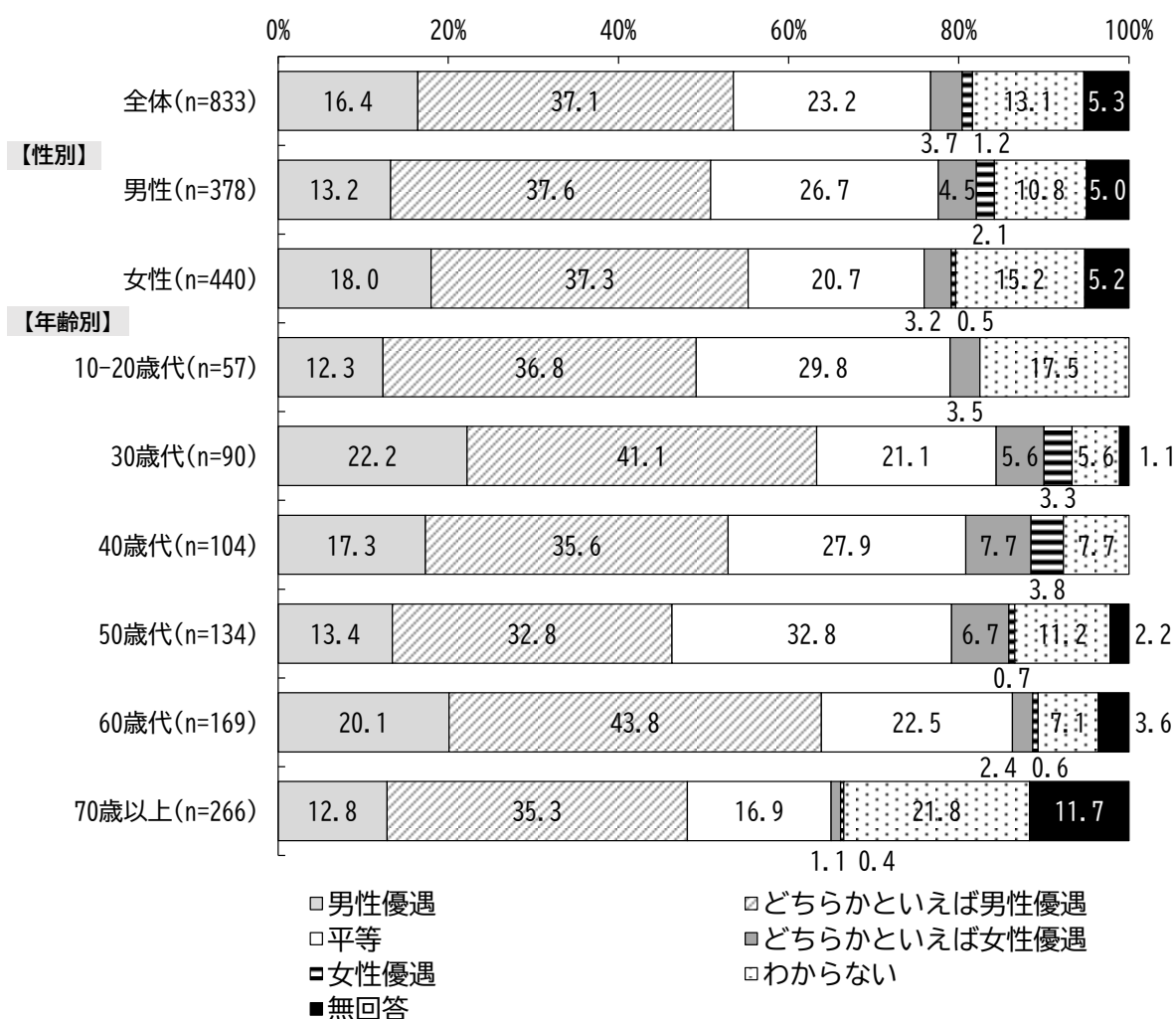
◆30歳代、60歳代で『男性優遇』の割合が多い。

職場では、『男性優遇』が53.5%、「平等」が23.2%、「わからない」が13.1%、『女性優遇』が4.9%となっています。

性別で見ると、「平等」と回答する割合は、男性で26.7%、女性で20.7%となっています。

年齢別で見ると、「平等」は50歳代(32.8%)で最も多く、『男性優遇』は60歳代(63.9%)、30歳代(63.3%)で多くなっています。

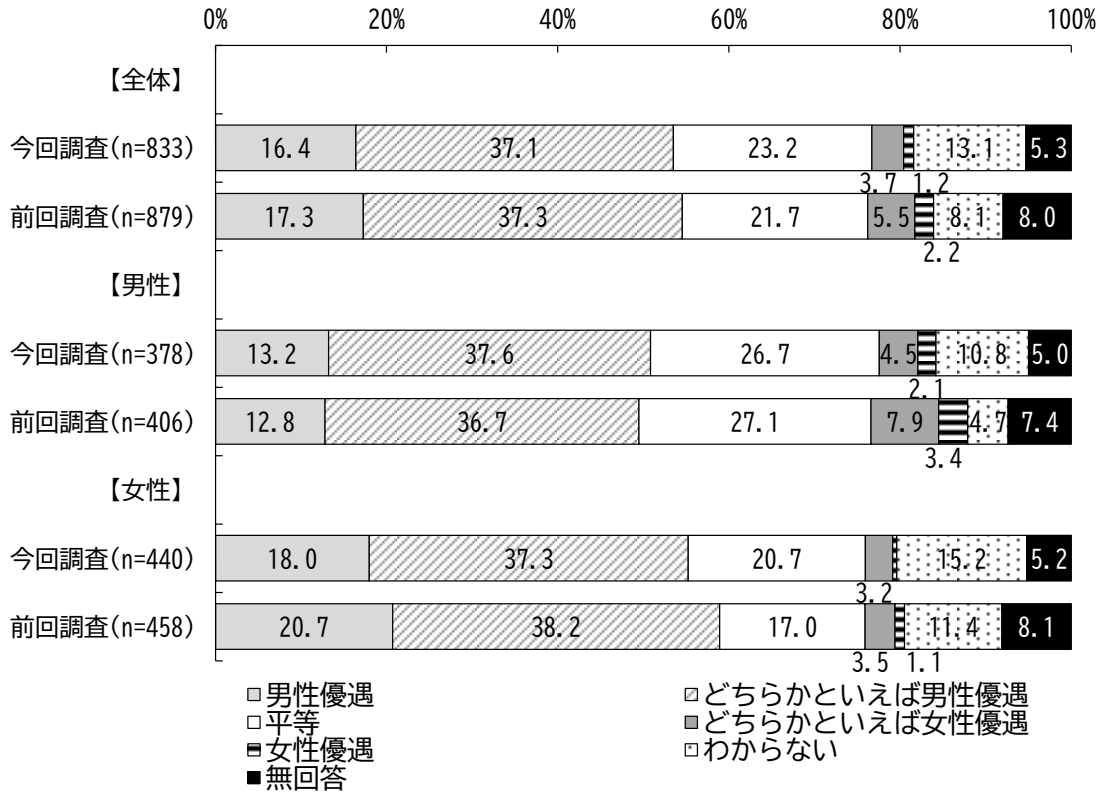
男女平等について③職場【全体、性別、年齢別】



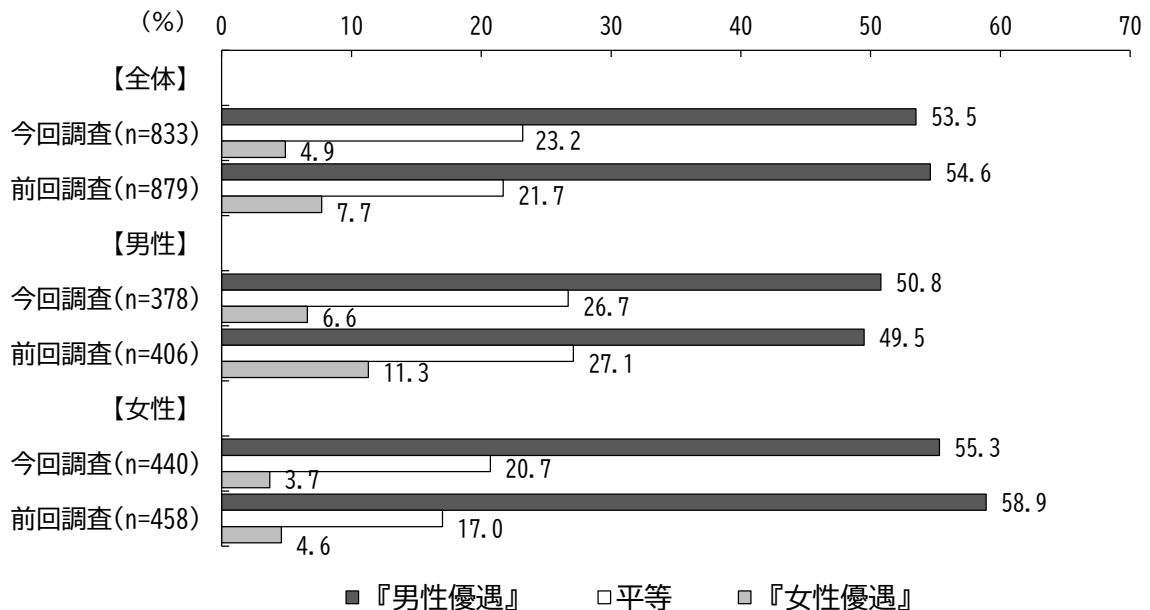
◎前回調査との比較（男女平等について③職場）

◆前回調査と比較すると、女性で『男性優遇』が減少し、「平等」が増加。

男女平等について③職場【前回調査との比較】



男女平等について③職場【前回調査からの推移】



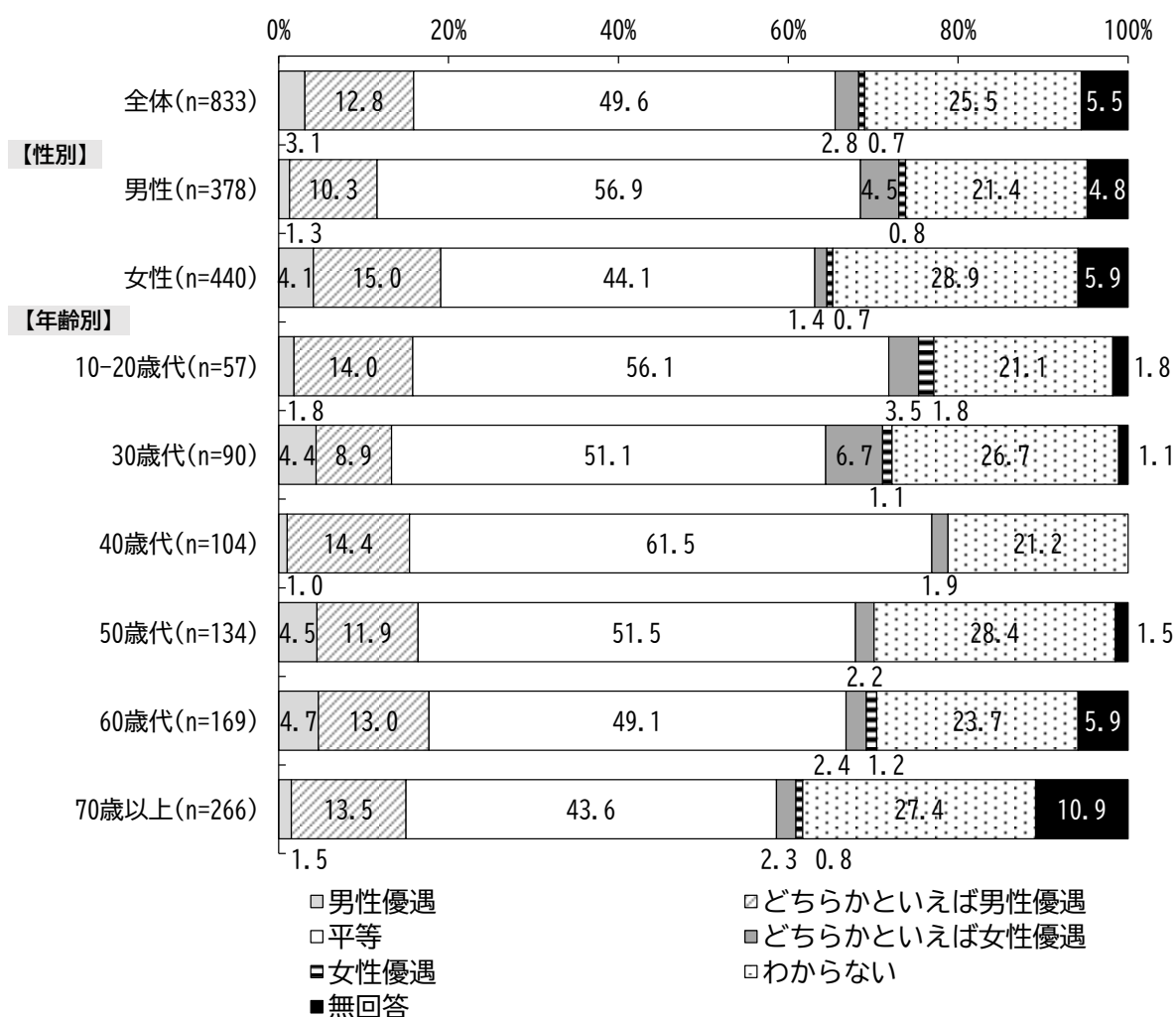
#### ④学校教育の場

◆設定した8つの項目の中で「平等」の割合が最も多い。

学校教育の場では、「平等」が49.6%と設定した8つの項目の中で最も多くなっており、『男性優遇』が15.9%にとどまります。

性別で「平等」と回答する割合は、男性で56.9%、女性で44.1%と多数を占めています。年齢別でみると、「平等」は40歳代（61.5%）で最も多くなっています。

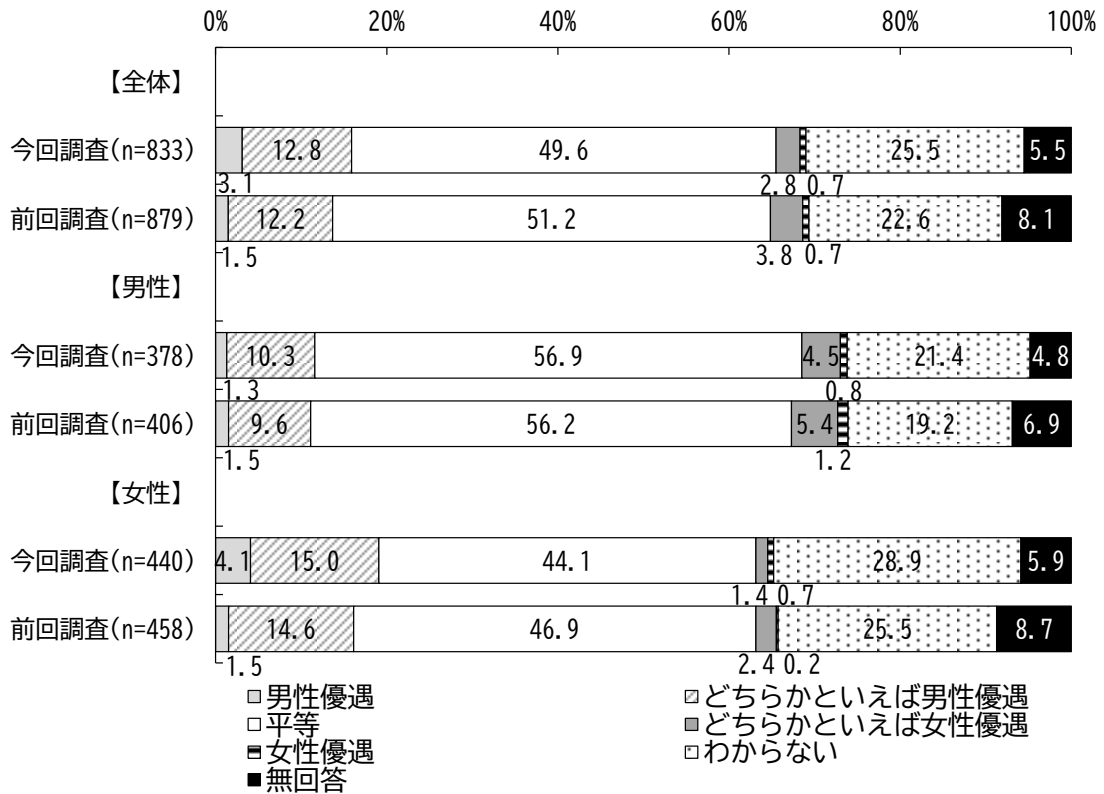
男女平等について④学校教育の場【全体、性別、年齢別】



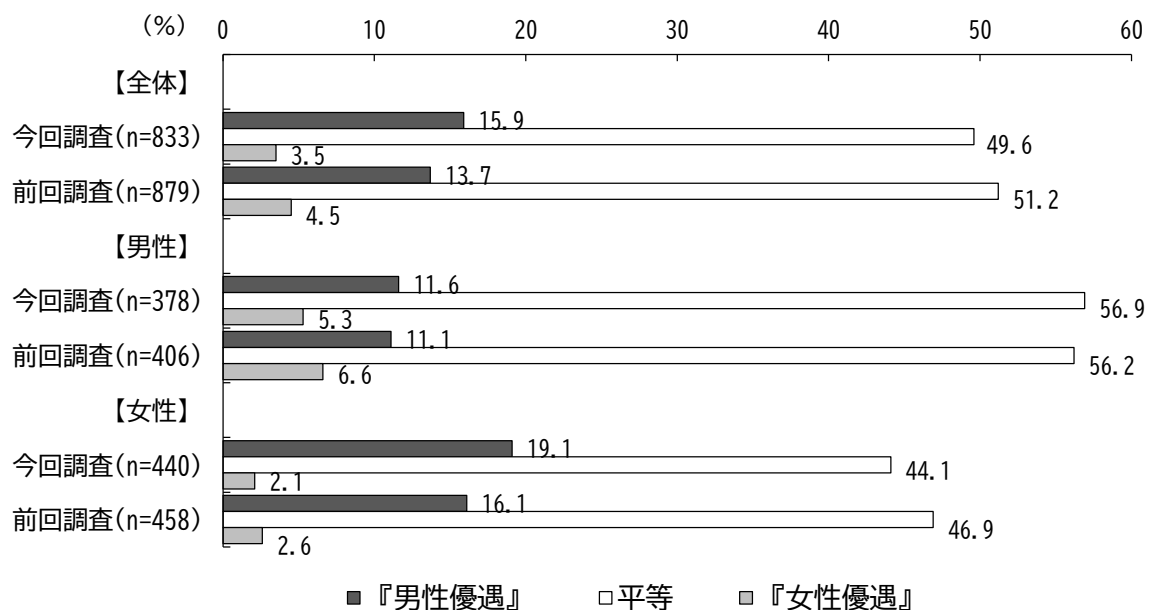
◎前回調査との比較（男女平等について④学校教育の場）

◆前回調査と比較すると、女性で「平等」が減少、『男性優遇』が増加。

男女平等について④学校教育の場【前回調査との比較】



男女平等について④学校教育の場【前回調査からの推移】



## ⑤政治の場

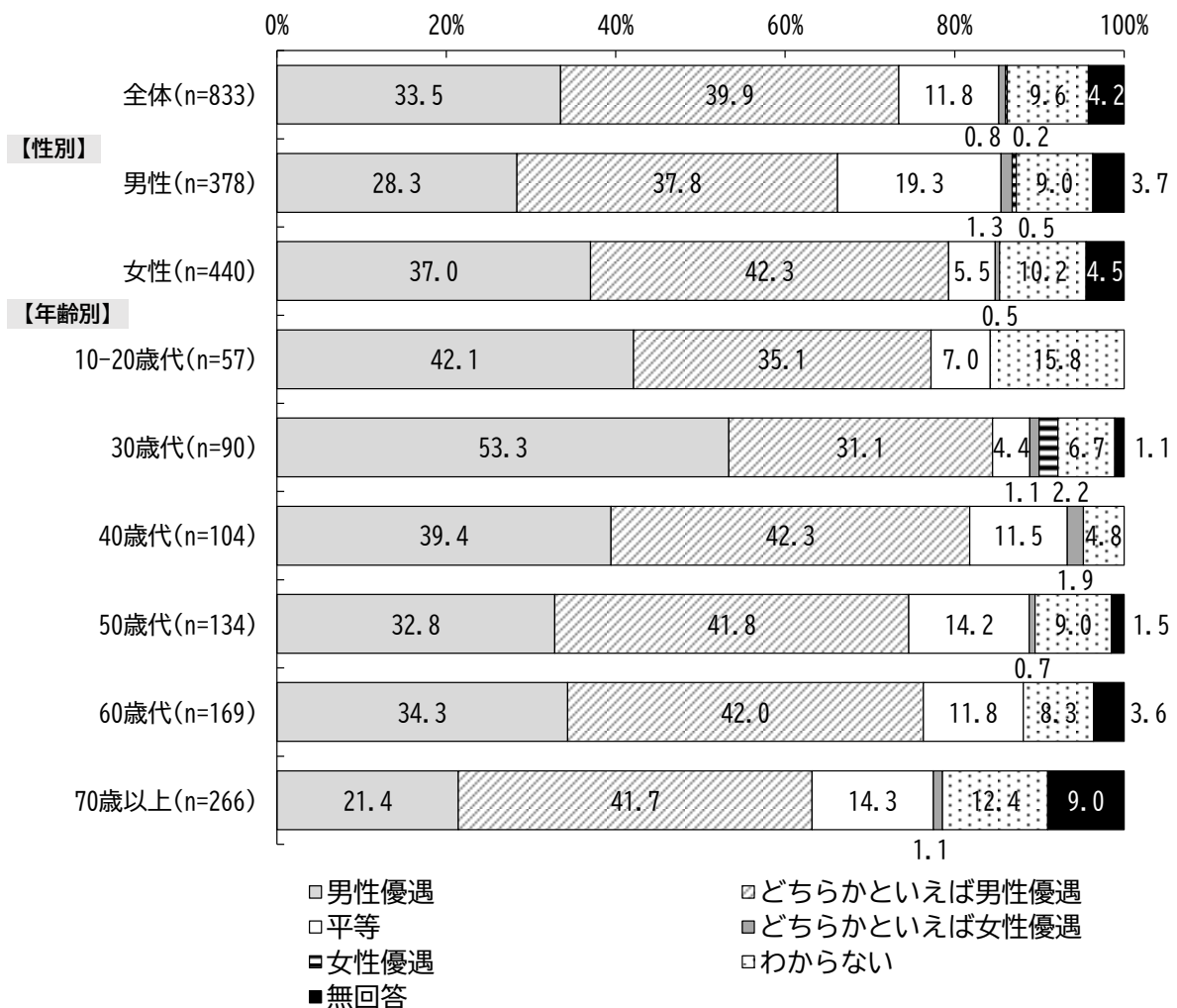
◆設定した8つの項目の中で「平等」と回答する割合が最も少ない。

政治の場では、『男性優遇』が73.4%、「平等」が11.8%、「わからない」が9.6%、『女性優遇』が1.0%となっており、設定した8つの項目の中で「平等」と回答する割合が最も少なくなっています。

性別でみると、「平等」と回答する割合は、男性で19.3%、女性で5.5%となっています。

年齢別でみると、「平等」は最も多い70歳以上でも14.3%にとどまり、『男性優遇』は30歳代で84.4%と最も多くなっています。

男女平等について⑤政治の場【全体、性別、年齢別】

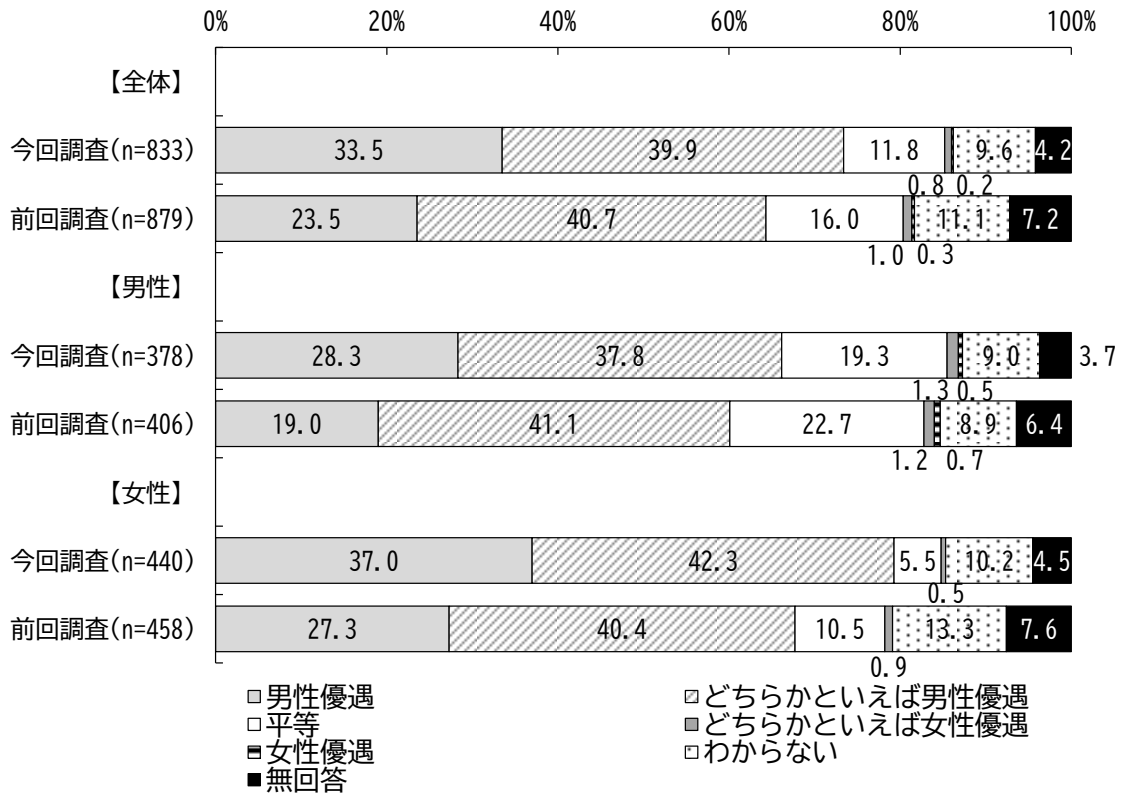




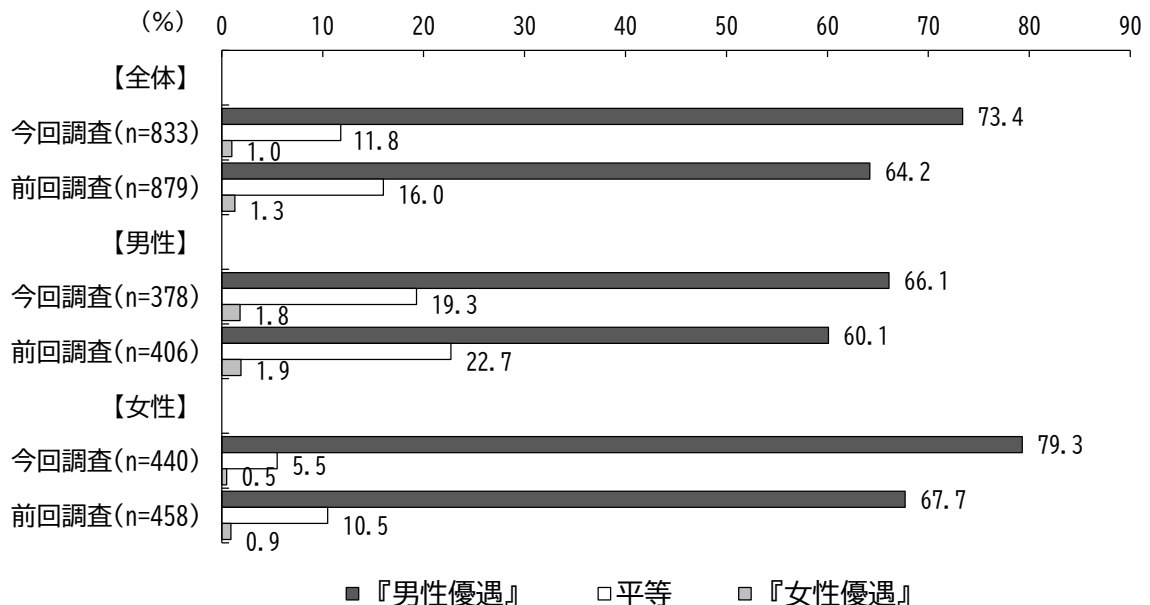
◎前回調査との比較（男女平等について⑤政治の場）

◆前回調査と比較すると、全体、男性、女性ともに『男性優遇』が増加。

男女平等について⑤政治の場【前回調査との比較】



男女平等について⑤政治の場【前回調査からの推移】



## ⑥法律や制度の上

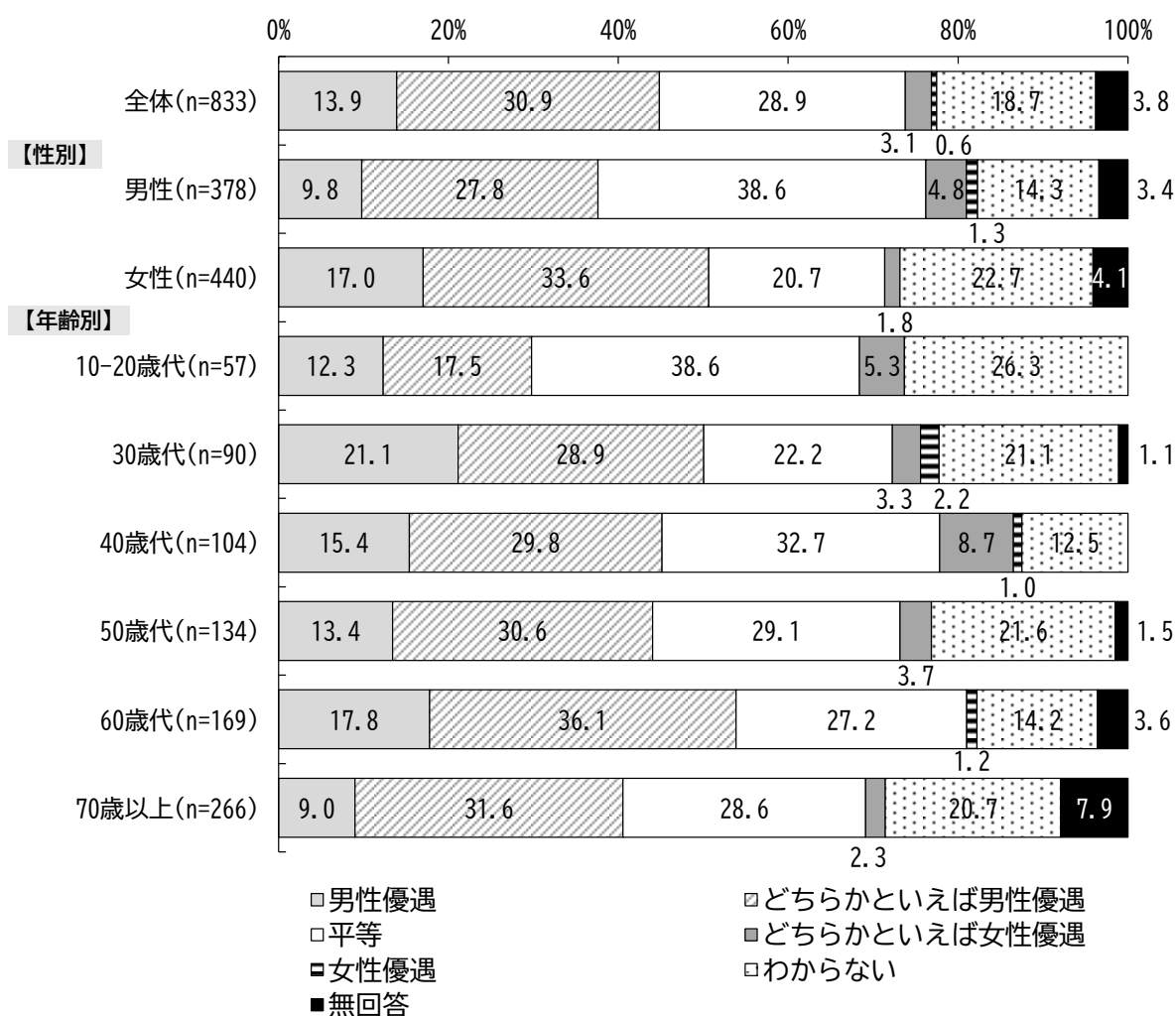
◆「平等」と回答する割合の男女差が比較的大きい。

法律や制度の上では、『男性優遇』が44.8%、「平等」が28.9%、「わからない」が18.7%、『女性優遇』が3.7%となっています。

性別で見ると、「平等」と回答する割合は、男性で38.6%、女性で20.7%と約18ポイントの差があり、①家庭生活に次いで男女差が大きい項目となっています。

年齢別で見ると、「平等」は10-20歳代(38.6%)で最も多く、『男性優遇』は60歳代(53.9%)、30歳代(50.0%)で多くなっています。

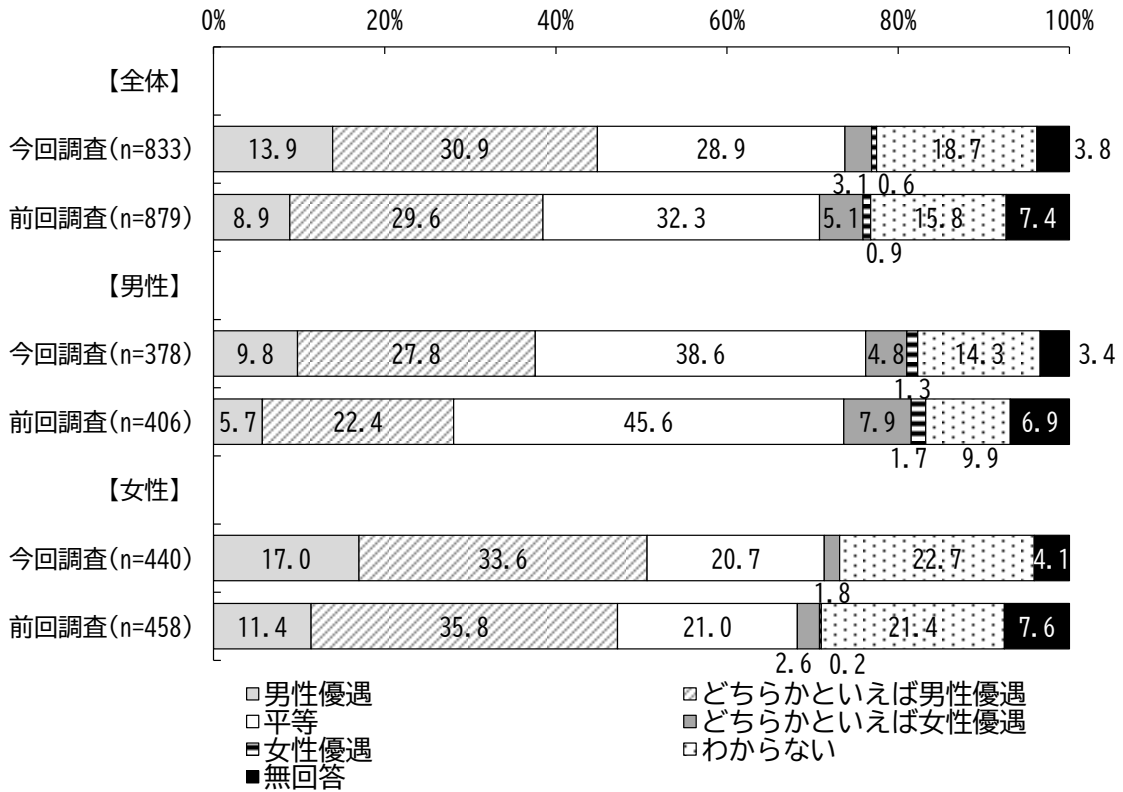
男女平等について⑥法律や制度の上【全体、性別、年齢別】



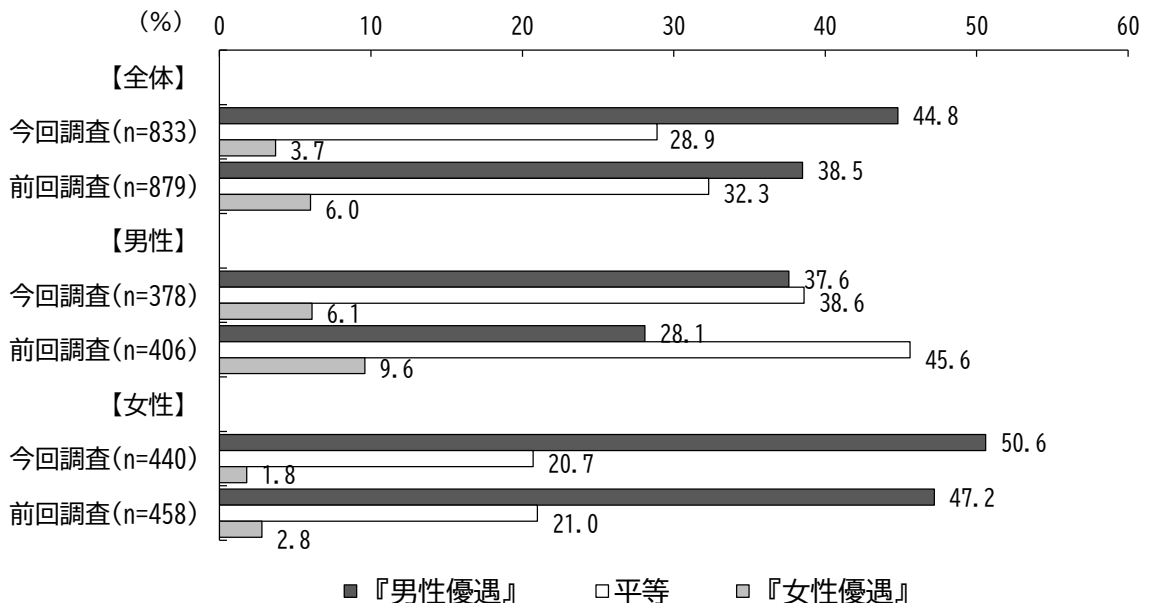
◎前回調査との比較（男女平等について⑥法律や制度の上）

◆前回調査と比較すると、全体、男性、女性ともに『男性優遇』が増加。

男女平等について⑥法律や制度の上【前回調査との比較】



男女平等について⑥法律や制度の上【前回調査からの推移】



## ⑦社会通念・慣習など

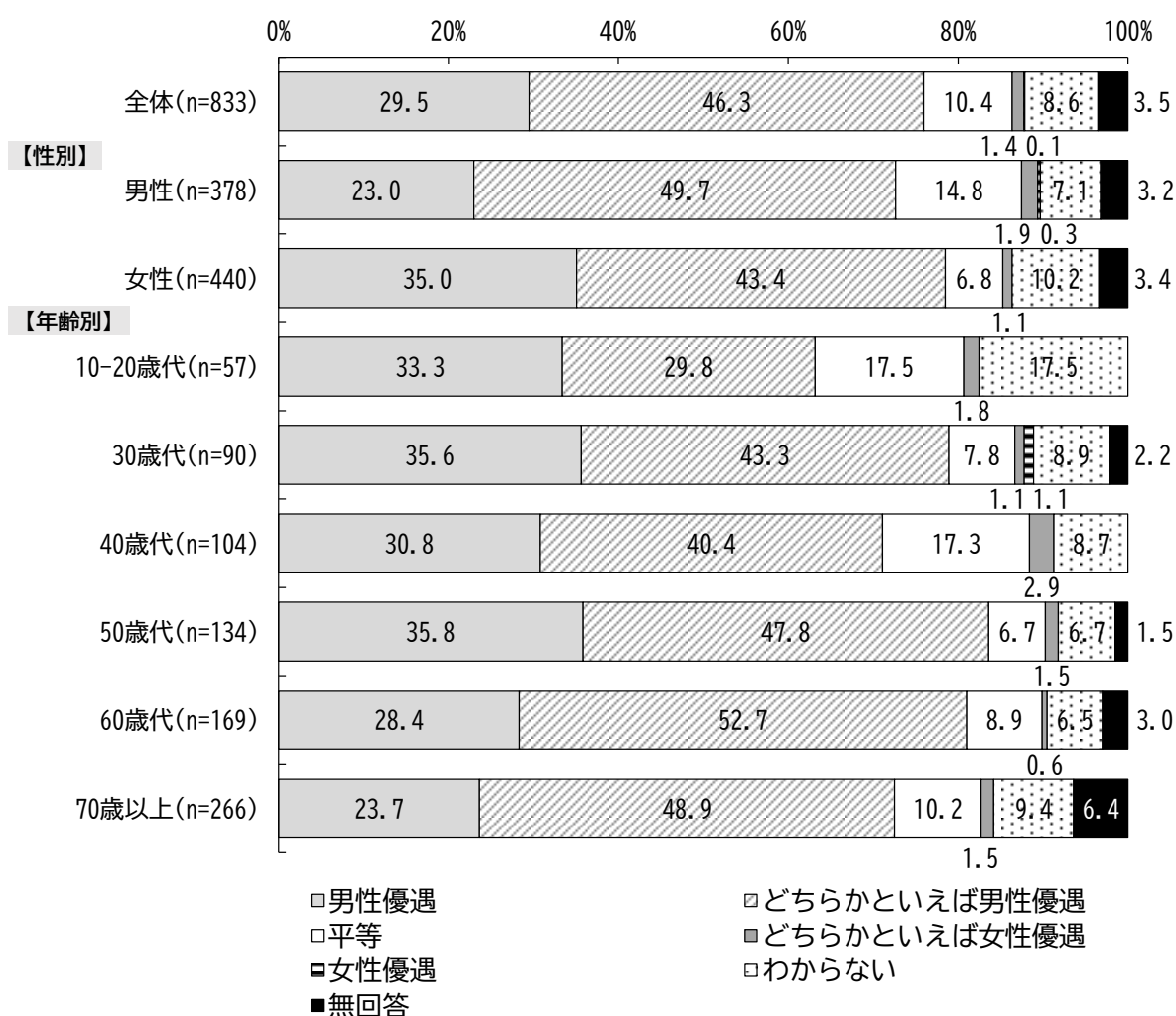
◆8つの項目の中で『男性優遇』と回答する割合が最も多い。

社会通念・慣習などでは、『男性優遇』が75.8%と設定した8つの項目の中で『男性優遇』と回答する割合が最も多くなっており、「平等」は10.4%にとどまります。

性別でも、『男性優遇』と回答する割合が女性で78.4%、男性で72.7%と多くなっています。

年齢別で『男性優遇』の割合をみると、50歳代（83.6%）、60歳代（81.1%）で8割を超えています。

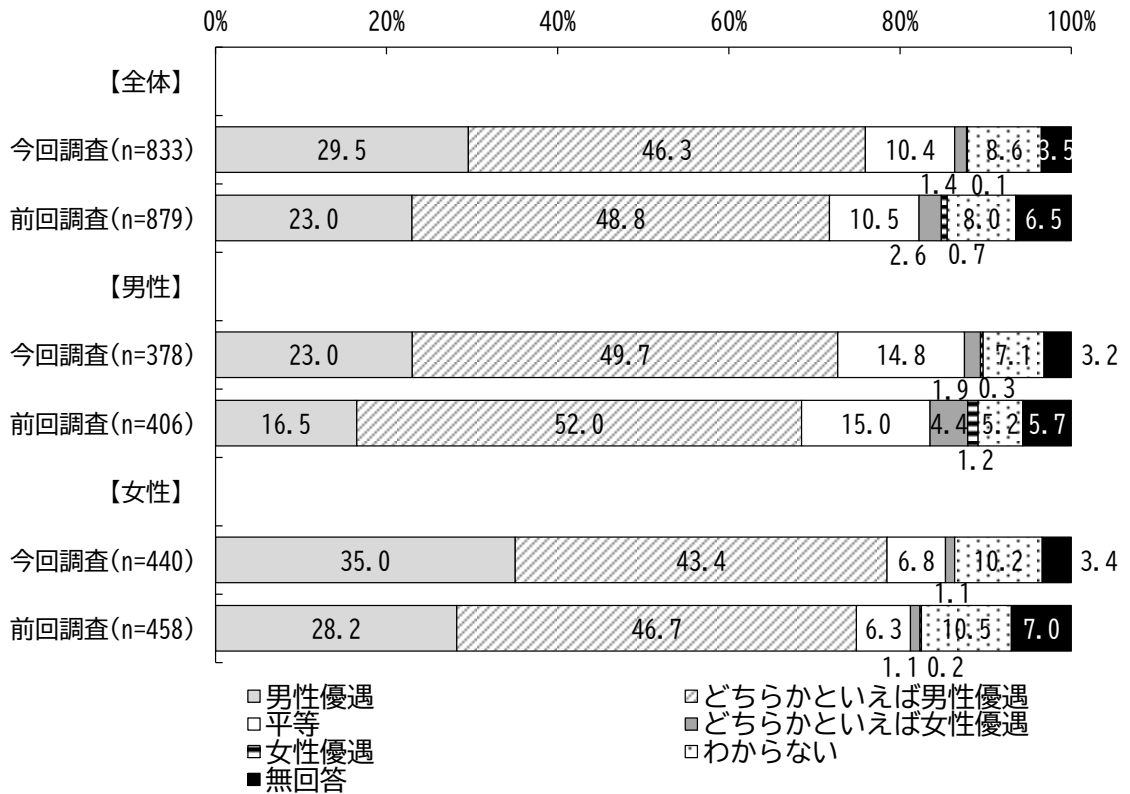
男女平等について⑦社会通念・慣習など【全体、性別、年齢別】



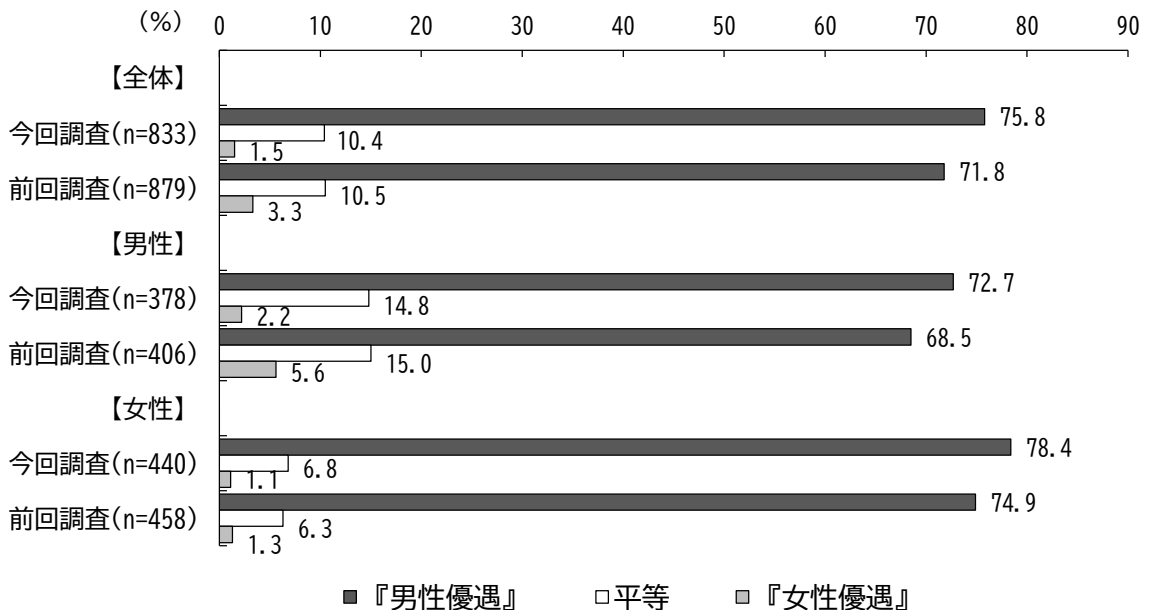
◎前回調査との比較（男女平等について⑦社会通念・慣習など）

◆前回調査と比較すると、全体、男性、女性ともに『男性優遇』が増加。

男女平等について⑦社会通念・慣習など【前回調査との比較】



男女平等について⑦社会通念・慣習など【前回調査からの推移】



## ⑧社会全体

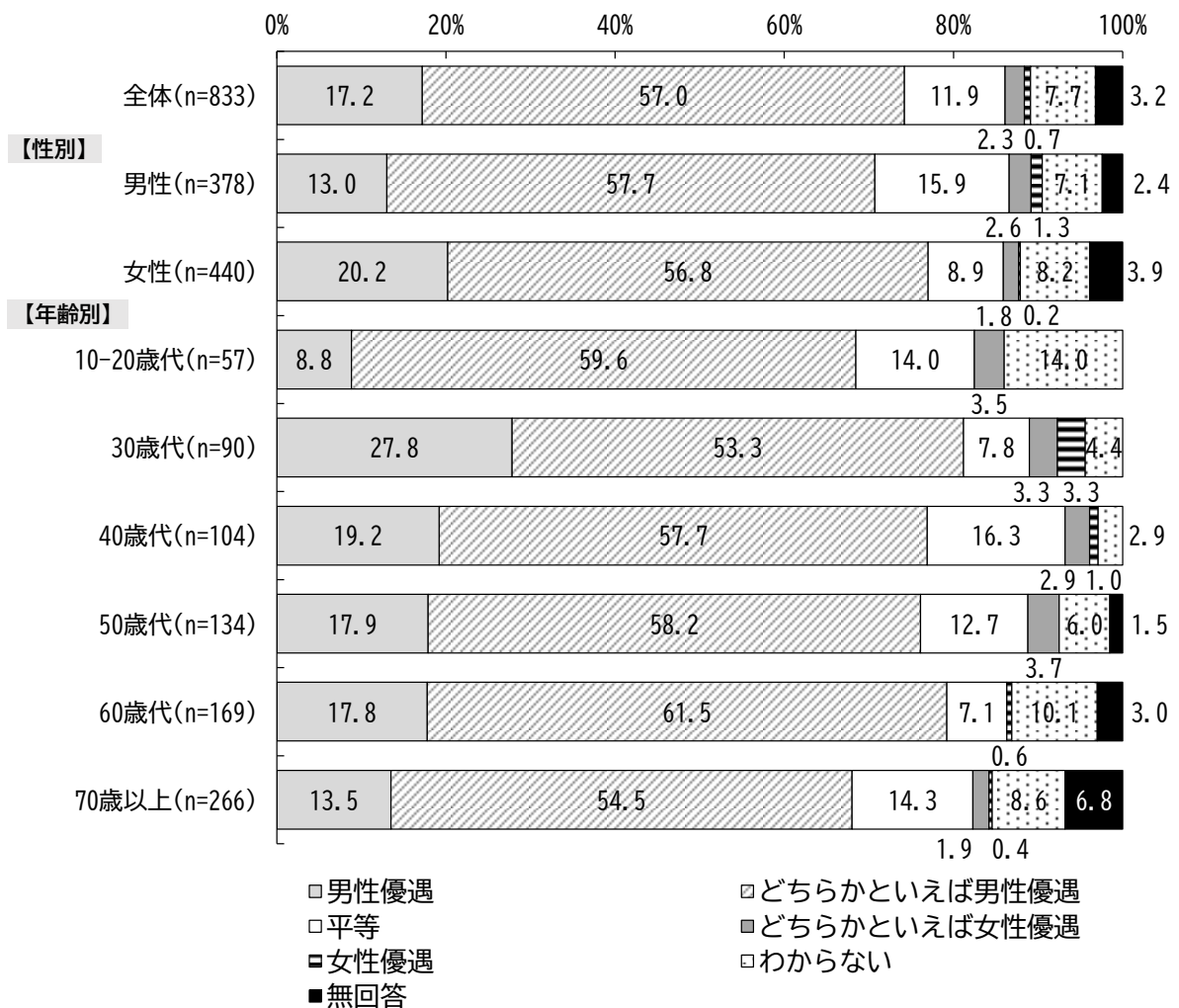
◆『男性優遇』と回答する割合が女性で8割弱。

社会全体では、『男性優遇』が74.2%と7割以上を占め、「平等」は11.9%にとどまります。

性別でも、『男性優遇』と回答する割合が女性で77.0%と8割弱、男性で70.7%と約7割となっています。

年齢別で『男性優遇』の割合をみると、30歳代(81.1%)、60歳代(79.3%)で約8割となっています。

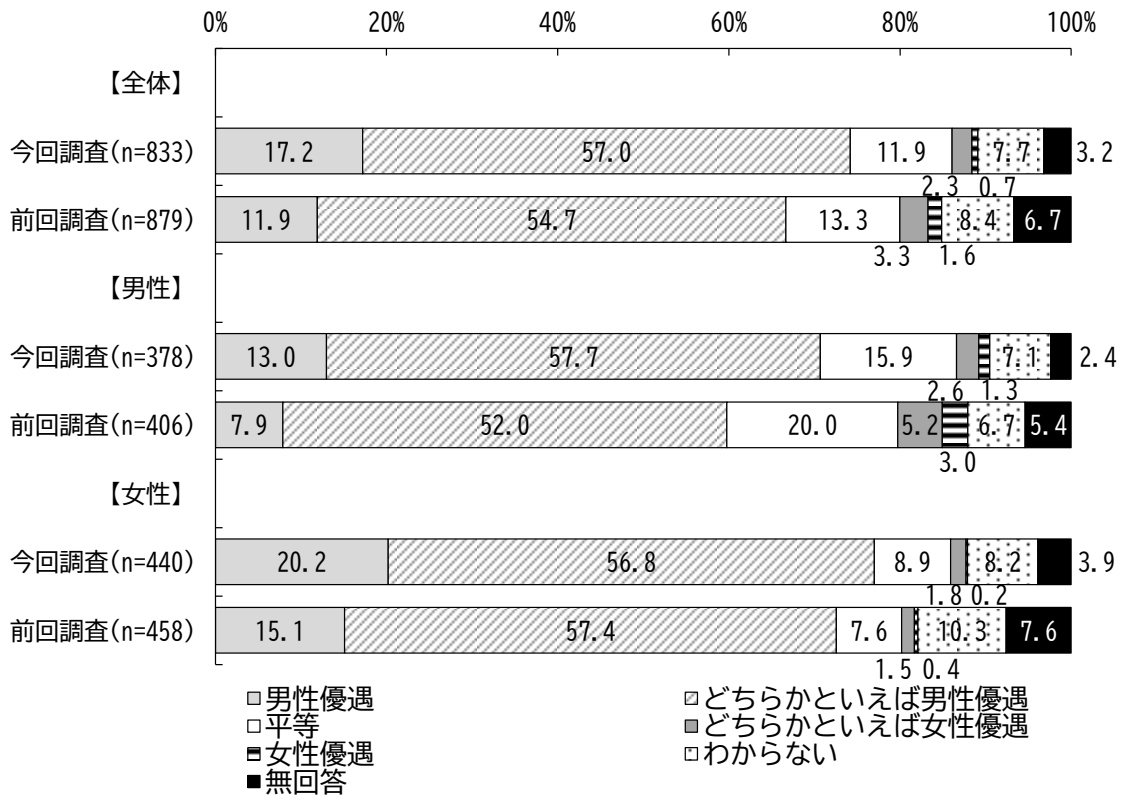
男女平等について⑧社会全体【全体、性別、年齢別】



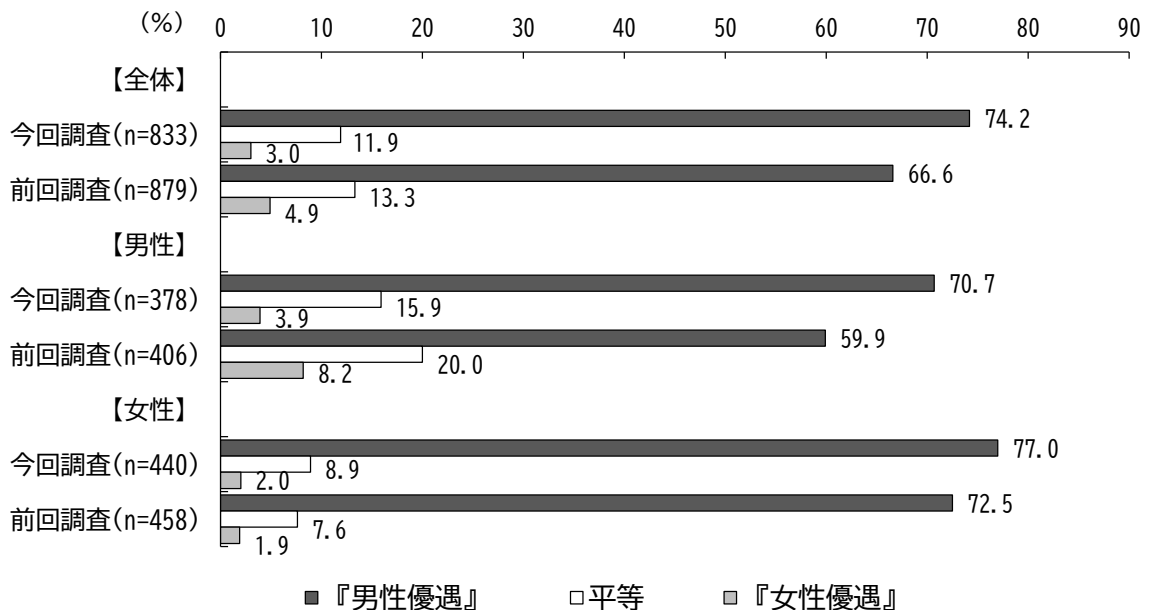
◎前回調査との比較（男女平等について⑧社会全体）

◆前回調査と比較すると、全体、男性、女性ともに『男性優遇』が増加。

男女平等について⑧社会全体【前回調査との比較】



男女平等について⑧社会全体【前回調査からの推移】



#### (4) 男女平等に必要なこと

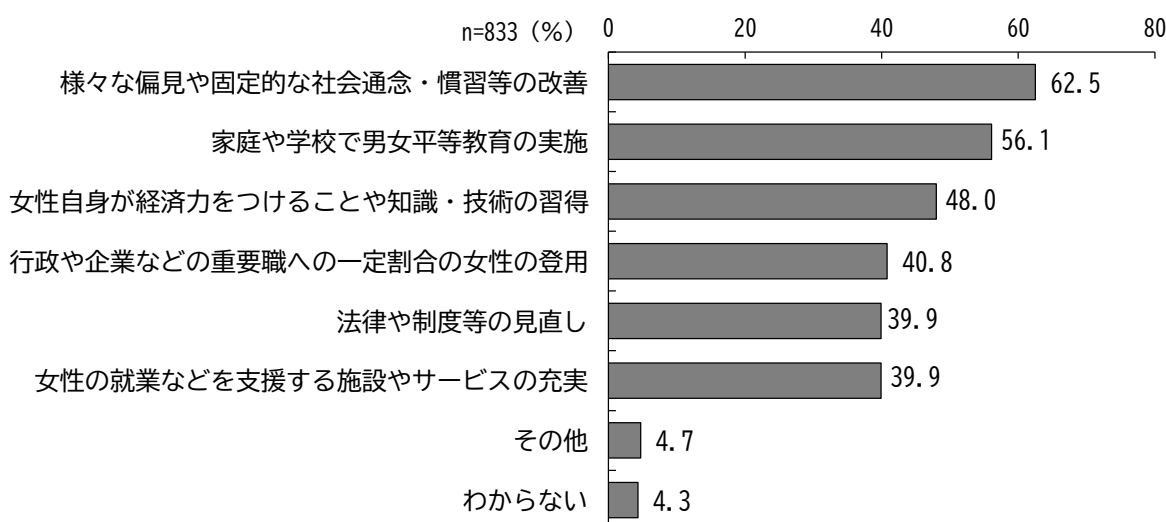
問9 今後、男女が社会のあらゆる分野でもっと平等になるためには、何が重要だと思いますか。【複数回答】

◆「様々な偏見や固定的な社会通念・慣習等の改善」が最も多く、次いで「家庭や学校で男女平等教育の実施」が続く。

男女平等に必要なことについては、「様々な偏見や固定的な社会通念・慣習等の改善」が62.5%で最も多く、次いで「家庭や学校で男女平等教育の実施」(56.1%)、「女性自身が経済力をつけることや知識・技術の習得」(48.0%)が続きます。

性別、年齢別でも、すべての層で「様々な偏見や固定的な社会通念・慣習等の改善」及び「家庭や学校で男女平等教育の実施」が上位を占めています。

男女平等に必要なこと【全体／複数回答】



男女平等に必要なこと【全体、性別、年齢別／複数回答】

	割合 (%)	習的な	直法	識を女	サ支女	合重行	平家	その他	わからない
		等々の社会通念や慣習等の改善	し律や制度等の見直し	女性自身のが習得や知識	支援性の就業者の充実に	行政や企業への登用などの割合	家庭や学校での実施男女		
全体(n=833)	62.5	39.9	48.0	39.9	40.8	56.1	4.7	4.3	
性別	男性(n=378)	60.1	40.5	43.4	33.1	45.2	51.3	6.1	5.3
	女性(n=440)	64.5	38.4	52.5	45.9	37.3	60.0	3.4	3.6
年齢別	10-20歳代(n=57)	63.2	31.6	36.8	40.4	38.6	57.9	7.0	8.8
	30歳代(n=90)	61.1	45.6	47.8	37.8	46.7	58.9	6.7	3.3
	40歳代(n=104)	68.3	45.2	49.0	40.4	32.7	51.9	5.8	6.7
	50歳代(n=134)	67.2	38.8	48.5	41.8	41.0	59.7	2.2	1.5
	60歳代(n=169)	66.9	44.4	50.3	46.2	42.0	55.0	6.5	3.0
	70歳以上(n=266)	55.6	34.2	49.2	35.3	42.5	55.3	3.0	5.3

※第1位の回答は、第2位の回答は。



## 2. 家庭生活について

### (1) 家事分担の理想

問10 家事（掃除・洗濯、食事の支度・後片付けなど）は、どのように行うべきだと思いますか。

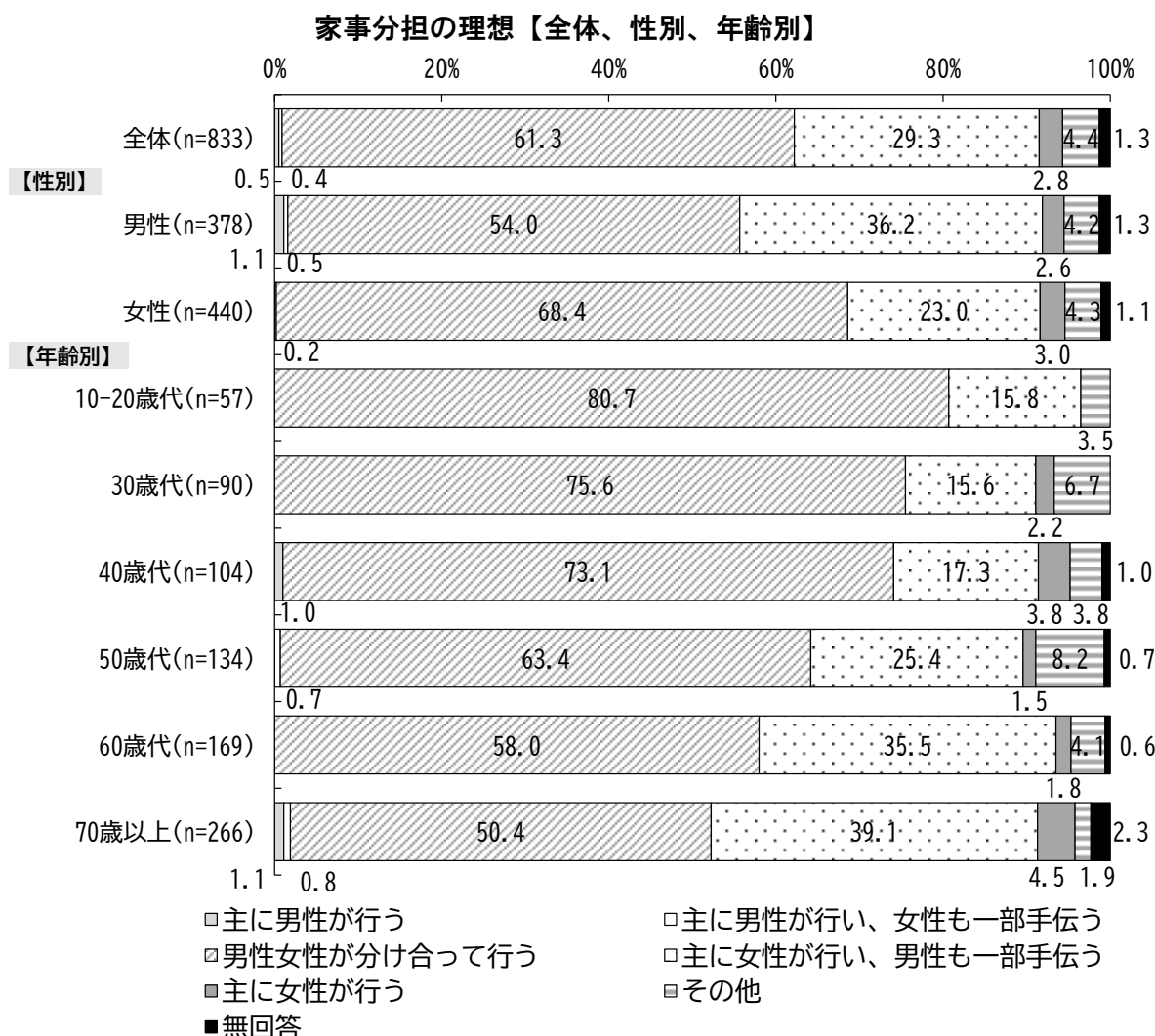
◆「男性女性が分け合って行う」が約6割を占め、「主に女性が行い、男性も一部手伝う」が約3割。

家事分担の理想としては、「男性女性が分け合って行う」が61.3%と約6割を占め、次いで「主に女性が行い、男性も一部手伝う」が29.3%と約3割で続きます。

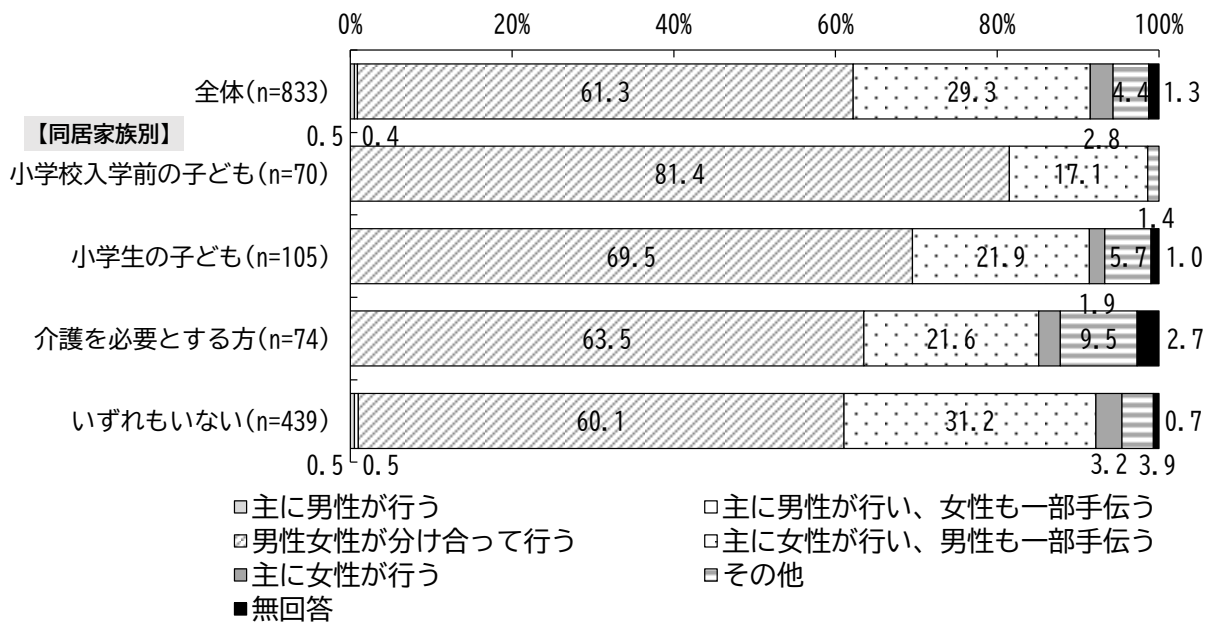
性別でみると、「男性女性が分け合って行う」の割合に大きな差がみられ、女性では68.4%となっている一方、男性では54.0%にとどまります。

年齢別でみると、年齢が若いほど「男性女性が分け合って行う」と回答する割合が多く、10-20歳代では80.7%と約8割となっている一方、70歳以上では50.4%にとどまり、「主に女性が行い、男性も一部手伝う」と回答する割合が39.1%と最も多くなっています。

同居家族別でみると、「男性女性が分け合って行う」と回答する割合は小学校入学前の子どもがいる世帯で81.4%と最も多くなっています。



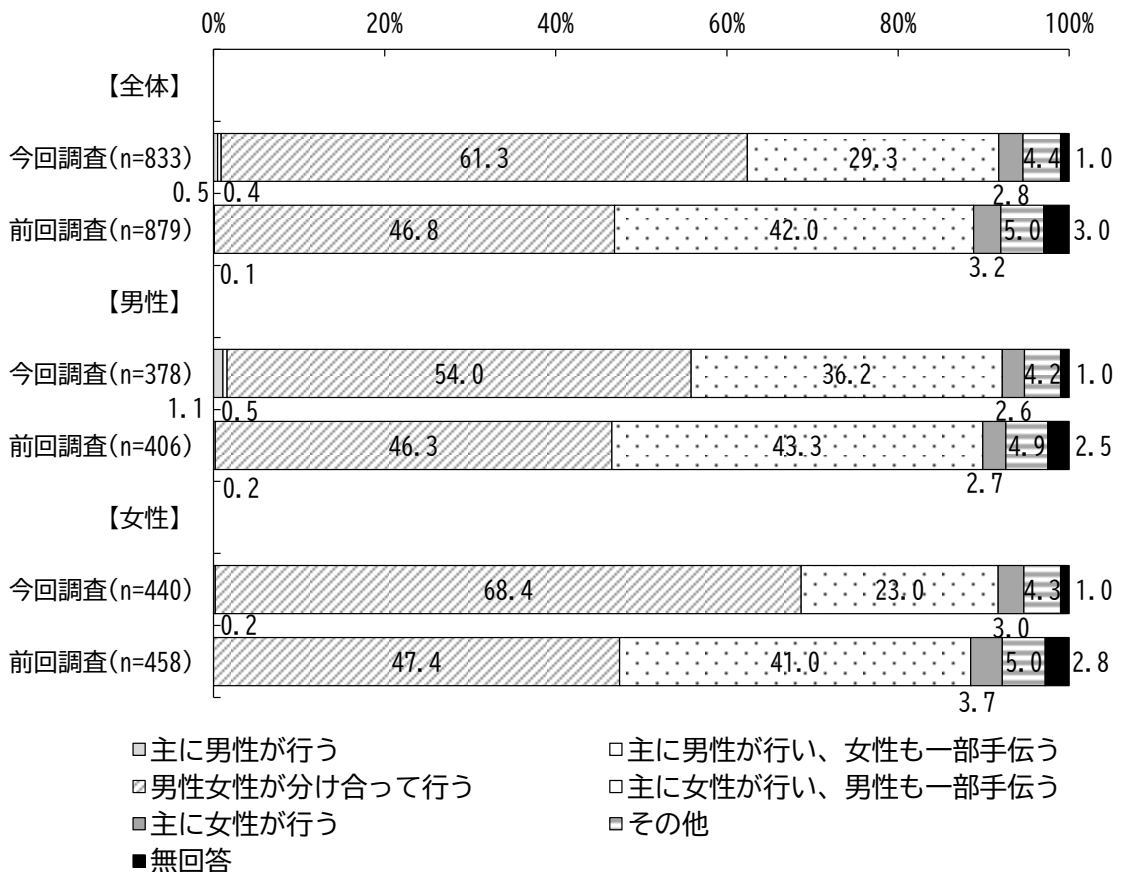
### 家事分担の理想【全体、同居家族別】



### ◎前回調査との比較（家事分担の理想）

◆前回調査と比較すると、全体、男性、女性ともに「男性女性が分け合って行う」が増加し、特に女性では21ポイント増加しています。

### 家事分担の理想【前回調査との比較】



## (2) 家事分担の現実

問11 あなたの家庭において家事（掃除・洗濯、食事の支度・後片付けなど）は主にだれが行っていますか。

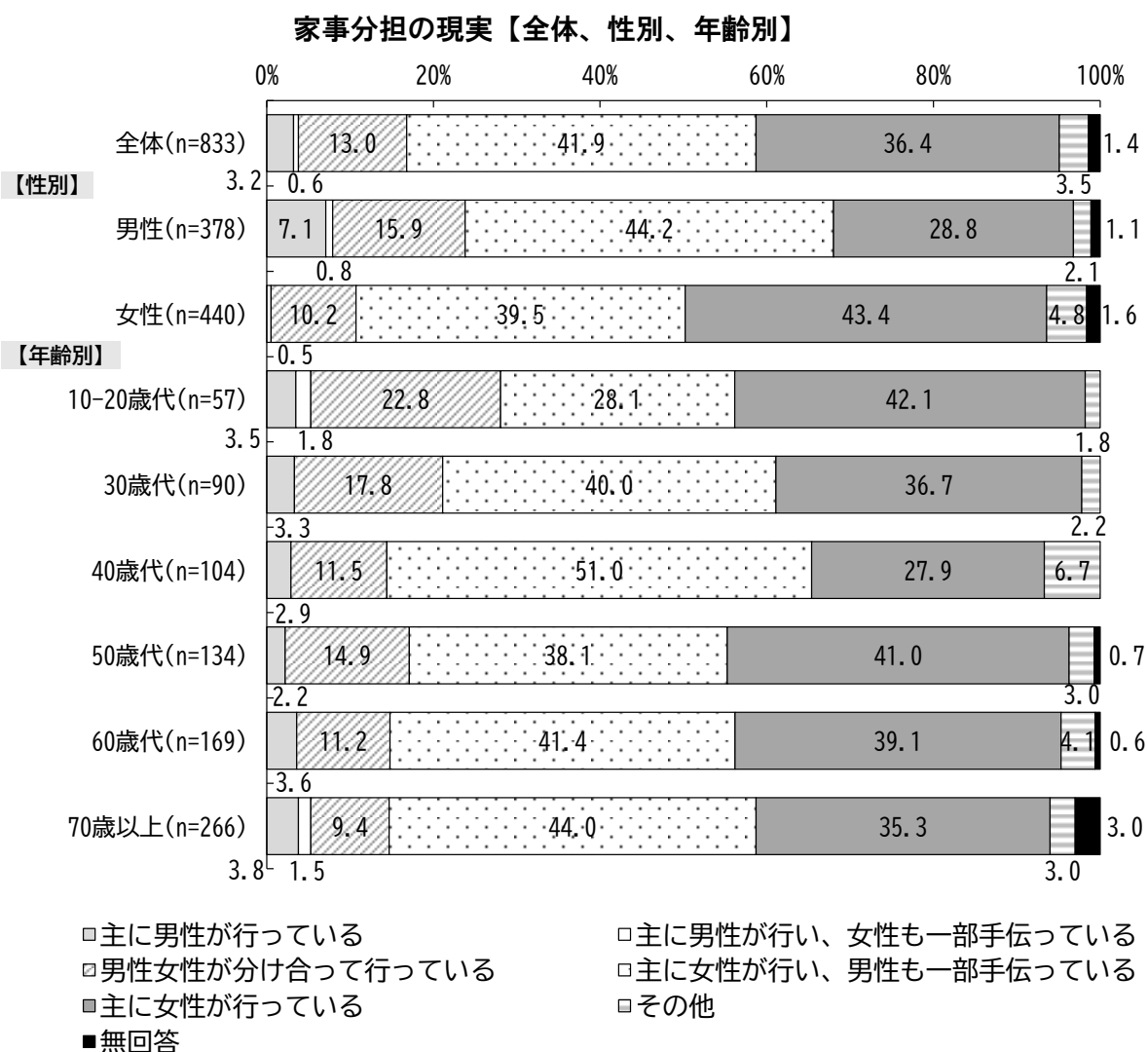
- ◆ 「主に女性が行い、男性も一部手伝っている」が約4割。
- ◆ 「男性女性が分け合って行う」は理想では61.3%、現実では13.0%。

家事分担の現実としては、「主に女性が行い、男性も一部手伝っている」が41.9%と約4割を占め、次いで「主に女性が行っている」が36.4%となっています。また、「男性女性が分け合って行う」は理想では61.3%となっていました、現実では13.0%にとどまります。

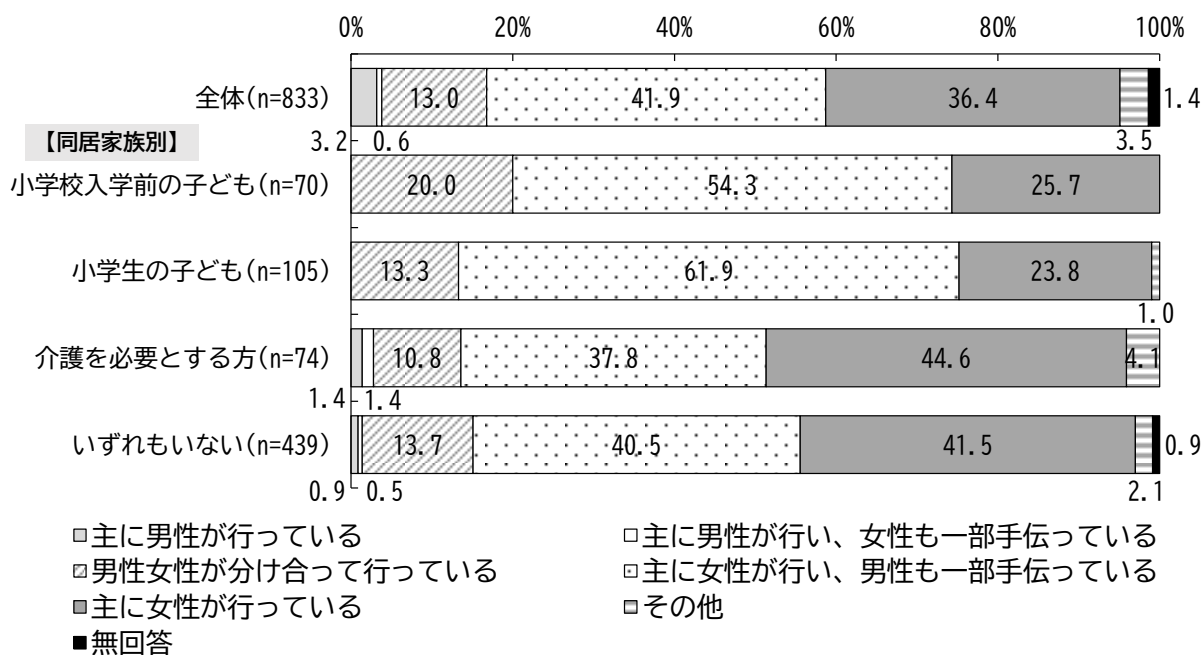
性別で見ると、「主に女性が行っている」と回答する割合に大きな差がみられ、女性では43.4%となっている一方、男性では28.8%にとどまります。

年齢別で見ると、「主に女性が行い、男性も一部手伝っている」は40歳代で51.0%と最も多くなっています。

同居家族別で見ると、小学校入学前の子どもがいる世帯で「男性女性が分け合って行う」（20.0%）、介護を必要とする方のいる世帯では「主に女性が行っている」（44.6%）と回答する割合が比較的多くなっています。



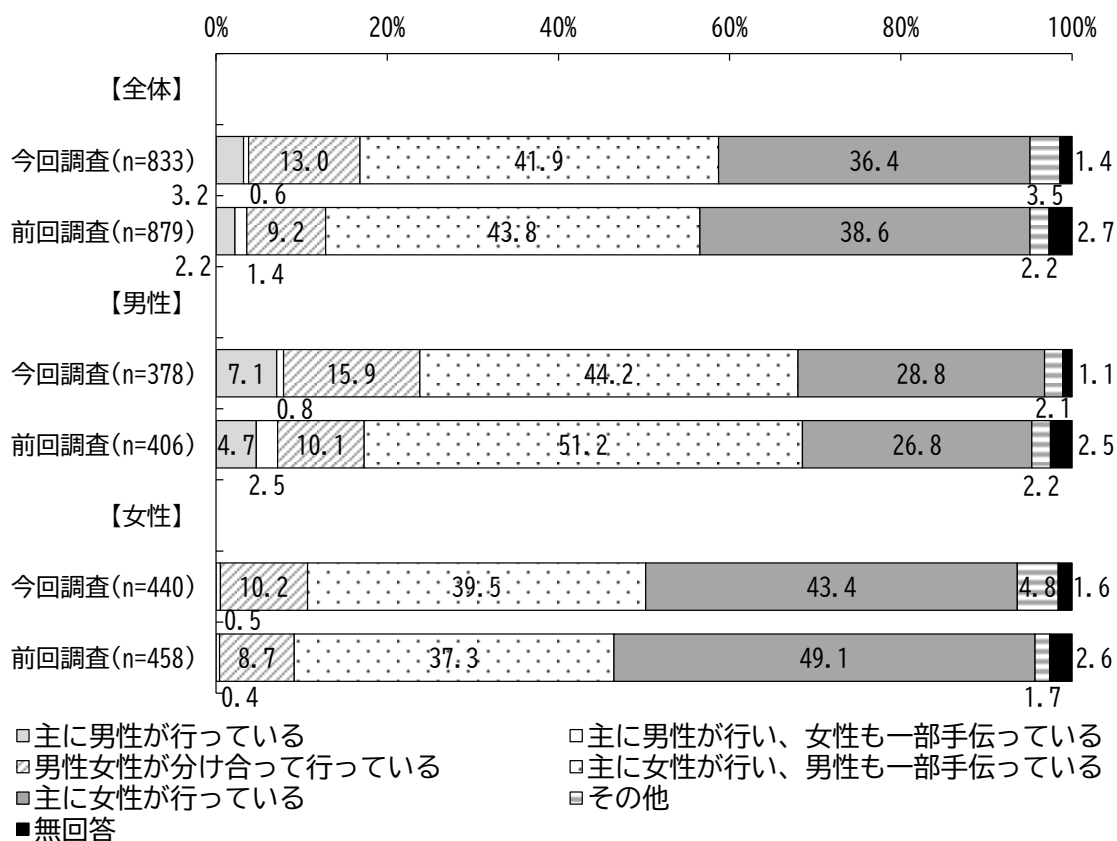
### 家事分担の現実【全体、同居家族別】



### ◎前回調査との比較（家事分担の現実）

◆前回調査と比較すると、全体では前回と同様に「主に女性が行い、男性も一部手伝っている」が最も多い。また、男性では「男性女性が分け合っている」が約6ポイント増加するものの、女性では大きな変化はみられない。

### 家事分担の現実【前回調査との比較】



### (3) 家事に費やす時間

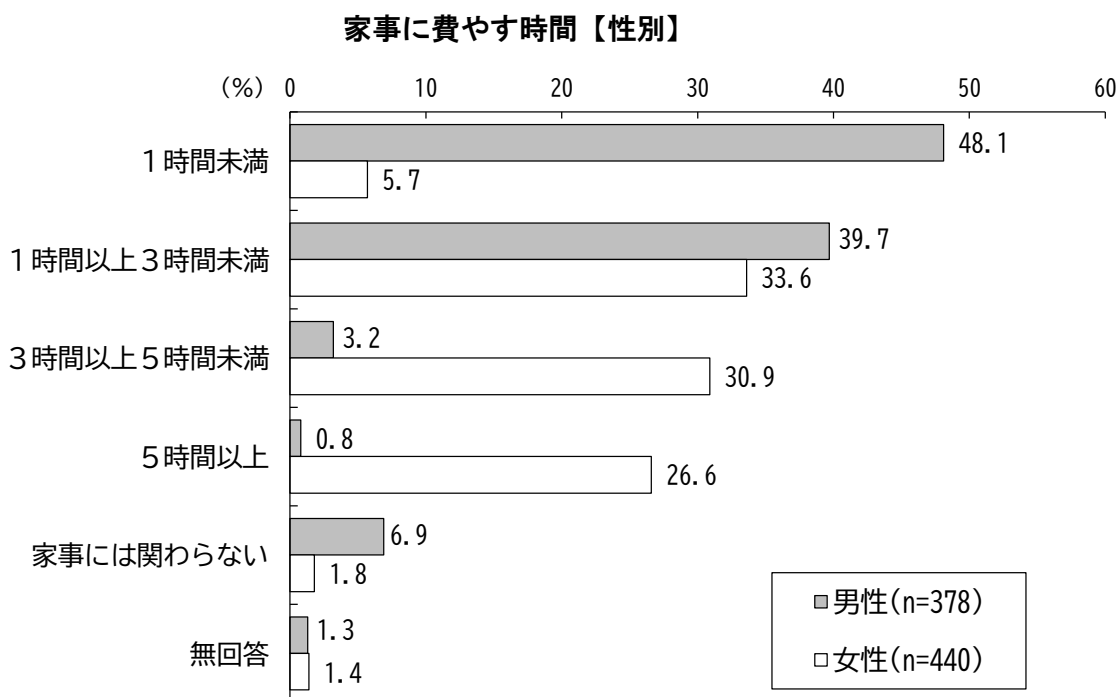
問12 あなたが、1日に「家事」に費やす時間はどのくらいですか。

◆家事に費やす時間は男性・女性で大きな差がみられる。

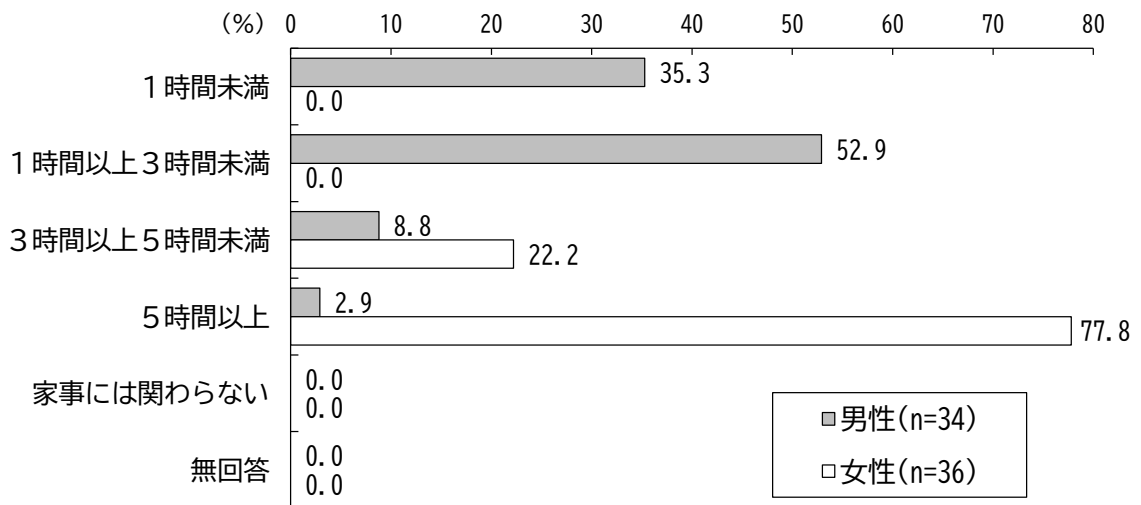
家事に費やす時間については、男性・女性で大きな差がみられ、男性では「1時間未満」(48.1%)が最も多く、次いで「1時間以上3時間未満」(39.7%)が続きます。なお、「家事には関わらない」は6.9%となっています。

一方、女性では「1時間以上3時間未満」(33.6%)が最も多く、次いで「3時間以上5時間未満」(30.9%)、「5時間以上」(26.6%)が続きます。

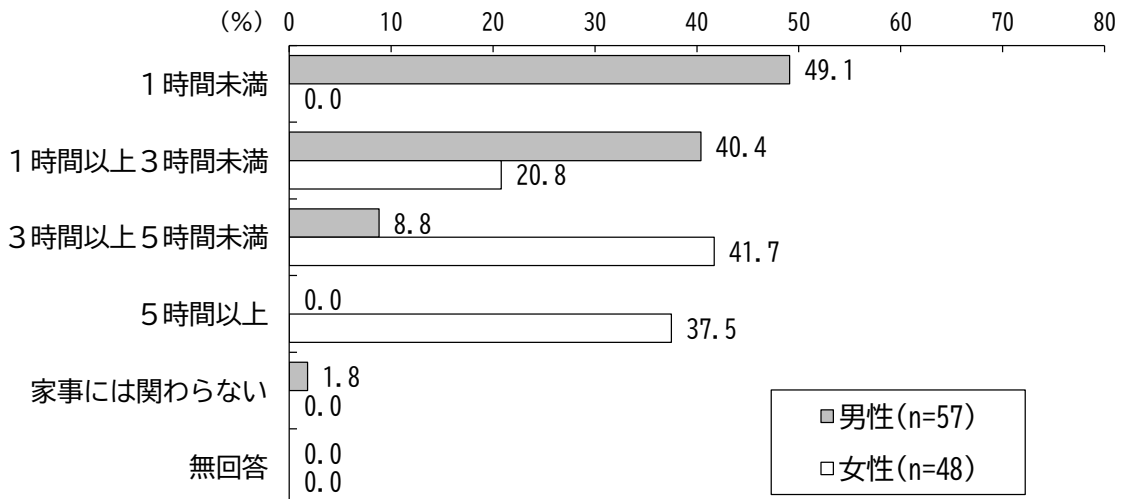
さらに、家事に費やす時間を同居する家族の状況でみると、小学校入学前の子どものいる世帯の女性では「5時間以上」が77.8%と8割弱となっており、育児を中心とした家事に費やす時間が長時間となっている方が多い結果となっています。



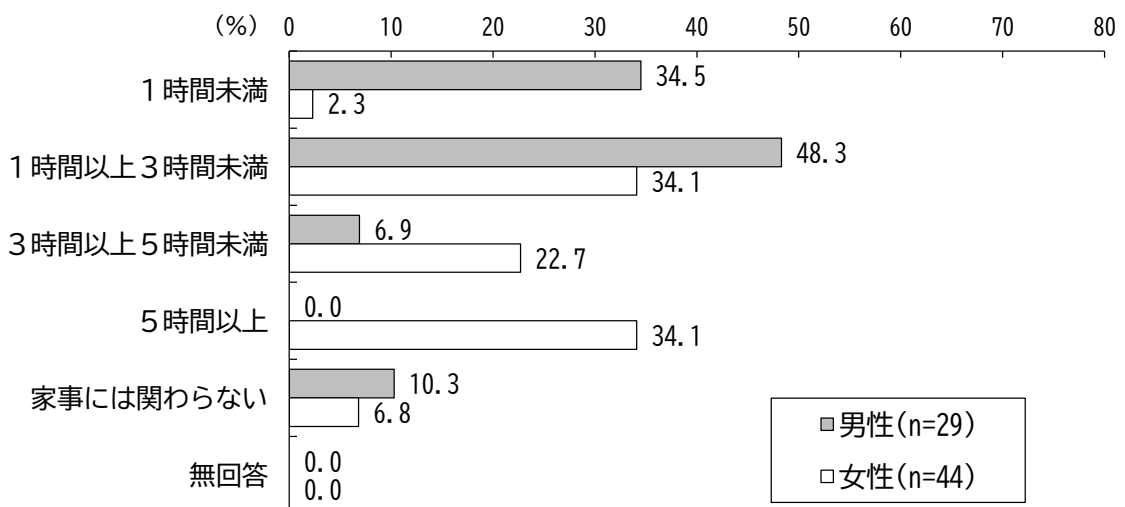
家事に費やす時間【小学校入学前の子どもがいる世帯、性別】



家事に費やす時間【小学生の子どもがいる世帯、性別】



家事に費やす時間【介護を必要とする方のいる世帯、性別】



### 3. 就労について

#### (1) 女性の就労についての考え方

問13 女性が仕事に就くことについて、あなたはどのように思いますか。

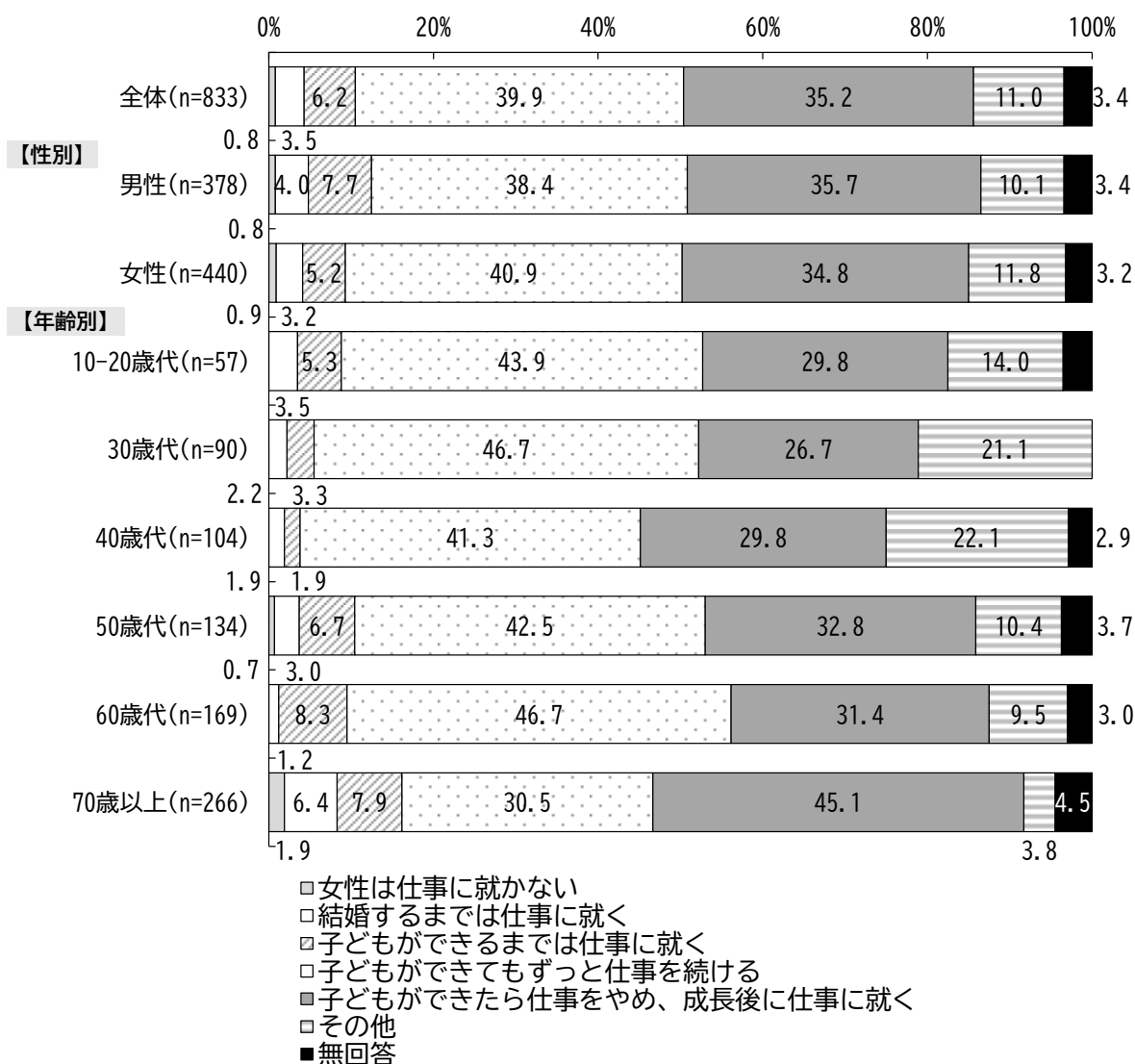
◆「子どもができてもずっと仕事を続ける」とする『継続型』が 39.9%、「子どもができたなら仕事をやめ、成長後に仕事に就く」という『中断型』が 35.2%。

女性の就労についての考え方については、「子どもができてもずっと仕事を続ける」とする『継続型』が 39.9%、「子どもができたなら仕事をやめ、成長後に仕事に就く」という『中断型』が 35.2%となっています。

性別でも、男性・女性ともに『継続型』が最も多く、次いで『中断型』が続きます。

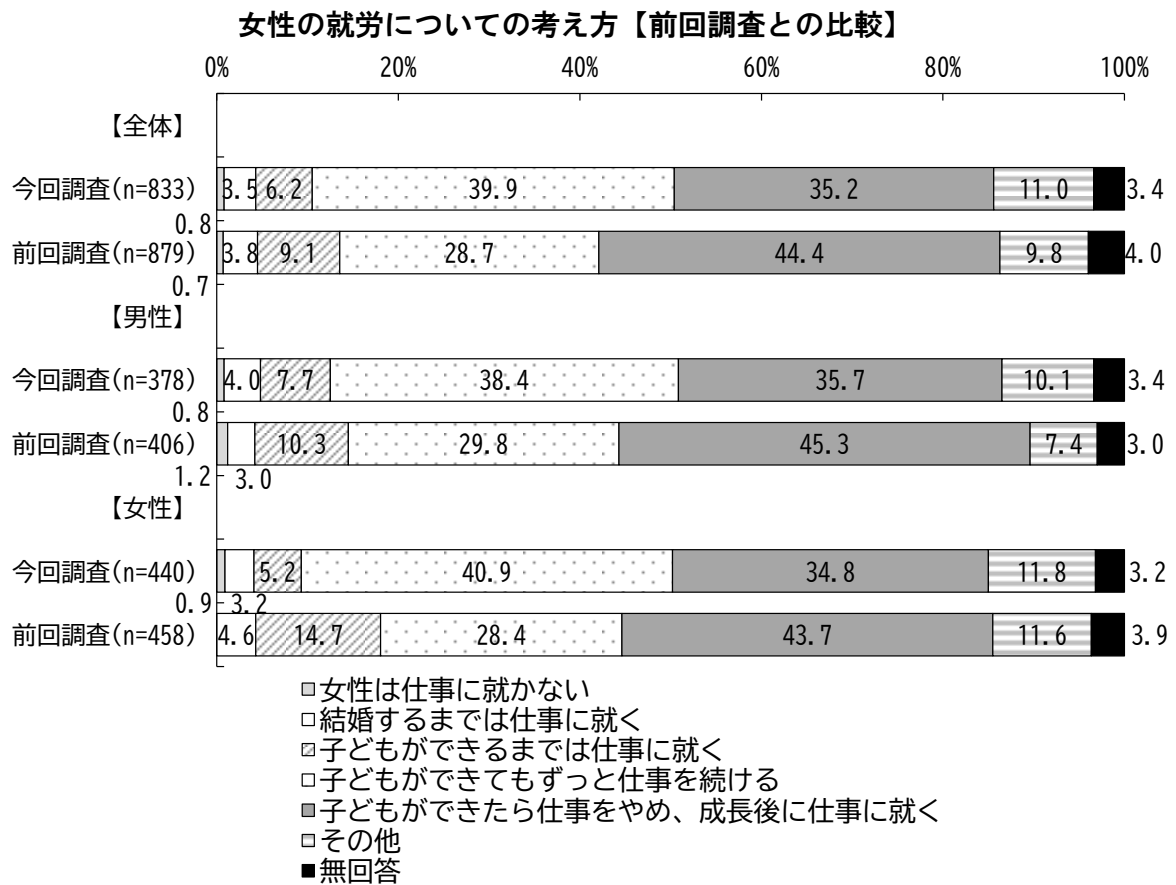
年齢別で見ると、60歳代までは『継続型』が4割台で最も多くなっていますが、70歳以上では『中断型』が最も多くなっています。

女性の就労についての考え方【全体、性別、年齢別】



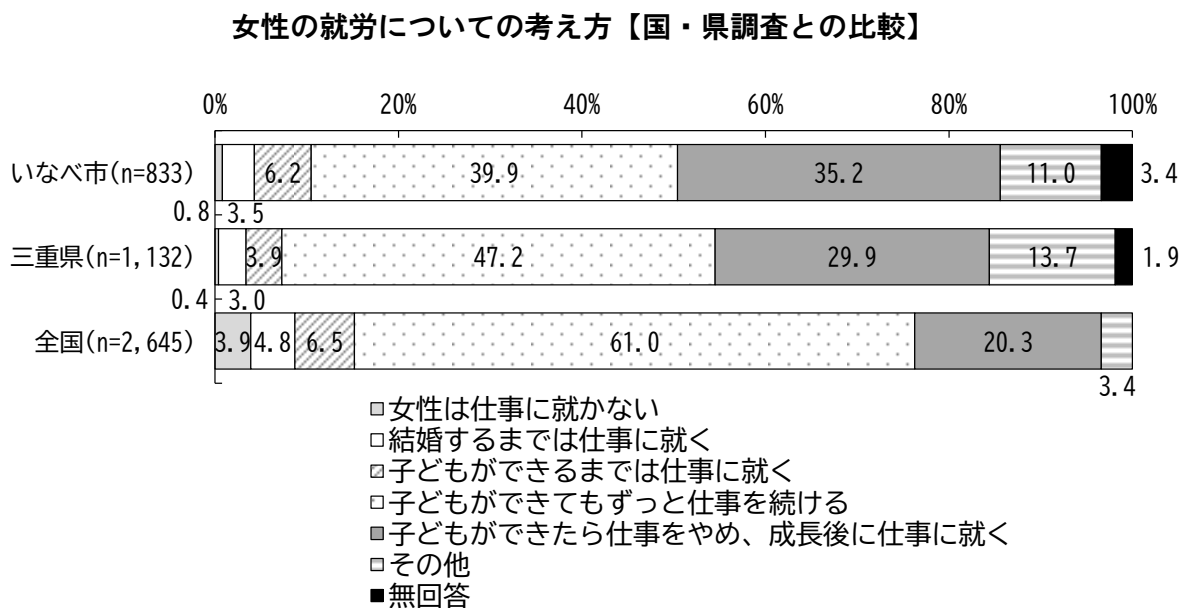
◎前回調査との比較（女性の就労についての考え方）

◆前回調査と比較すると、全体、男性、女性ともに『継続型』が増加。



◎国・県調査との比較（女性の就労についての考え方）

◆国・県調査と比較すると、『継続型』が少なく、『中断型』が多い。





## (2) 女性が働きやすくなっているか

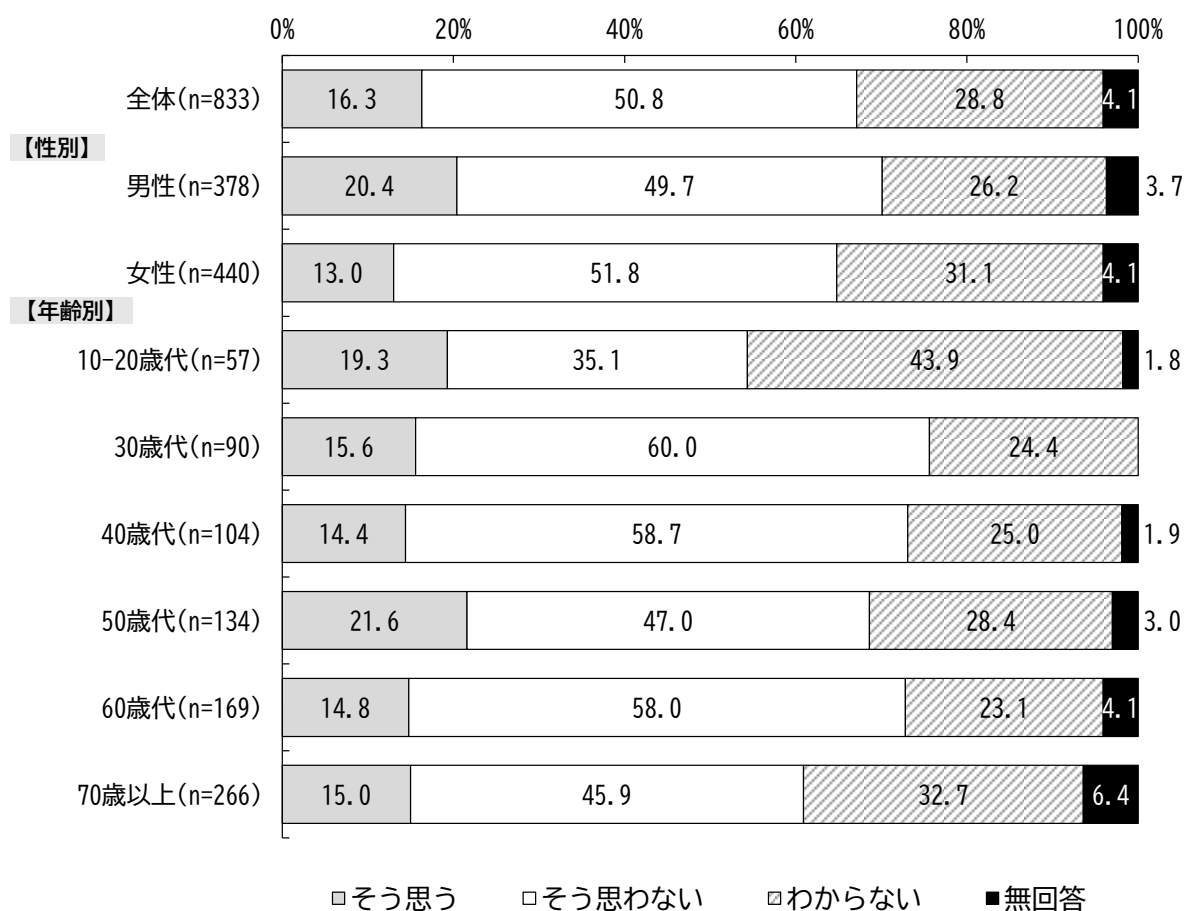
問14 あなたは、現在の社会は女性が働きやすい状況にあると思いますか。

◆「そう思わない」が約半数を占める。

女性が働きやすくなっているかについては、「そう思わない」が50.8%で約半数を占め、「わからない」が28.8%、「そう思う」が16.3%となっています。

性別、年齢別でも、ほとんどの層で「そう思わない」が多数を占め、30歳代では60.0%と6割となっています。

女性が働きやすくなっているか【全体、性別、年齢別】



### (3) 働きやすい理由

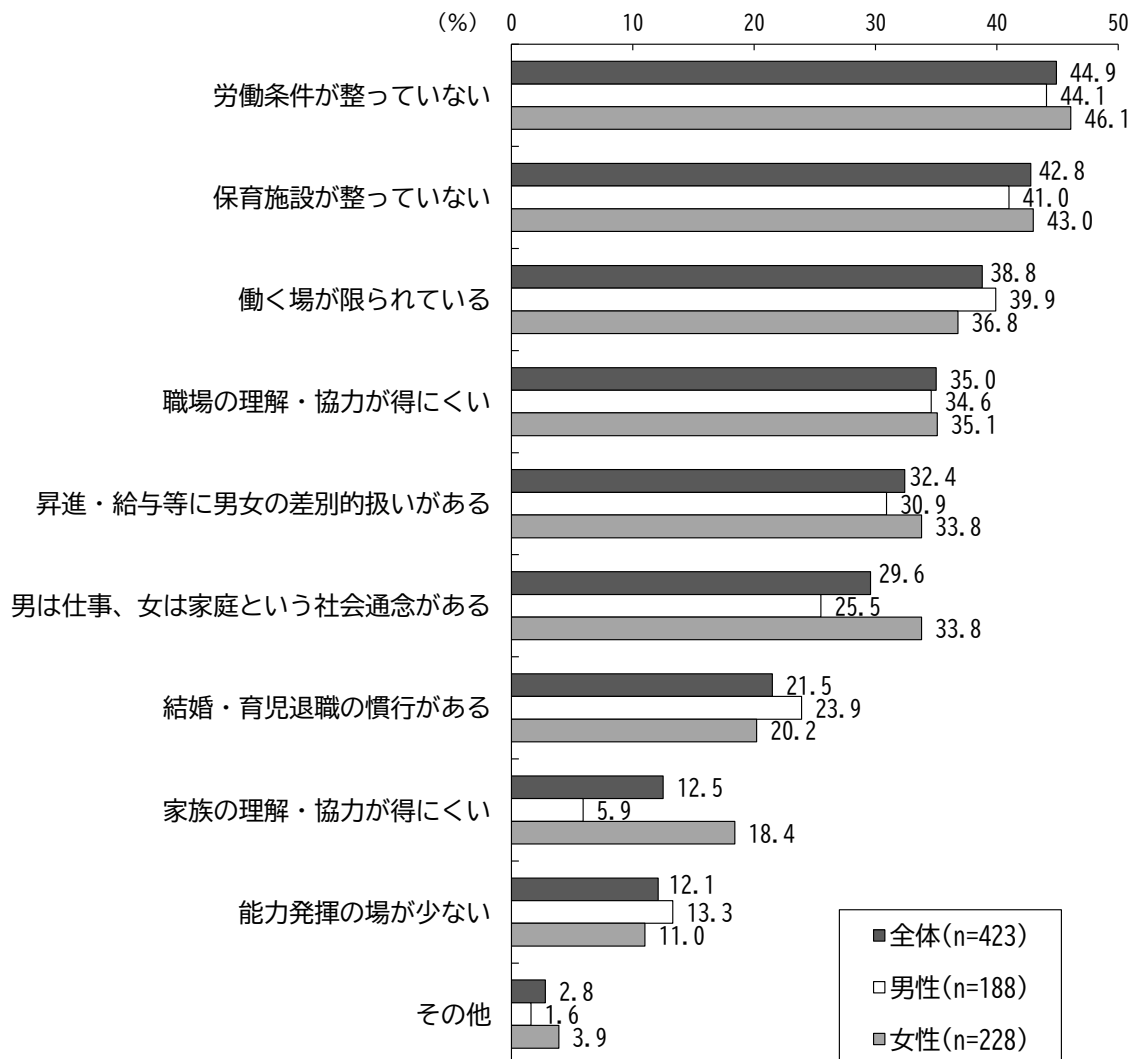
※問14で「2. そう思わない」とお答えの方におたずねします。  
 問14-1 働きやすいと思わない理由は何ですか。【複数回答】

◆「労働条件が整っていない」が最も多く、次いで「保育施設が整っていない」、「働く場が限られている」の順。

女性が働きやすい理由としては、「労働条件が整っていない」(44.9%)が最も多く、次いで「保育施設が整っていない」(42.8%)、「働く場が限られている」(38.8%)が続きます。

性別でも、男性・女性ともに「労働条件が整っていない」、「保育施設が整っていない」、「働く場が限られている」が上位を占めますが、女性では「男は仕事、女は家庭という社会通念がある」(33.8%)、「家族の理解・協力が得にくい」(18.4%)と回答する割合が男性を大きく上回ります。

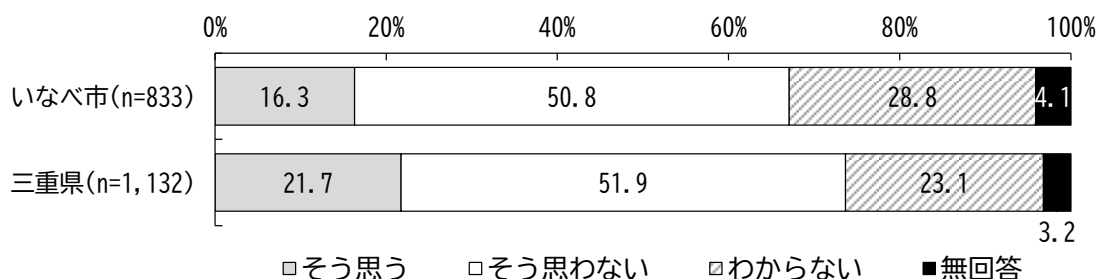
働きやすい理由【全体／複数回答】



◎県調査との比較（女性が働きやすくなっているか、働きやすい理由）

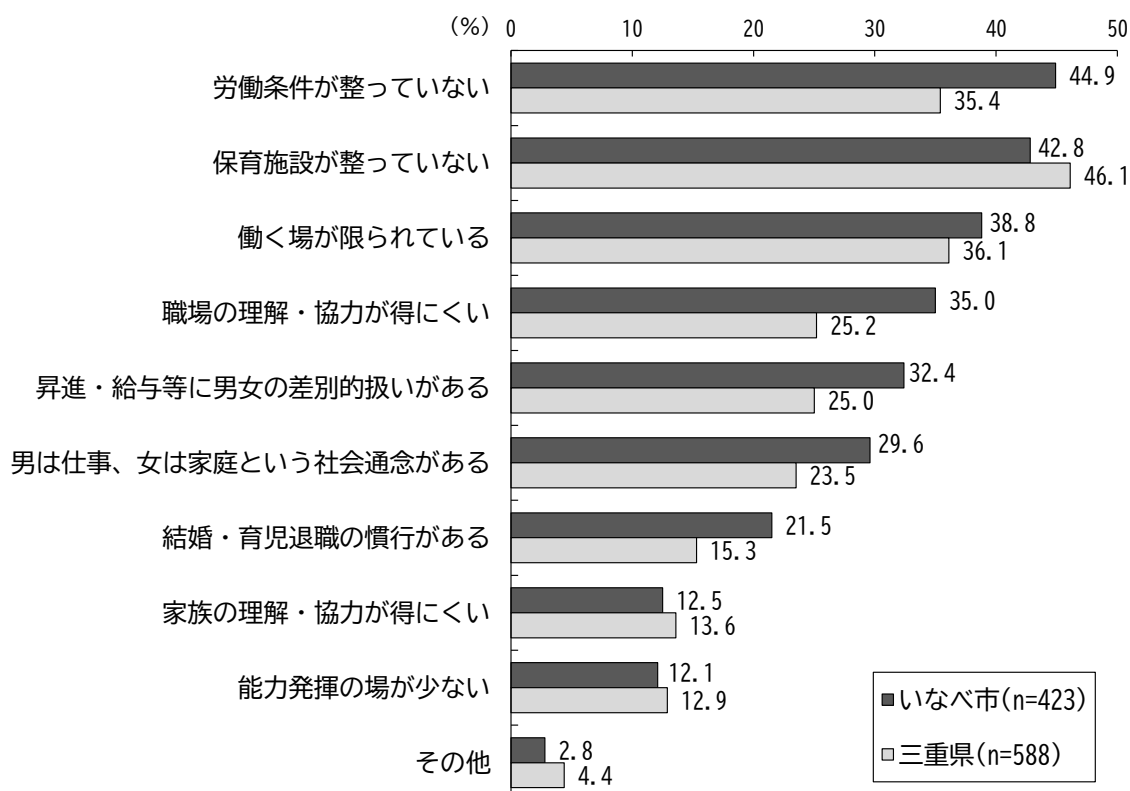
◆県調査と比較すると、「そう思う」が少ない。

女性が働きやすくなっているか【県調査との比較】



◆県調査と比較すると、上位回答のうち、「労働条件が整っていない」、「働く場が限られている」は県を上回る一方、「保育施設が整っていない」は県を下回る。

働きやすい理由【県調査との比較】



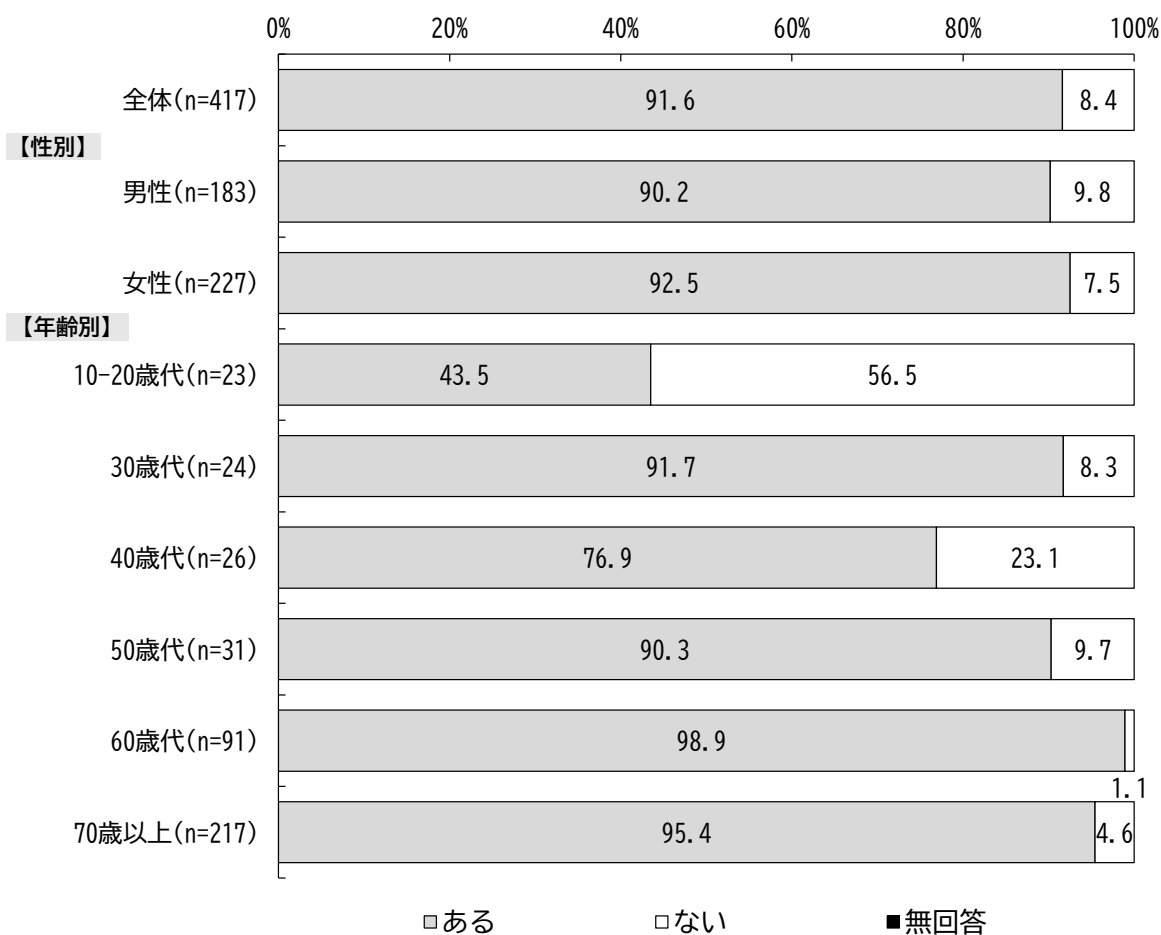
#### (4) 就労経験の有無

※現在、職業をお持ちでない方におたずねします。(職業をお持ちの方は問16へ)  
 問15 あなたはこれまでに職業を持たれたことがありますか。

◆就労経験がある方が 91.6%。

就労経験の有無については「ある」が91.6%、「ない」が8.4%となっています。  
 性別、年齢別でも10-20歳を除いたほとんどの層で「ある」が多数を占めています。

就労経験の有無【全体、性別、年齢別】



## (5) 仕事をやめた理由

※問15で「1. ある」とお答えの方におたずねします。

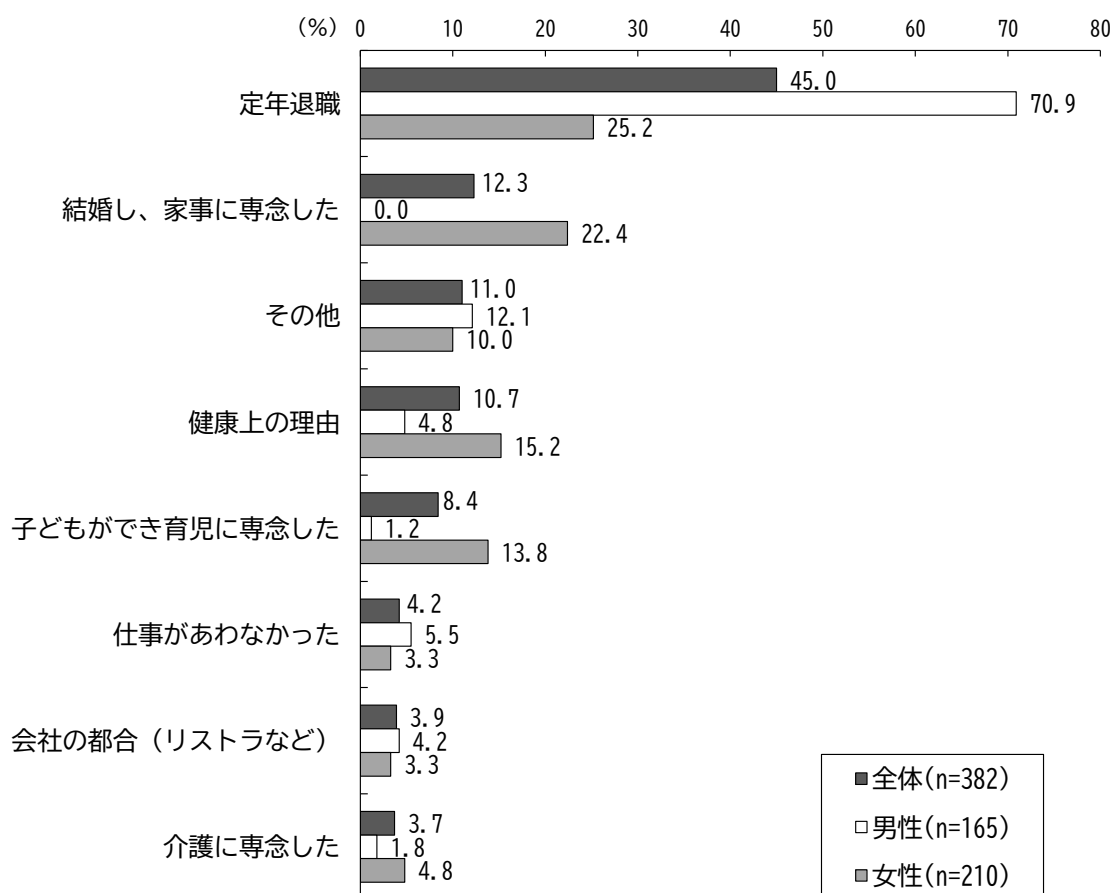
問15-1 その仕事をやめた主な理由は何ですか。

◆仕事をしていた女性の22.4%が「結婚し、家事に専念した」を理由に退職。

仕事をやめた理由としては、「定年退職」が45.0%で最も多く、次いで「結婚し、家事に専念した」が12.3%で続きます。

性別で見ると、男性では「定年退職」が70.9%で多数を占めますが、女性では「定年退職」が25.2%で最も多いものの、「結婚し、家事に専念した」が22.4%と5人に1人以上が結婚を機に退職していた結果となっています。

### 仕事をやめた理由【全体、性別】



## (6) 働きやすい環境づくりに必要なこと

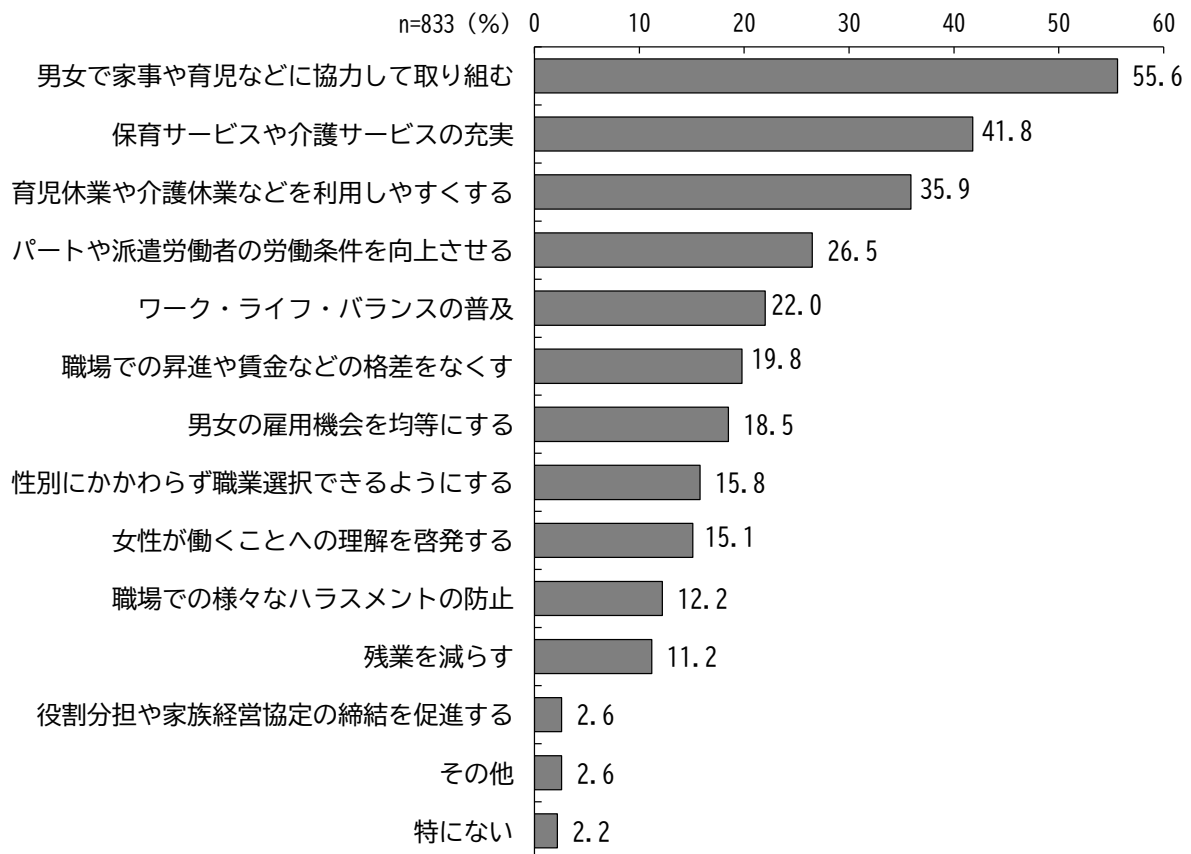
問16 あなたは、男女がともに働きやすい社会環境をつくるためには、どのようなことが必要だと思いますか。  
【複数回答】

◆「男女で家事や育児などに協力して取り組む」が最も多く、次いで「保育サービスや介護サービスの充実」、「育児休業や介護休業などを利用しやすくする」の順。

働きやすい環境づくりに必要なことについては、「男女で家事や育児などに協力して取り組む」(55.6%)が最も多く、次いで「保育サービスや介護サービスの充実」(41.8%)、「育児休業や介護休業などを利用しやすくする」(35.9%)が続きます。

性別、年齢別でも、すべての層で「男女で家事や育児などに協力して取り組む」が第1位に挙げられています。また、年齢別の10-20歳代、30歳代、40歳代では「育児休業や介護休業などを利用しやすくする」と回答する割合が多く、第2位となっています。

働きやすい環境づくりに必要なこと【全体/複数回答】



働きやすい環境づくりに必要なこと【全体、性別、年齢別／複数回答】

		男女で家事や育児などに協力して取り組む	育児休業や介護休業などを利用しやすい	保育サービスや介護サービスの充実	残業を減らす	男女の雇用機会を均等に	職場での昇進や賃金などの格差をなくす	パートや派遣労働者の労働条件を向上させる	職場での様々なハラスメントの防止	性別にかかわらず職業選択できるようにする	女性が働くことへの理解を啓発する	役割分担や家族経営協定の締結を促進する	ワーク・ライフ・バランスの普及	特にな	その他
		(%)													
全体(n=833)		55.6	35.9	41.8	11.2	18.5	19.8	26.5	12.2	15.8	15.1	2.6	22.0	2.2	2.6
性別	男性(n=378)	50.8	34.1	39.4	12.4	21.7	17.2	26.2	10.6	16.9	12.7	3.2	19.3	3.2	3.2
	女性(n=440)	59.8	37.3	43.9	10.5	15.2	22.3	26.8	13.9	14.3	16.8	2.0	24.5	1.4	2.0
年齢別	10-20歳代(n=57)	63.2	49.1	31.6	21.1	24.6	28.1	28.1	21.1	26.3	17.5	3.5	40.4	3.5	5.3
	30歳代(n=90)	56.7	38.9	36.7	20.0	12.2	22.2	25.6	17.8	16.7	12.2	3.3	31.1	0.0	7.8
	40歳代(n=104)	56.7	43.3	36.5	21.2	18.3	22.1	26.9	13.5	14.4	17.3	3.8	32.7	1.9	5.8
	50歳代(n=134)	63.4	45.5	52.2	6.7	20.9	17.2	25.4	13.4	14.2	10.4	3.0	26.1	0.7	0.0
	60歳代(n=169)	51.5	34.3	43.2	7.1	23.1	20.1	31.4	10.7	10.1	14.2	1.8	22.5	2.4	0.6
	70歳以上(n=266)	52.3	25.6	42.1	7.5	14.3	17.3	24.1	9.0	18.0	17.7	1.9	8.6	3.4	1.5

※第1位の回答は、第2位の回答は。

※職場での様々なハラスメント（嫌がらせ）

○セクシュアル・ハラスメント（セクハラ）

性的な言動による嫌がらせ。身体への不必要な接触、食事などへの執拗な誘いなど。職場で問題になることが多く、拒否すると降格や解雇されることもある。

○パワー・ハラスメント（パワハラ）

権力の上下関係や立場の優劣関係を利用した嫌がらせ。職場で問題になることが多い。教育機関での嫌がらせ（キャンパスハラスメント／キャンハラ）もパワハラに含まれる。

○マタニティ・ハラスメント（マタハラ）

妊娠、出産、育児に関する女性への嫌がらせ。退職を促される、時短勤務を利用すると降格になるなど。

○パタニティ・ハラスメント（パタハラ）

育児に関する男性への嫌がらせ。マタハラの男性版。育児休暇の申請を認めないなど。

※ワーク・ライフ・バランス（仕事と生活の調和）

仕事、家庭生活、地域生活、個人の自己啓発など、様々な活動を自らの希望に沿った形で、バランスよく展開できる状態のことです。そうなることで、一人ひとりが様々な希望を実現させ、豊かさを実感すると同時に、職場は活力に満ちた企業・組織に、家庭生活は充実し、地域社会も活性化するなど、いい循環が期待されます。

## 4. 防災活動について

### (1) 防災活動への女性の参画

問17 防災・災害復興対策において、女性の視点が必要といわれています。どのような取り組みにおいて、より女性の活躍が必要だと思いますか。【複数回答】

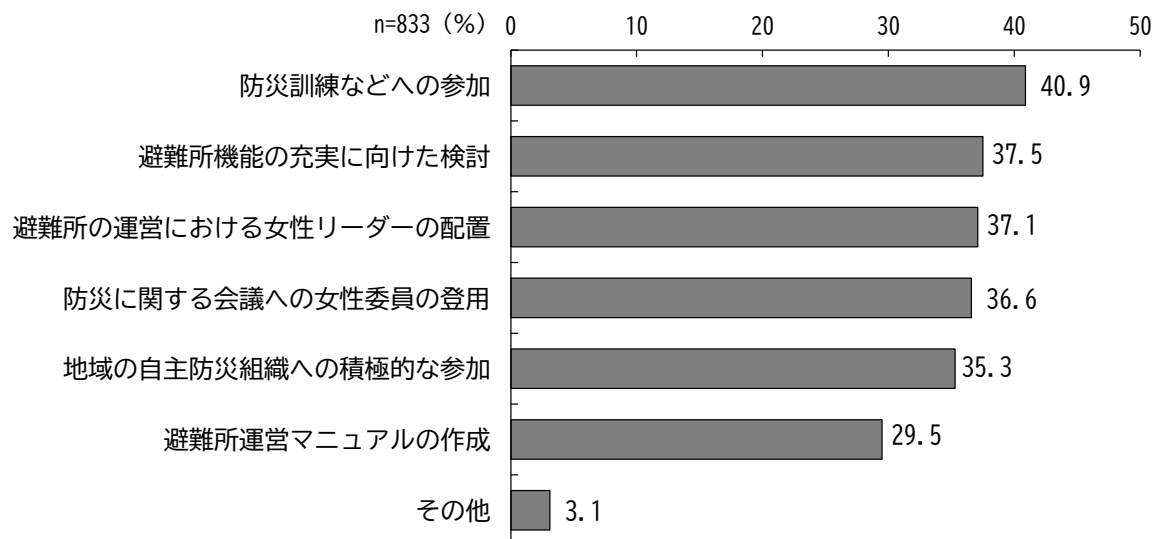
◆「防災訓練などへの参加」が最も多く、次いで「避難所機能の充実にに向けた検討」、「避難所の運営における女性リーダーの配置」の順。

防災活動への女性の参画については、「防災訓練などへの参加」(40.9%)が最も多く、次いで「避難所機能の充実にに向けた検討」(37.5%)、「避難所の運営における女性リーダーの配置」(37.1%)が続きます。

性別でみると、男性では「防災に関する会議への女性の登用」(45.2%)、女性では「避難所機能の充実にに向けた検討」(39.5%)がそれぞれ最も多くなっています。

居住地区別でみると、「防災訓練などへの参加」が北勢地区(43.0%)、員弁地区(43.2%)、藤原地区(39.5%)で第1位の回答となっています。また、大安地区では「避難所機能の充実にに向けた検討」(41.9%)が第1位に挙げられています。

防災活動への女性の参画【全体/複数回答】





防災活動への女性の参画【全体、性別、居住地区別／複数回答】

		防災訓練などへの参加	地域の自主防災組織への積極的な参加	避難所機能の充実に向けた検討	避難所運営マニュアルの作成	避難所の運営における女性リーダーの配置	防災に関する会議への女性の委員の登用	その他
		(%)						
全体(n=833)		40.9	35.3	37.5	29.5	37.1	36.6	3.1
性別	男性(n=378)	43.4	42.6	32.5	24.9	39.9	45.2	3.7
	女性(n=440)	39.5	29.3	41.8	33.4	34.3	29.1	2.5
居住地区別	北勢地区(n=256)	43.0	35.5	36.7	25.8	35.5	36.3	3.1
	員弁地区(n=176)	43.2	36.9	34.1	36.9	34.1	32.4	3.4
	大安地区(n=265)	38.9	33.6	41.9	29.8	39.6	39.2	2.3
	藤原地区(n=124)	39.5	36.3	35.5	25.0	37.9	37.1	4.0

※第1位の回答は■、第2位の回答は■。

## 5. 男女の人権について

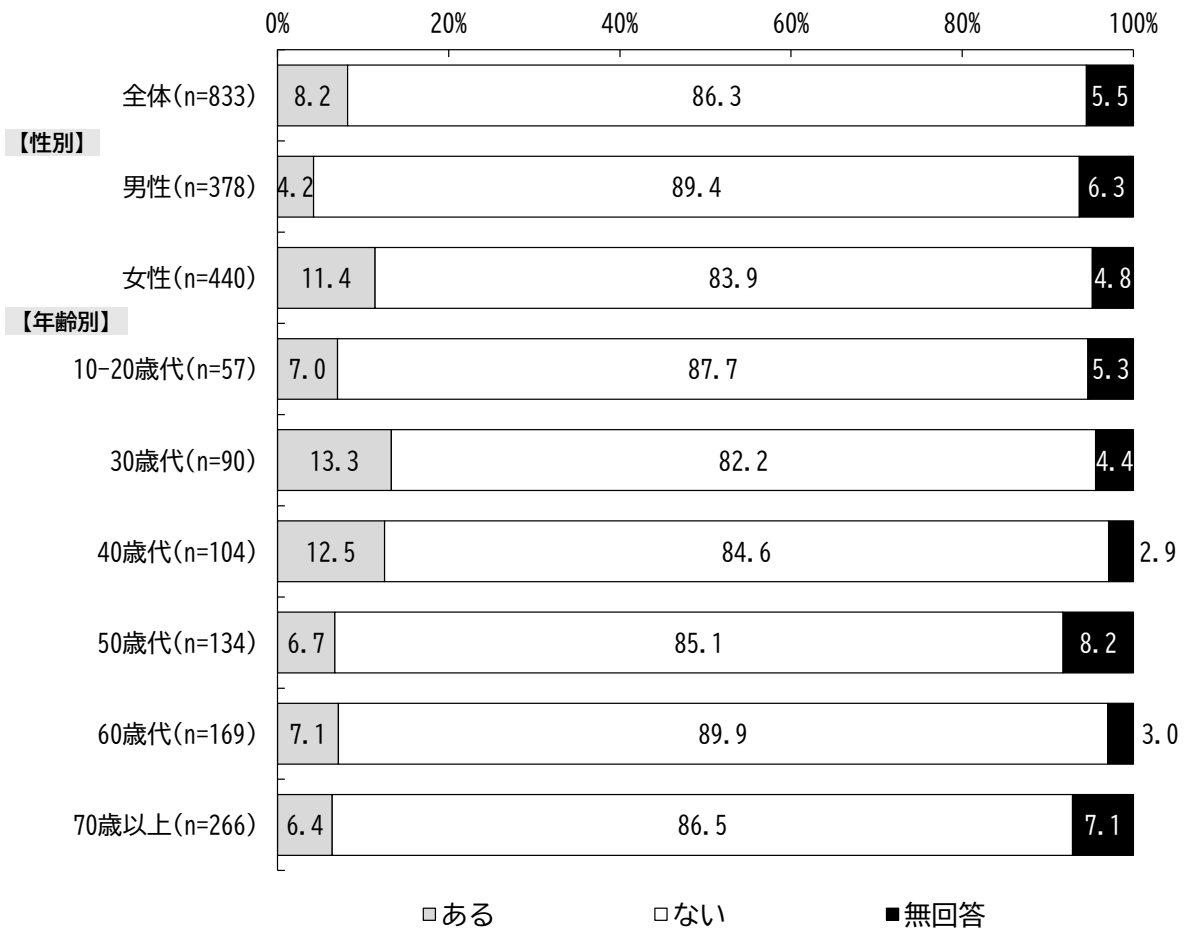
### (1) DV経験の有無

問18 これまでにDV※を受けた経験がありますか。

◆DV経験が「ある」が全体で8.2%、男性で4.2%、女性で11.4%。

DV経験の有無については、「ない」が86.3%、「ある」が8.2%となっています。  
性別で「ある」の割合をみると、男性では4.2%、女性では11.4%となっています。また、年齢別では、30歳代（13.3%）、40歳代（12.5%）で比較的多くなっています。

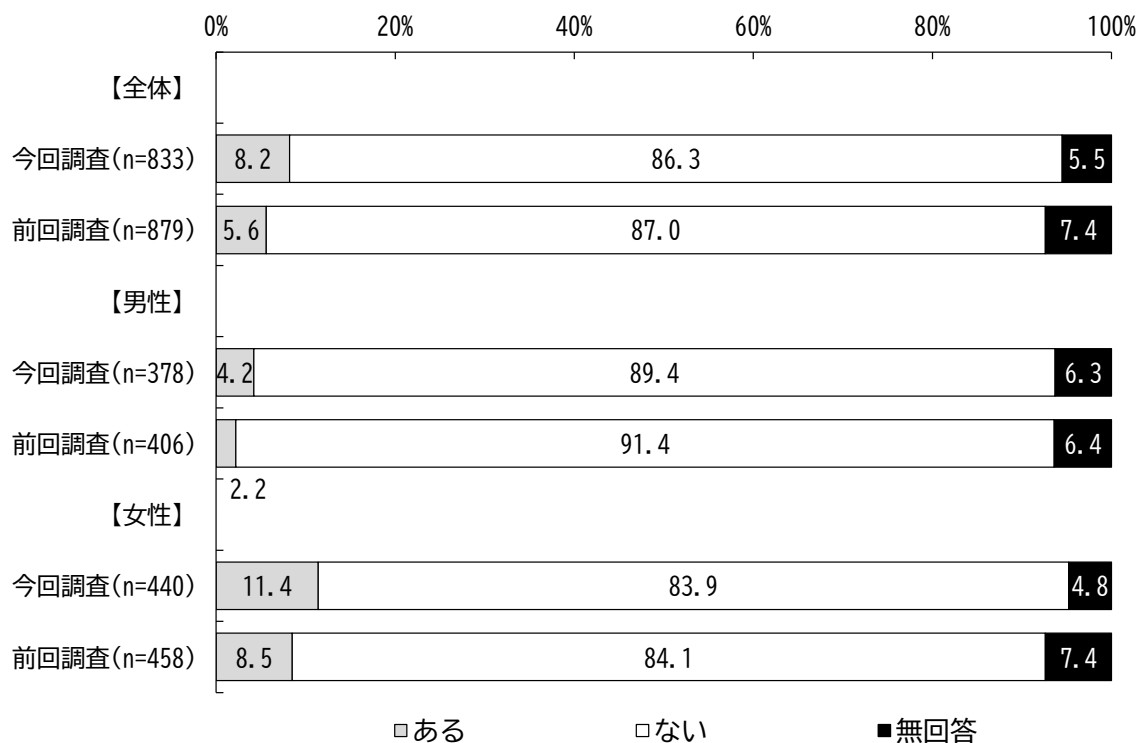
DV経験の有無【全体、性別、年齢別】



◎前回調査との比較（DV経験の有無）

◆前回調査と比較すると、全体、男性、女性ともにDV経験が「ある」が増加している。

DV経験の有無【前回調査との比較】



※配偶者・パートナーからの暴力（ドメスティック・バイオレンス＝DV）

- ①蹴る・殴るなど身体的な暴力や、性行為の強要
- ②怒鳴る、無視するなど心身に有害な影響を及ぼす言動
- ③電話やメールを監視したり、生活費など金銭面の制限

## (2) DVの相談について

※問18で「1. ある」と答えた方におたずねします。

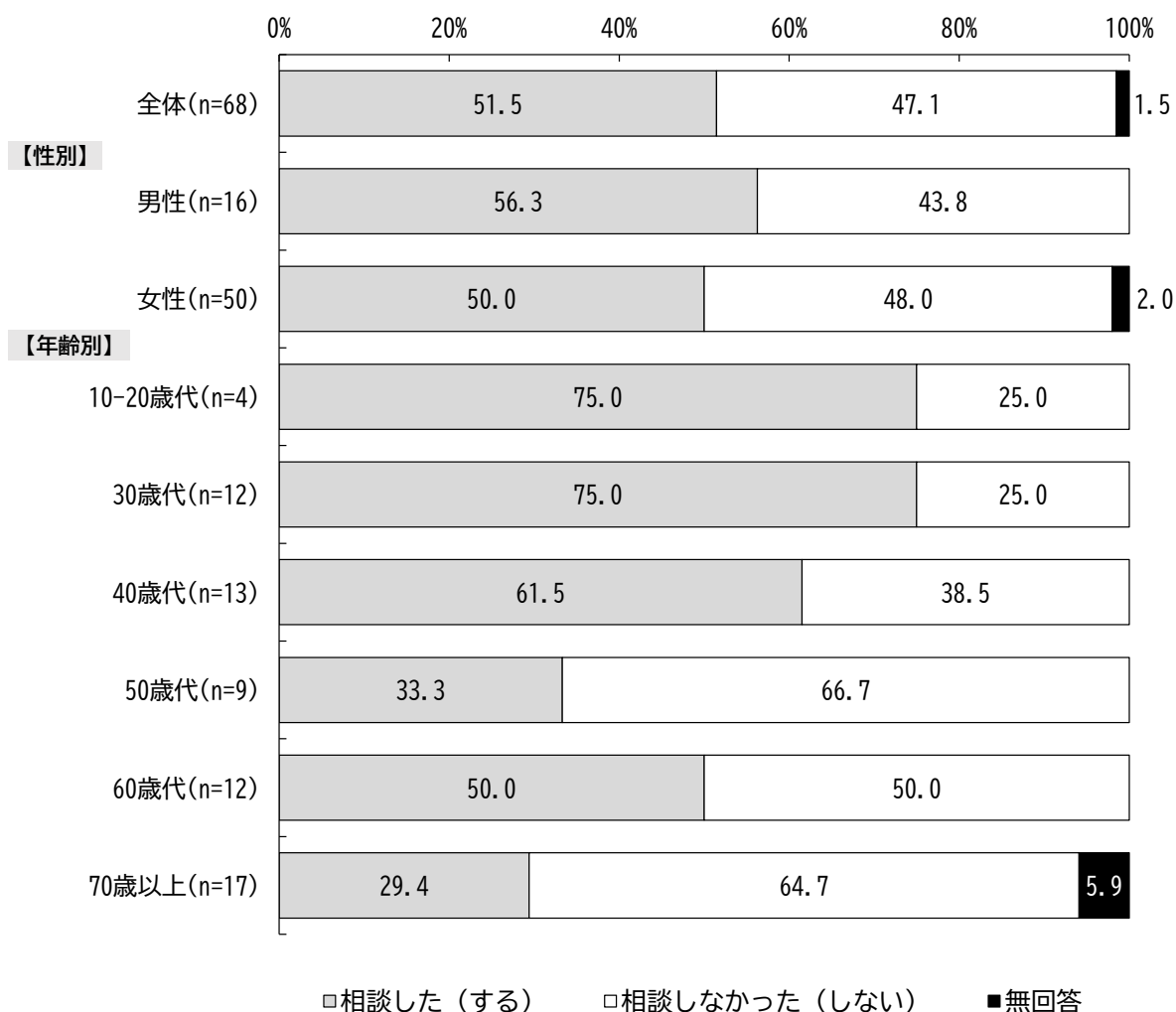
問18-1 DVを受けた時、だれかに打ち明けたり相談したりしましたか。また、今後受けたら、だれかに打ち明けたり相談したりしますか。

◆「相談した（する）」が51.5%。一方、「相談しなかった（しない）」が47.1%。

DVの相談については、「相談した（する）」が51.5%、「相談しなかった（しない）」が47.1%となっています。

性別で「相談した（する）」と回答した割合をみると、男性で51.5%、女性で50.0%となっています。年齢別では10-20歳代、30歳代で「相談した（する）」（同率75.0%）で多くなっていますが、70歳以上では29.4%にとどまります。

DVの相談について【全体、性別、年齢別】



### (3) 相談先について

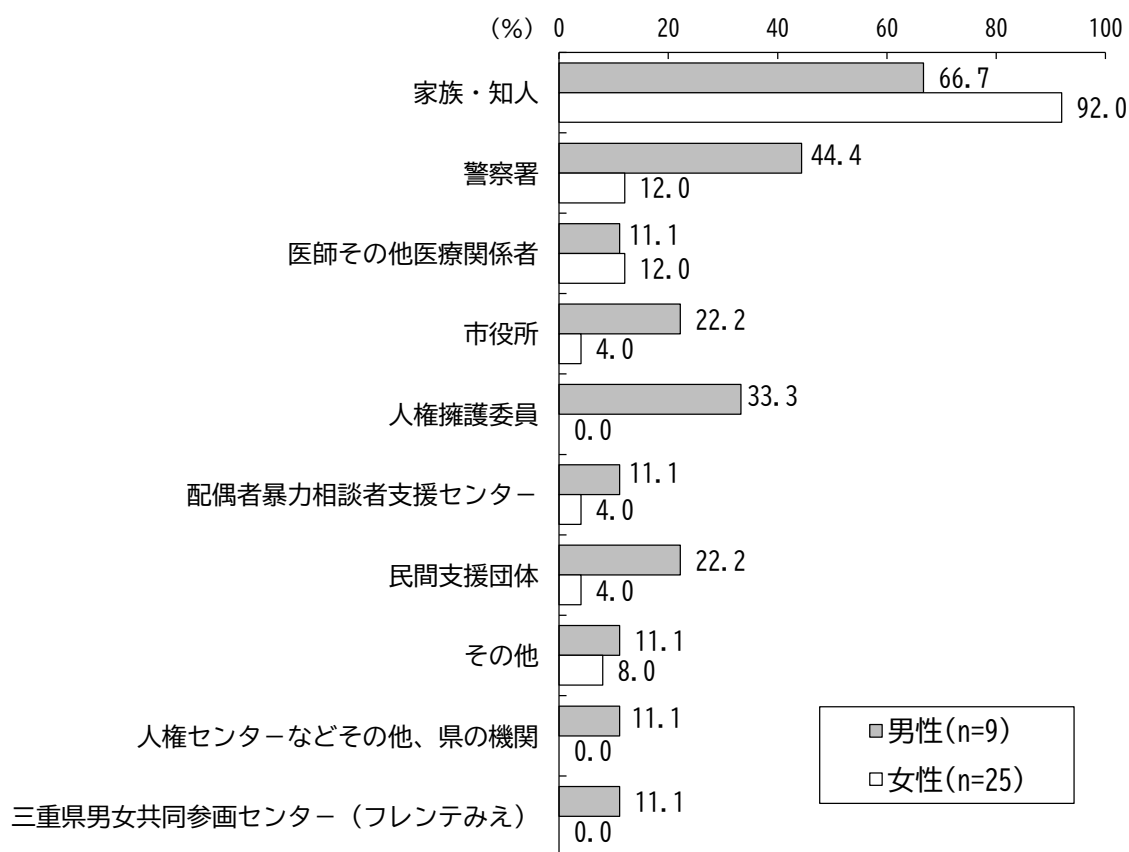
問18-2 相談した(する)のはどこですか。【複数回答】

◆「家族・知人」が82.9%で最も多く、次いで「警察署」、「医師その他医療関係者」の順。

相談先については、「家族・知人」が82.9%で最も多く、次いで「警察署」(20.0%)、「医師その他医療関係者」(14.3%)などが続きます。

性別でも、男性・女性ともに「家族・知人」が最も多くなっています。

相談先について【全体、性別／複数回答】



#### (4) 相談しなかった理由

※問18-1で「2. 相談しなかった (しない)」とお答えの方におたずねします。

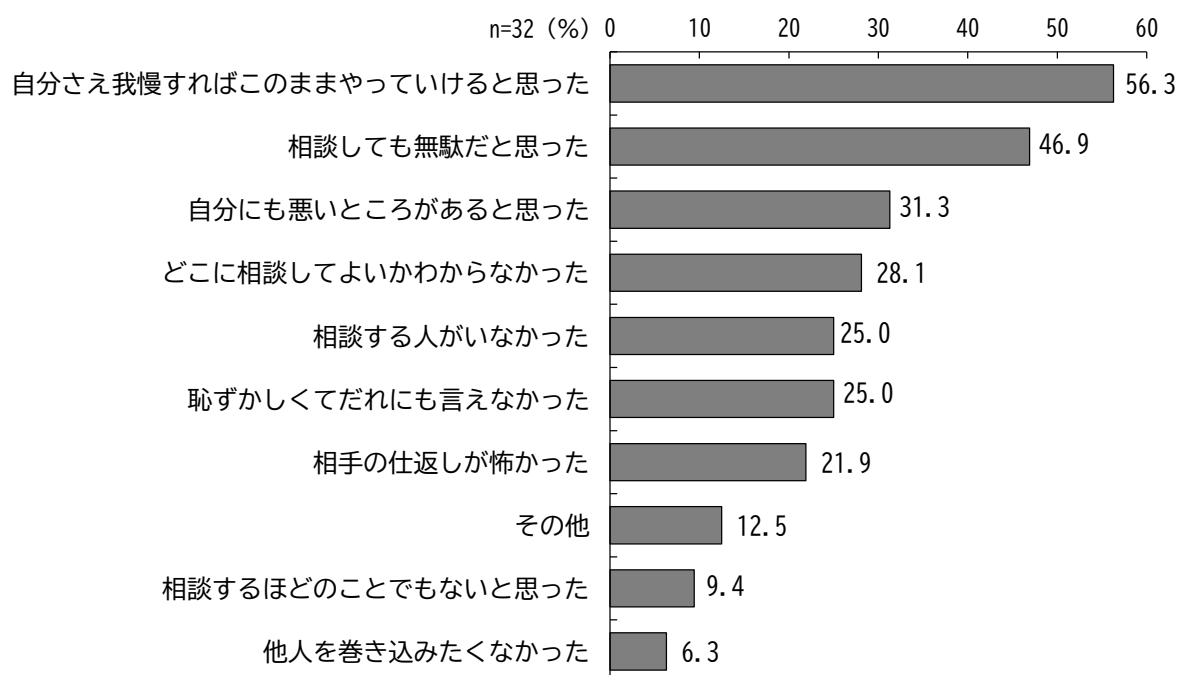
問18-3 相談しなかった (しない) 理由は何ですか。【複数回答】

◆「自分さえ我慢すればこのままやっていけると思った」が最も多く、次いで「相談しても無駄だと思った」、「自分にも悪いところがあった」との順。

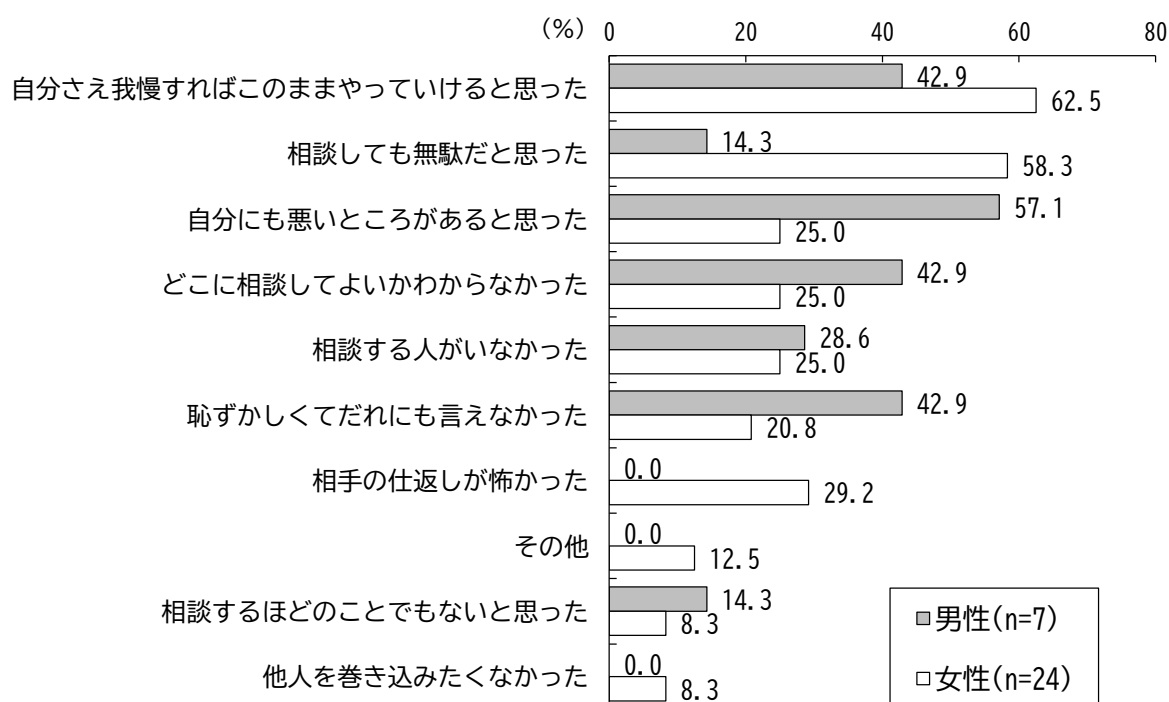
相談しなかった理由としては、「自分さえ我慢すればこのままやっていけると思った」(56.3%)が最も多く、次いで「相談しても無駄だと思った」(46.9%)、「自分にも悪いところがあった」(31.3%)となっています。なお、「どこに相談してよいかわからなかった」が28.1%となっています。

性別で見ると、男性では「自分にも悪いところがあった」(57.1%)が最も多く、女性では「自分さえ我慢すればこのままやっていけると思った」(62.5%)及び「相談しても無駄だと思った」(58.3%)が理由の上位に挙げられています。

相談しなかった理由【全体/複数回答】



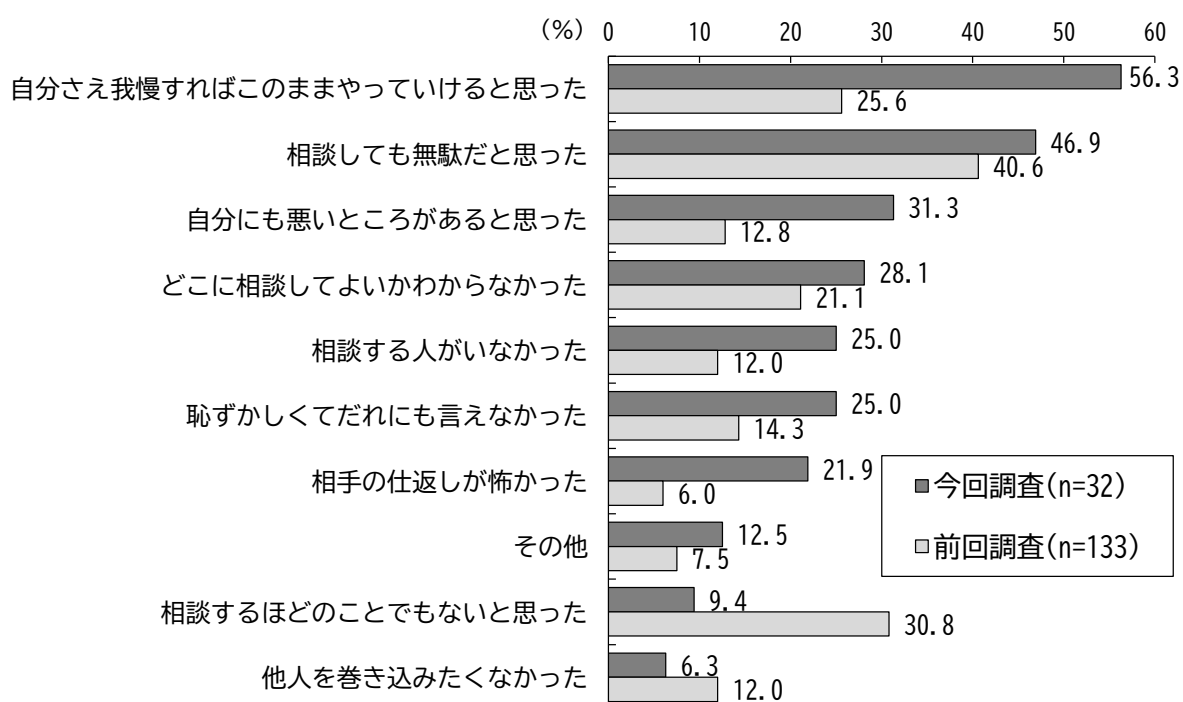
### 相談しなかった理由【性別／複数回答】



### ◎前回調査との比較（相談しなかった理由）

◆前回調査と比較すると、「自分さえ我慢すればこのままやっていけると思った」が大幅に増加。また、「どこに相談してよいかわからなかった」も増加。

### 相談しなかった理由【全体、前回調査との比較／複数回答】



## (5) DV防止に必要なこと

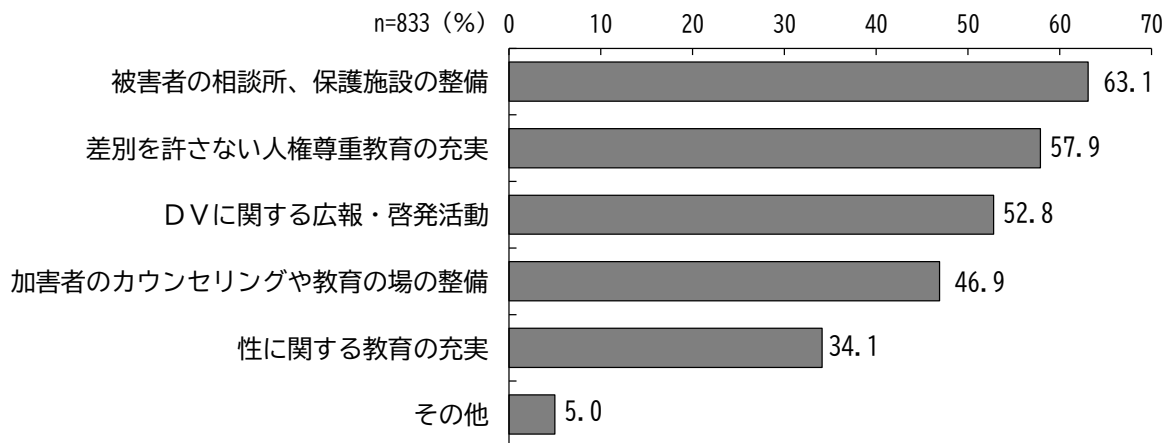
問19 DVをなくすためには、どのようなことが必要だと思いますか。【複数回答】

◆「被害者の相談所、保護施設の整備」が最も多く、次いで「差別を許さない人権尊重教育の充実」、「DVに関する広報・啓発活動」の順。

DV防止に必要なことについては、「被害者の相談所、保護施設の整備」(63.1%)が最も多く、次いで「差別を許さない人権尊重教育の充実」(57.9%)、「DVに関する広報・啓発活動」(52.8%)が続きます。

性別、年齢別でも、ほとんどの層で「被害者の相談所、保護施設の整備」及び「差別を許さない人権尊重教育の充実」が上位を占めています。

DV防止に必要なこと【全体／複数回答】



DV防止に必要なこと【全体、性別、年齢別／複数回答】

		報D・Vに啓発活動する広	の性に充実に関する教育	充人差別を重許さない	整所被、害者保護の施設相談の	のセ加場り害者の整グのや力教ウ育ン	その他
		(%)					
全体(n=833)		52.8	34.1	57.9	63.1	46.9	5.0
性別	男性(n=378)	57.7	34.9	58.7	58.5	43.9	6.6
	女性(n=440)	48.4	33.6	57.5	67.3	48.9	3.6
年齢別	10-20歳代(n=57)	52.6	35.1	56.1	77.2	42.1	5.3
	30歳代(n=90)	48.9	48.9	57.8	64.4	58.9	11.1
	40歳代(n=104)	53.8	39.4	64.4	67.3	56.7	8.7
	50歳代(n=134)	54.5	32.8	58.2	75.4	55.2	5.2
	60歳代(n=169)	50.9	34.3	53.8	59.8	43.8	4.7
	70歳以上(n=266)	53.8	27.8	57.9	54.5	36.5	1.9

※第1位の回答は■、第2位の回答は■。



## 6. コロナ禍での生活の変化について

### (1) 新型コロナによる生活の変化

問20 新型コロナウイルス感染症の拡大により、あなたの生活に変化がありましたか。

#### ①働く場所や勉強する場所

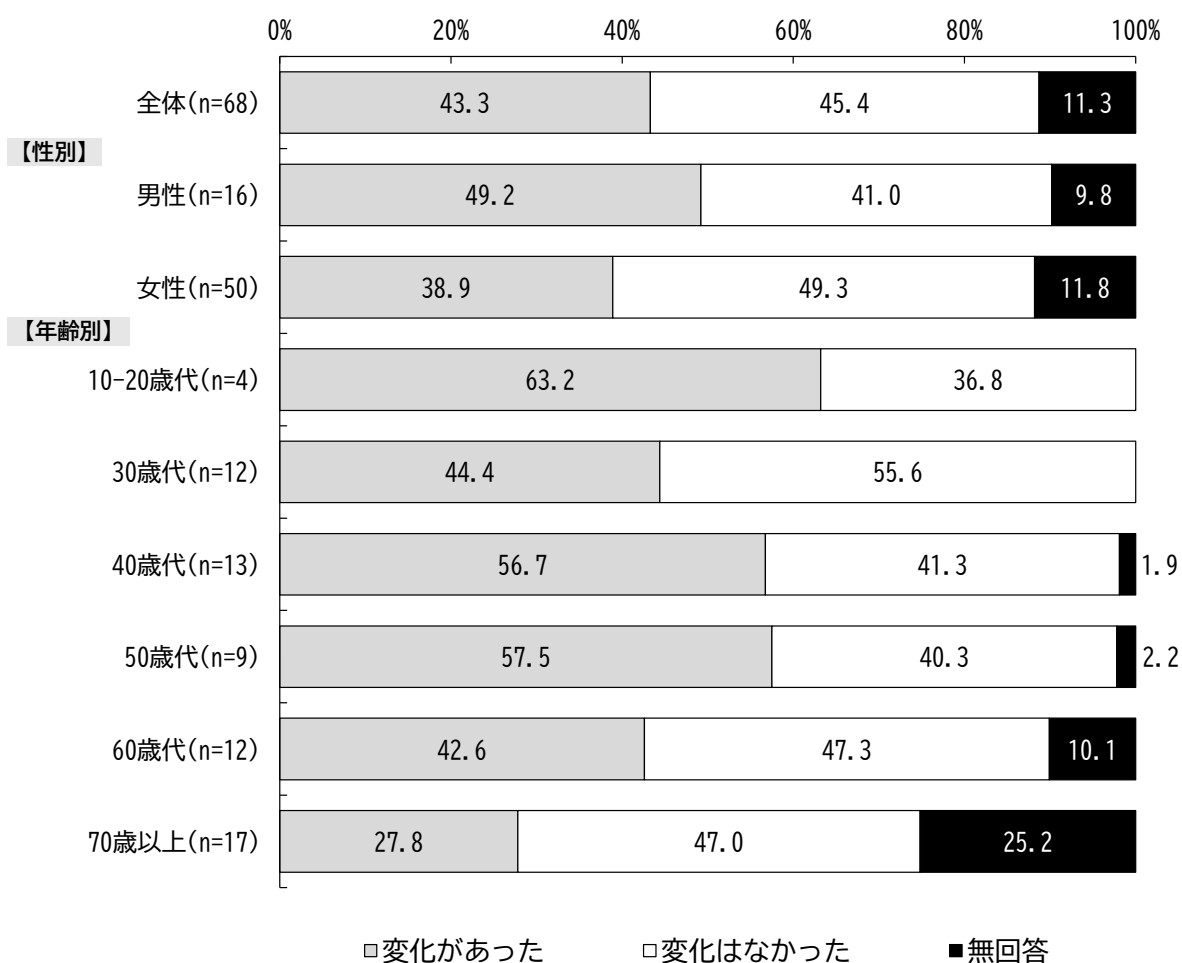
◆「変化はなかった」が45.4%、「変化があった」が43.3%。

働く場所や勉強する場所については、「変化はなかった」が45.4%、「変化があった」が43.3%となっています。

性別で見ると、「変化があった」と回答する割合が男性で49.2%と女性の38.9%を上回ります。

年齢別で見ると、「変化があった」と回答する割合は10-20歳代で63.2%と6割を超えて最も多く、50歳代(57.5%)、40歳代(56.7%)でも半数を超えています。

#### 新型コロナによる生活の変化①働く場所や勉強する場所【全体、性別、年齢別】



## ②働く時間や勉強する時間

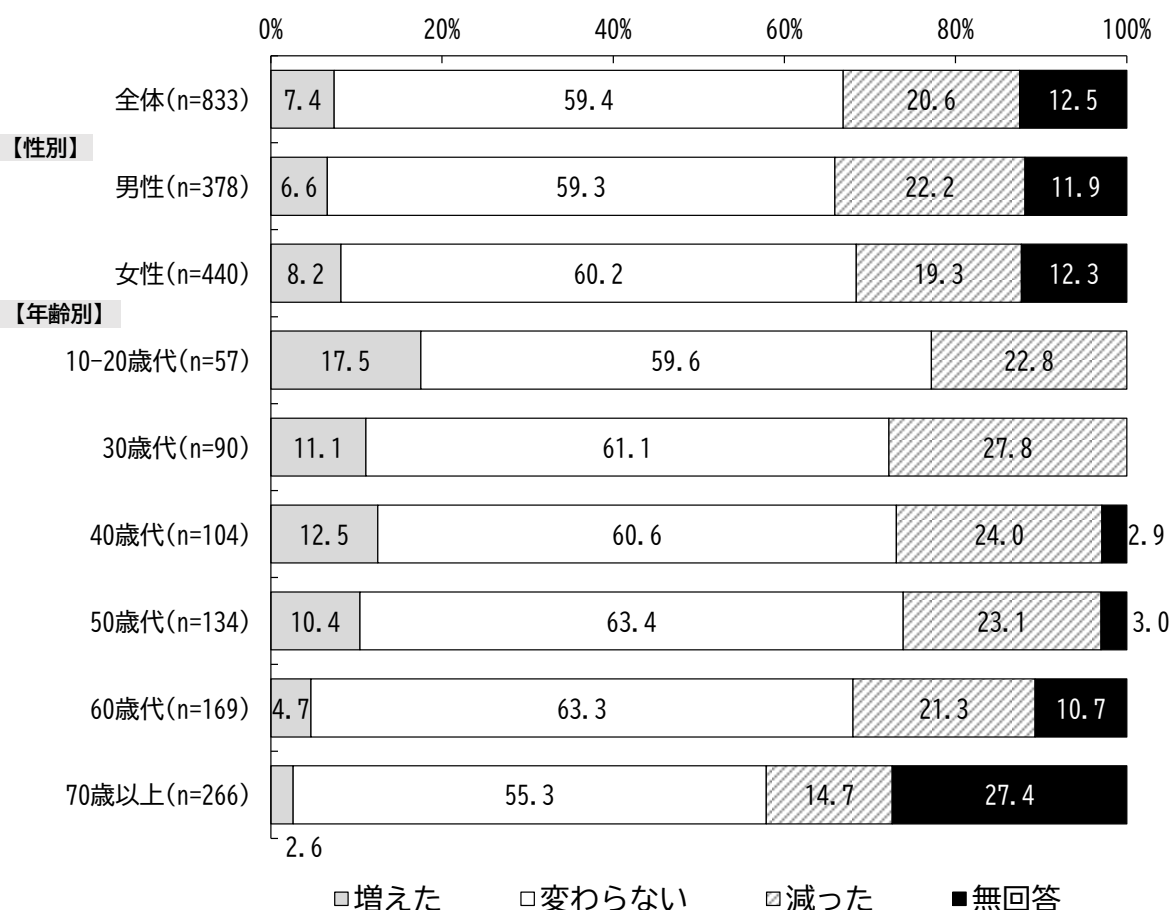
◆「変わらない」が6割を占め、「減った」が約2割。

働く時間や勉強する時間については、「変わらない」が59.4%と6割を占め、「減った」が20.6%と約2割、「増えた」が7.4%となっています。

性別で見ると、男性・女性ともに「変わらない」と回答する割合が6割前後を占め、傾向に大きな差はみられません。

年齢別で見ると、「変わらない」と回答する割合が多数を占めていますが、「増えた」は10-20歳代で17.5%と最も多くなっています。また、「減った」は30歳代（27.8%）で最も多くなっています。

### 新型コロナによる生活の変化②働く時間や勉強する時間【全体、性別、年齢別】



### ③家族と過ごす時間

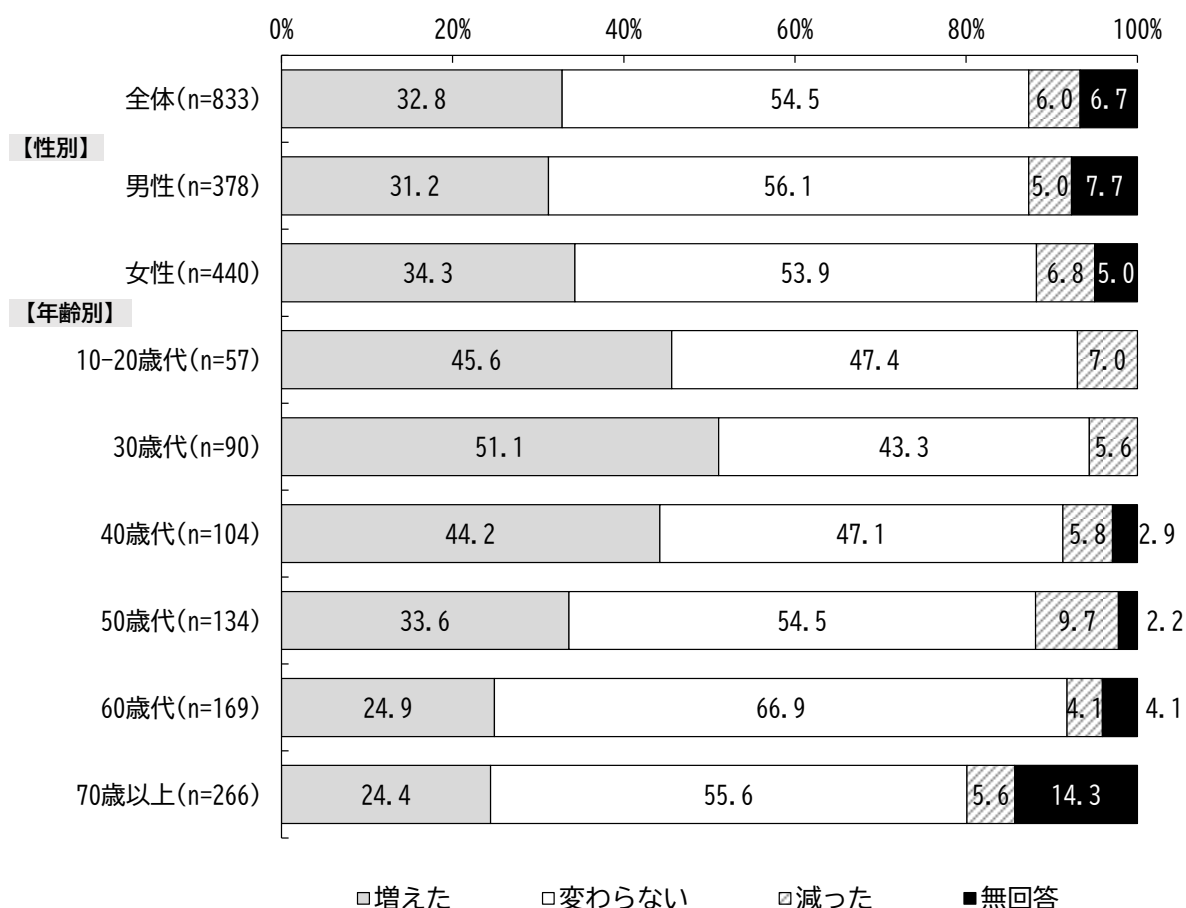
◆「変わらない」が半数以上を占め、「増えた」が3割強。

家族と過ごす時間については、「変わらない」が54.5%と半数以上を占め、「増えた」が32.8%と3割強、「減った」が6.0%となっています。

性別で見ると、男性・女性ともに「変わらない」と回答する割合が半数以上を占め、傾向に大きな差はみられません。

年齢別で見ると、「増えた」と回答する割合が30歳代で51.1%と半数を超え、10-20歳代で45.6%、40歳代で44.2%と比較的多くなっています。

新型コロナによる生活の変化③家族と過ごす時間【全体、性別、年齢別】



#### ④友人・知人と過ごす時間

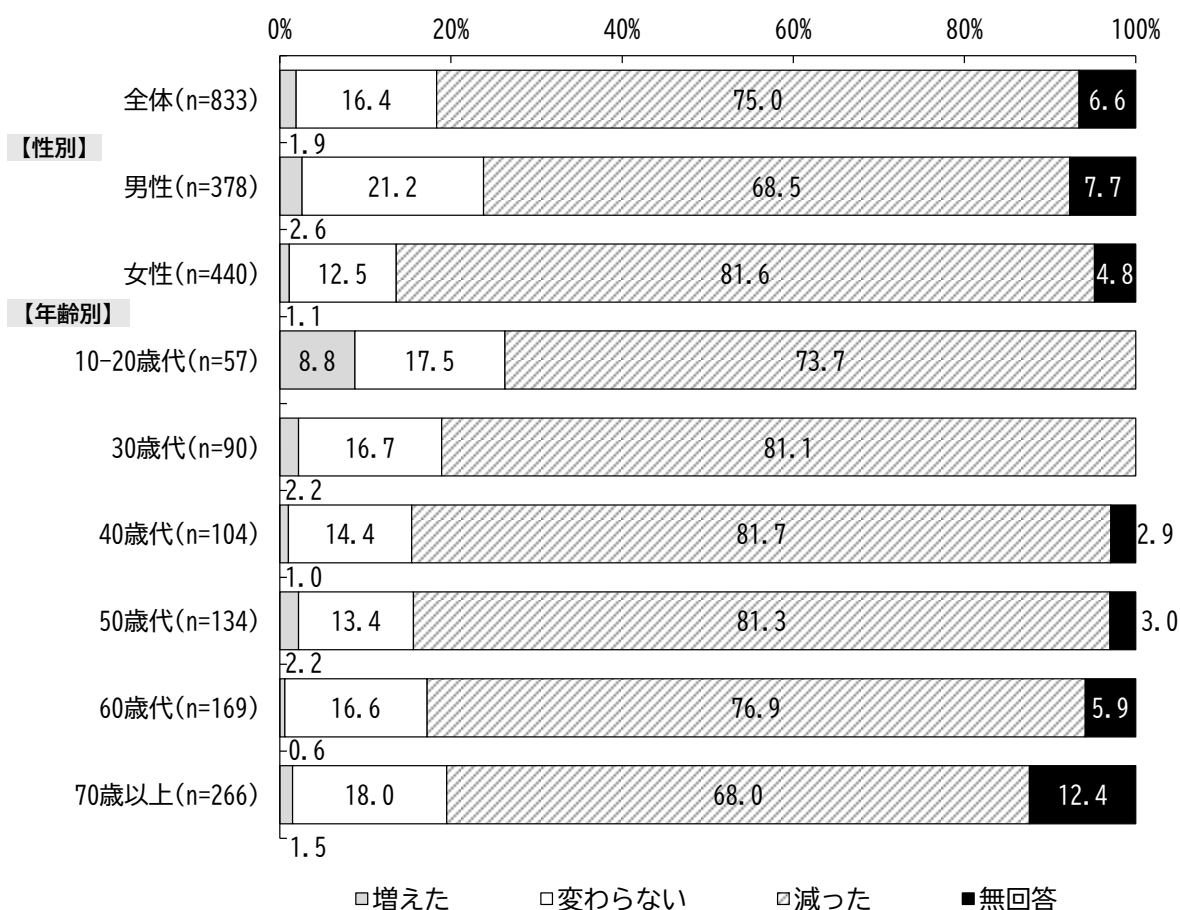
◆「減った」が7割以上を占める。

友人・知人と過ごす時間については、「減った」が75.0%と7割以上を占め、「変わらない」が16.4%、「増えた」はわずか1.9%となっています。

性別で見ると、「減った」と回答する割合が女性で81.6%と男性の68.5%を上回ります。

年齢別で見ると、すべての層で「減った」と回答する割合が多数を占め、40歳代(81.7%)、50歳代(81.3%)、30歳代(81.1%)では約8割を占めています。

#### 新型コロナによる生活の変化④友人・知人と過ごす時間【全体、性別、年齢別】



## 7. 性のあり方の多様性について

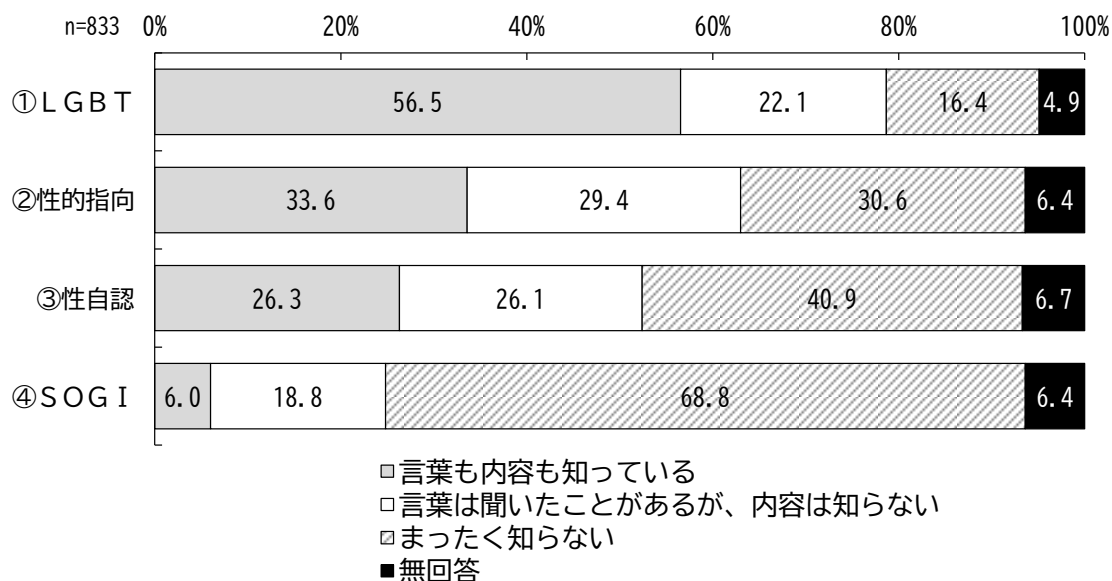
### (1) 性のあり方に関する言葉の認知度

問21 あなたは、次の言葉をどの程度知っていますか。

◆LGBTの認知度が最も高く、SOGIの認知度は低い。

性のあり方に関する言葉の認知度については、①LGBTで「言葉も内容も知っている」が56.5%と半数を超え、これに「言葉は聞いたことがあるが、内容は知らない」(22.1%)をあわせた、言葉を聞いたことのある人の割合は78.6%と約8割となっています。この言葉を聞いたことのある人の割合は、②性的指向で63.0%、③性自認で52.4%となっていますが、④SOGIは「まったく知らない」が68.8%となっており、他の言葉に比べて認知度が低くなっています。

性のあり方に関する言葉の認知度【全体】



#### ○LGBT

レズビアン（女性の同性愛者）・ゲイ（男性の同性愛者）・バイセクシュアル（両性愛者）・トランスジェンダー（出生届・戸籍上の性別とは違う性別で生きる人、生きたい人）の頭文字をとって組み合わせた総称語。

#### ○性的指向 (Sexual Orientation)

好きになる相手、性的対象がだれ（同性・異性・両性）であるか。

#### ○性自認 (Gender Identity)

自分の性別をどう認識するか。

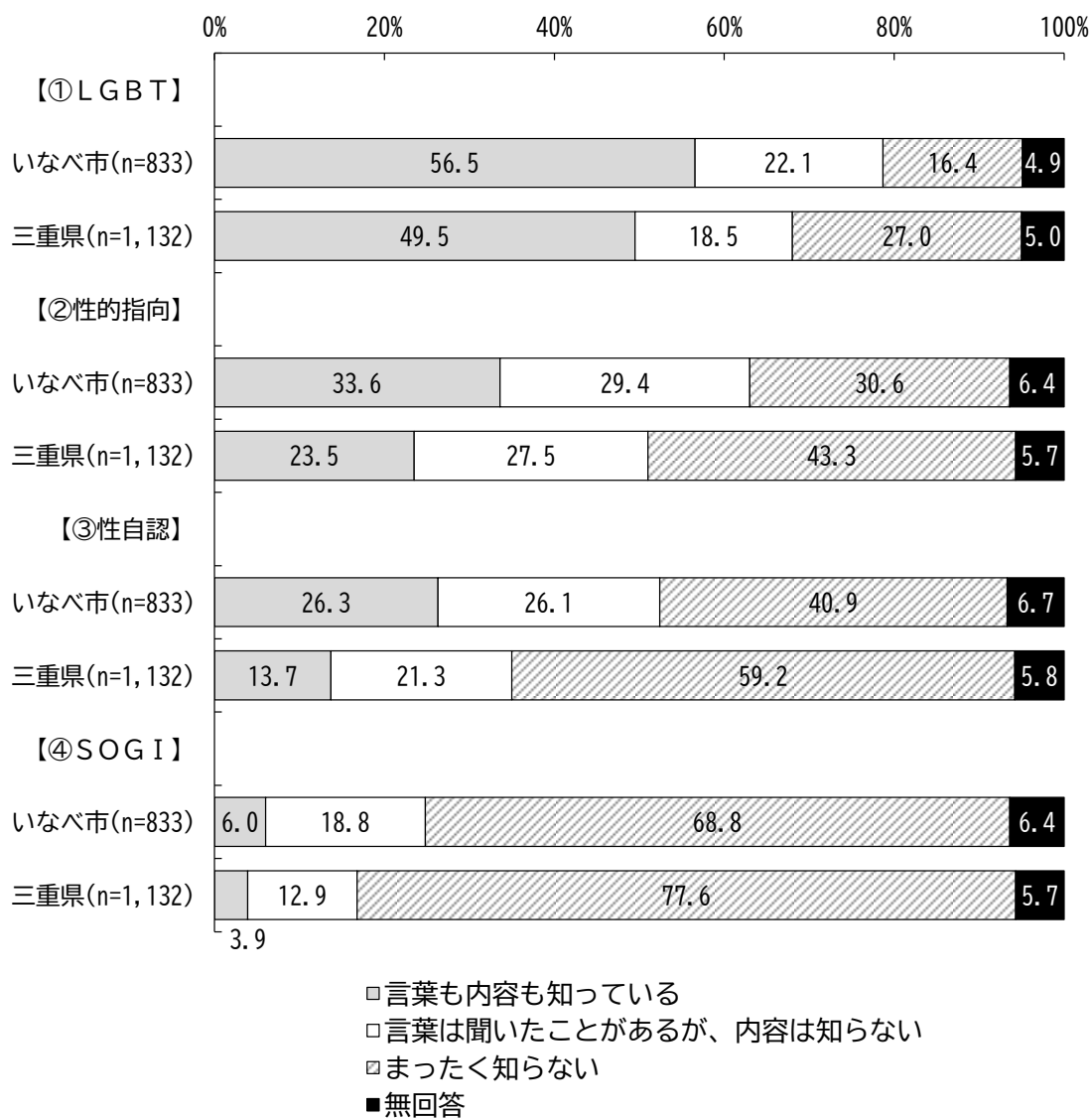
#### ○SOGI

性的指向 (Sexual Orientation) と性自認 (Gender Identity) の頭文字をとった総称。性のあり方は、性的指向や性自認など様々な要素の組み合わせにより形作られ、一人ひとり違い、多様です。そのため、多様な性をより包含できる言葉としてすべての人に当てはまる「SOGI」（ソジ、ソギとも言う）という言葉が使われるようになってきています。

◎県調査との比較（性のあり方に関する言葉の認知度）

◆県調査と比較すると、県より「言葉も内容も知っている」と回答する割合が県を上回り、4つの言葉ともに認知度が高い。

性のあり方に関する言葉の認知度【県調査との比較】



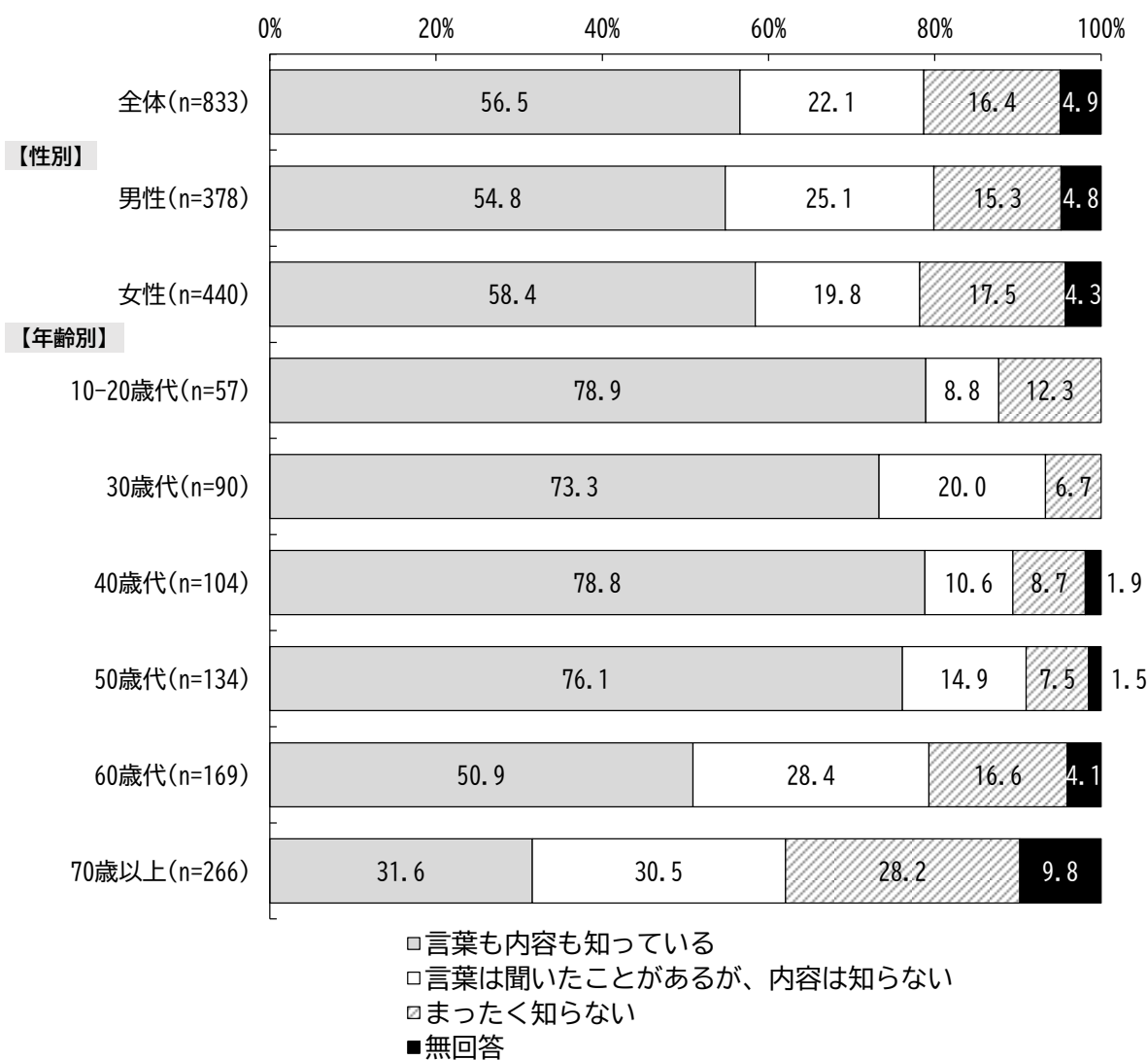
## ① L G B T の認知度

◆50 歳代までの層で言葉を聞いたことのある人の割合が8割台から9割以上と認知度が高い。

L G B T の認知度については、「言葉も内容も知っている」が56.5%と半数を超え、これに「言葉は聞いたことがあるが、内容は知らない」(22.1%)をあわせた、言葉を聞いたことのある人の割合は78.6%と約8割となっています。

言葉を聞いたことのある人の割合を性別でみると、性別では大きな差はみられません。また、年齢別では30歳代で93.3%と最も認知度が高く、70歳以上では62.1%にとどまります。

### ① L G B T の認知度【全体、性別、年齢別】



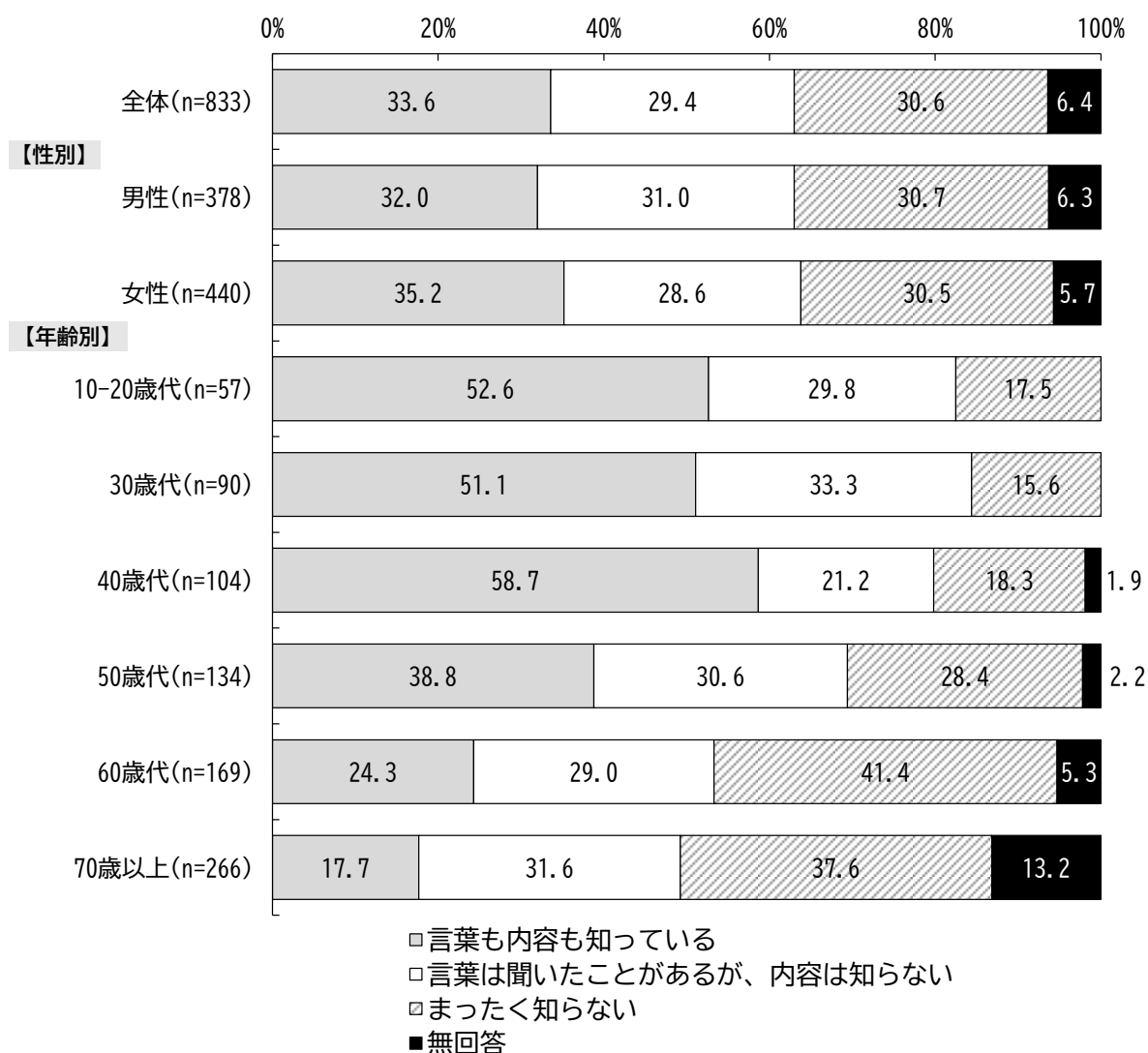
## ②性的指向の認知度

◆40歳代までの層で認知度が高い。

性的指向の認知度については、「言葉も内容も知っている」が33.6%で最も多く、これに「言葉は聞いたことがあるが、内容は知らない」(29.4%)をあわせた、言葉を聞いたことのある人の割合は63.0%と6割強となっています。

言葉を聞いたことのある人の割合を性別でみると、性別では大きな差はみられません。また、年齢別では30歳代(84.4%)、10-20歳代(82.4%)、40歳代(79.9%)で8割前後となっており、40歳代までの認知度が高い傾向がみられます。

②性的指向の認知度【全体、性別、年齢別】





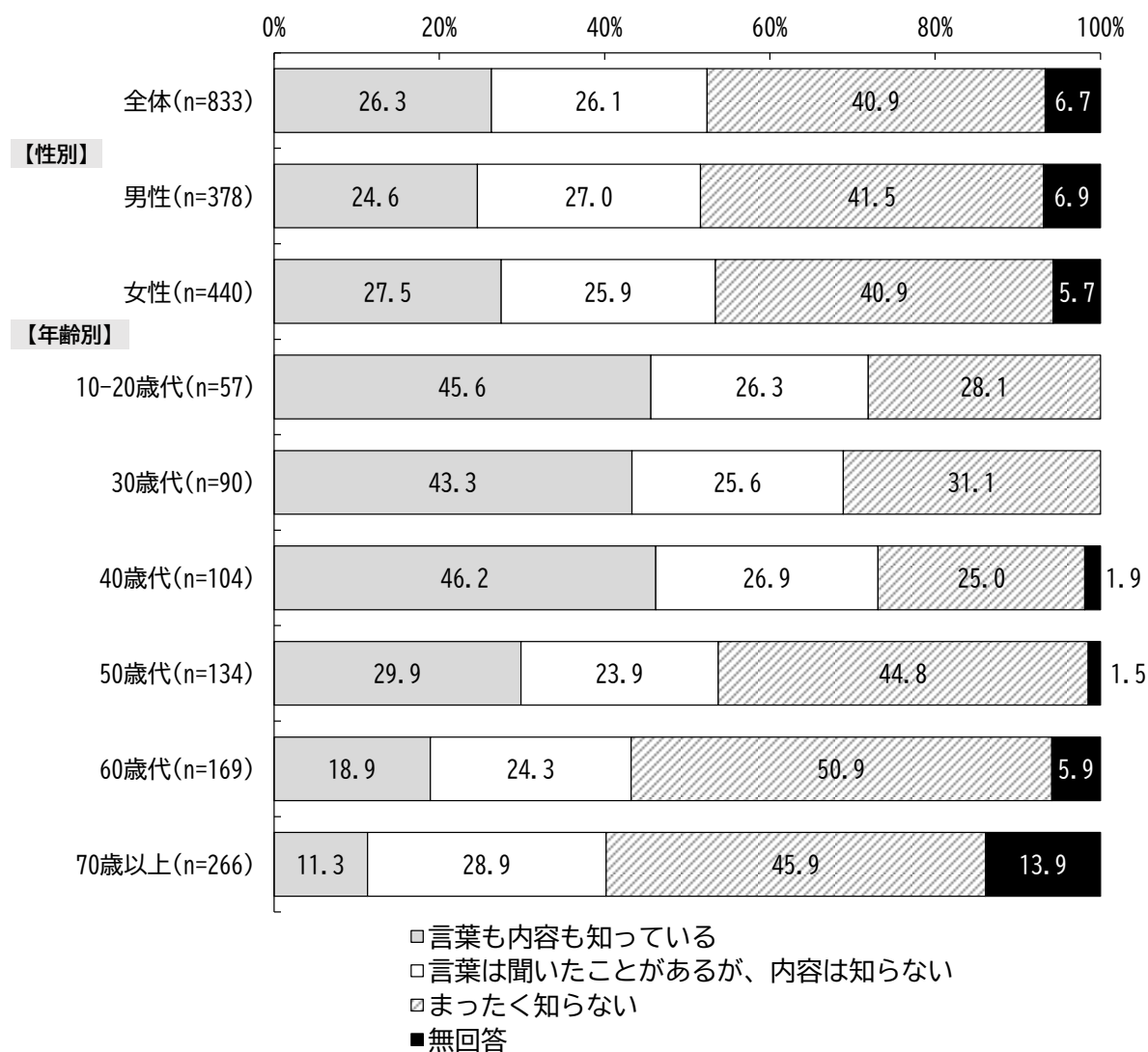
### ③性自認の認知度

◆40歳代までの層で認知度が比較的高い。

性自認の認知度については、「まったく知らない」が40.9%で約4割を占め、言葉を聞いたことのある人の割合（「言葉も内容も知っている」26.3%と「言葉は聞いたことがあるが、内容は知らない」26.1%の合計）は52.4%となっています。

言葉を聞いたことのある人の割合を性別でみると、性別では大きな差はみられません。また、年齢別では40歳代（73.1%）、10-20歳代（71.9%）、30歳代（68.9%）で7割前後となっており、40歳代までの認知度が比較的高い傾向がみられます。

③性自認の認知度【全体、性別、年齢別】



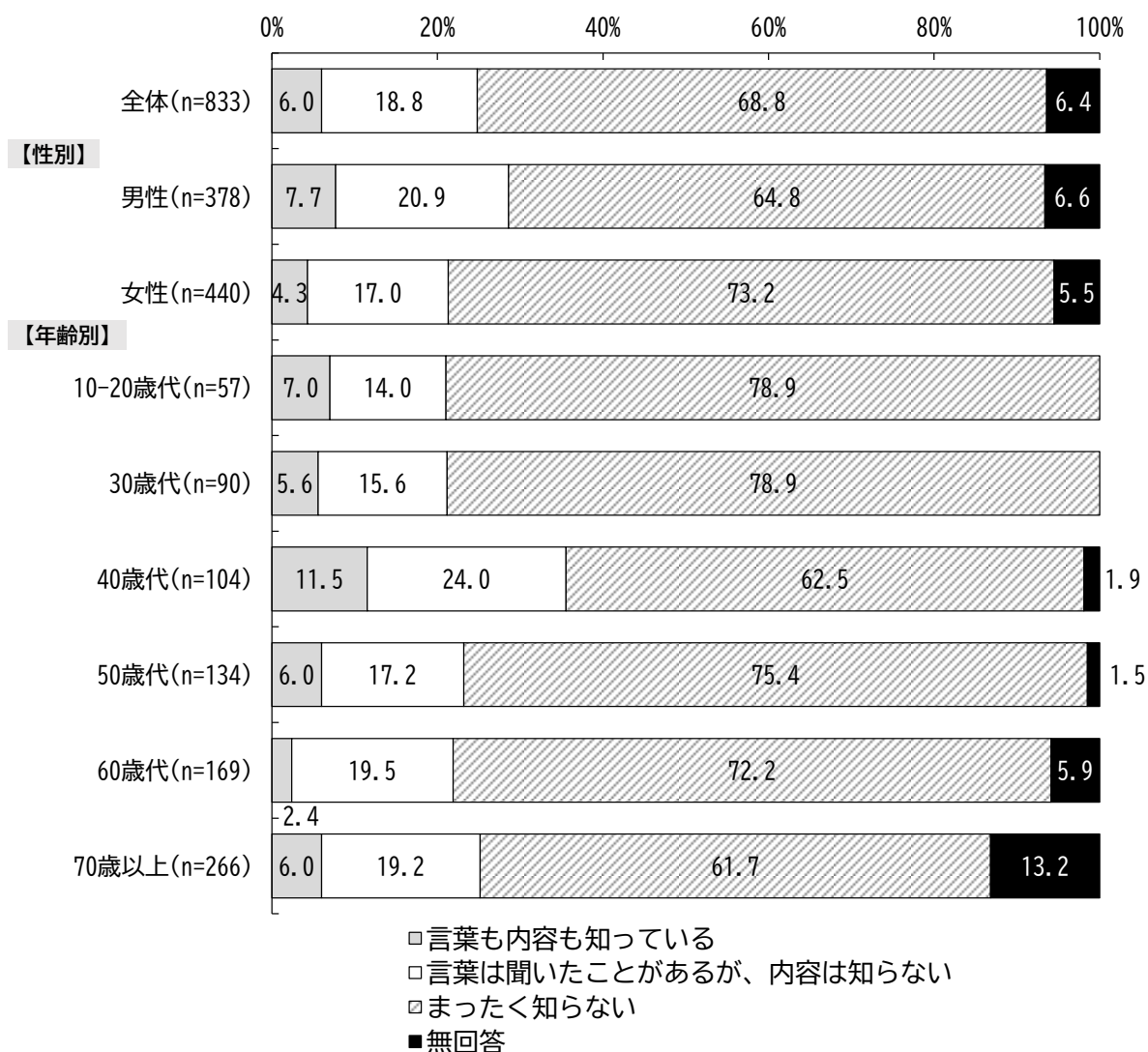
#### ④SOG I の認知度

◆すべての層で「まったく知らない」が多数を占め、認知度が低い。

SOG I の認知度については、「まったく知らない」が68.8%で約7割を占め、言葉を聞いたことのある人の割合（「言葉も内容も知っている」6.0%と「言葉は聞いたことがあるが、内容は知らない」18.8%の合計）は24.8%にとどまり、今回設定した4つの言葉のうち認知度が最も低くなっています。

言葉を聞いたことのある人の割合を性別で見ると、男性で28.6%と女性の21.3%を約7ポイント上回ります。また、年齢別では40歳代で35.5%と最も多くなっています。

④SOG I の認知度【全体、性別、年齢別】



## (2) 性の多様性についての考え方

問22 あなたは、LGBTなどの性の多様性についてどのように感じていますか。

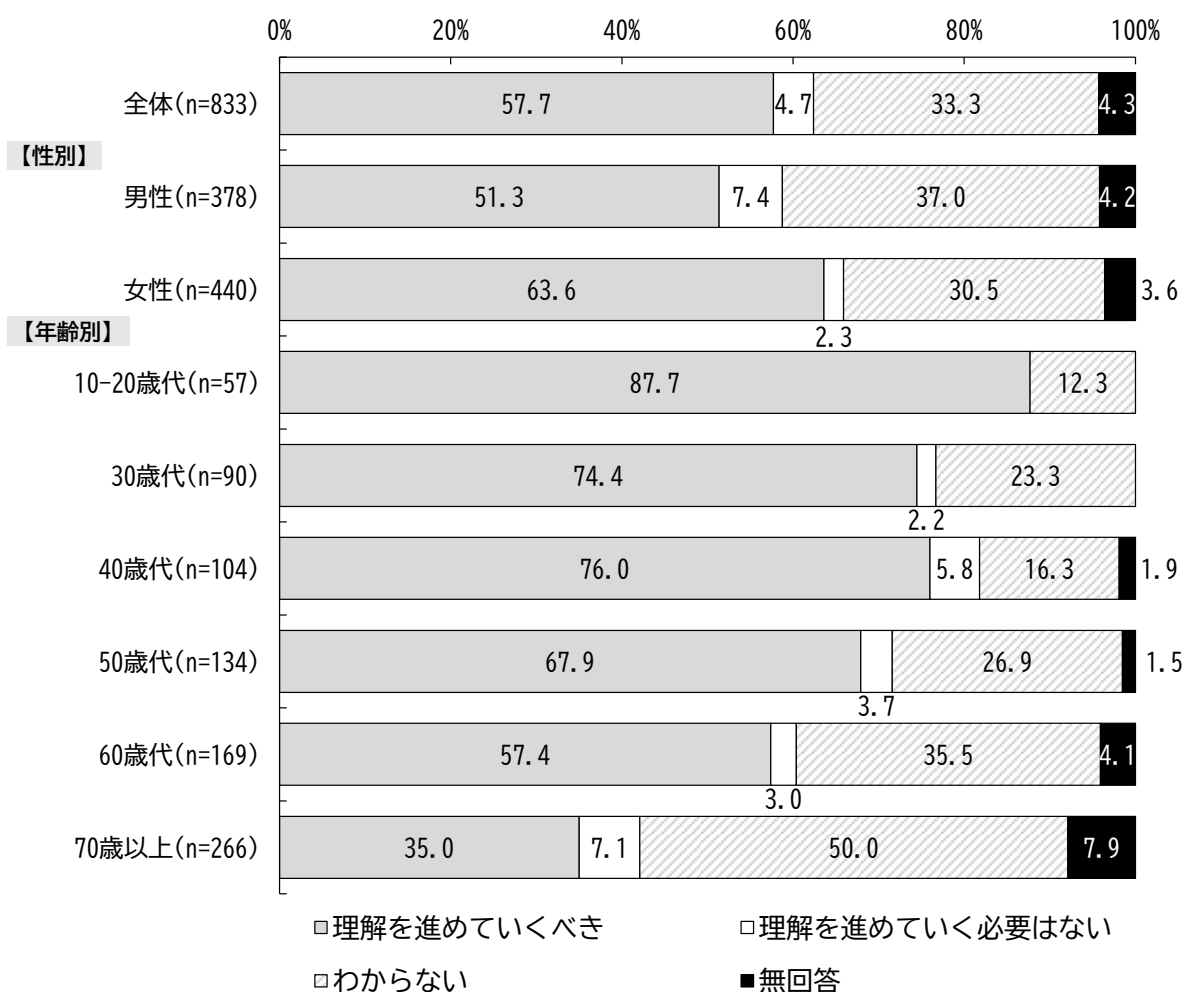
◆「理解を進めていくべき」が6割弱を占める。

性の多様性についての考え方は、「理解を進めていくべき」が57.7%と6割弱を占め、「わからない」が33.3%となっています。また、「理解を進めていく必要はない」は4.7%にとどまります。

性別で「理解を進めていくべき」の割合をみると、女性で63.6%と、男性の51.3%を約12ポイント上回ります。

年齢別では、年齢が若い層ほど「理解を進めていくべき」と回答する割合が多く、10-20歳代では87.7%と9割弱となっている一方、70歳以上では35.0%にとどまります。

性の多様性についての考え方【全体、性別、年齢別】



### (3) 男性であることの責任感

※男性の方におたずねします。

問23 あなたは、男性であることに「責任」や「つらさ」を感じることはありますか。

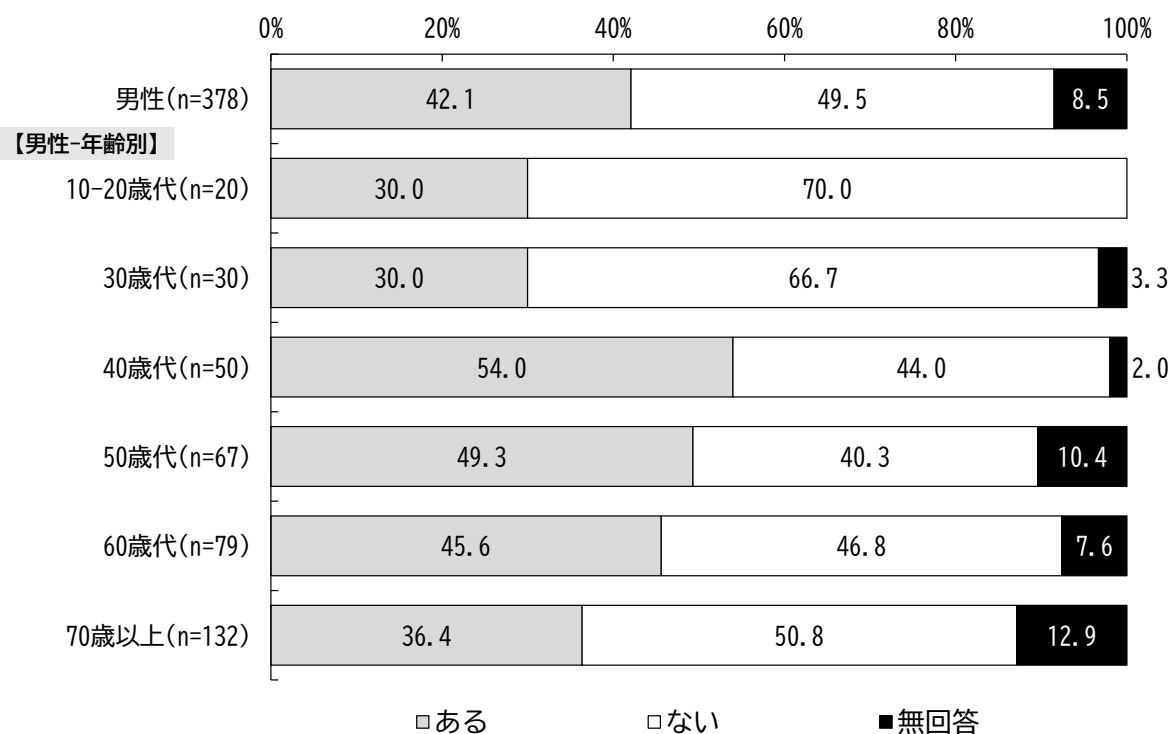


◆男性であることに「責任」や「つらさ」を感じる割合は4割強。

男性であることに「責任」や「つらさ」を感じることは、「ない」が49.5%と約半数、「ある」が42.1%と4割強となっています。

年齢別でみると、「ある」と回答する割合は、40歳代で54.0%と半数を超え、次いで50歳代（49.3%）、60歳代（45.6%）が続きます。

男性であることの責任感【男性、男性-年齢別】



#### (4) 男性であることに責任を感じる時

※問23で「1. ある」と答えた方におたずねします。

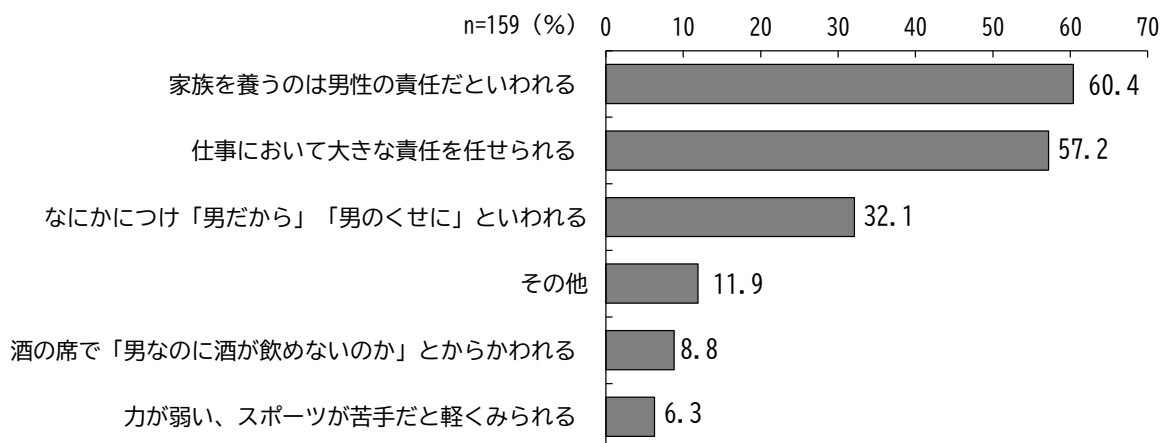
問23-1 男性であることに「責任」や「つらさ」を感じる時はどのような時ですか。【複数回答】

◆「家族を養うのは男性の責任だといわれる」及び「仕事において大きな責任を任せられる」が上位を占める。

男性であることに責任を感じる時については、「家族を養うのは男性の責任だといわれる」が60.4%で最も多く、次いで「仕事において大きな責任を任せられる」(57.2%)が続きます。

年齢別でも、ほとんどの層で「家族を養うのは男性の責任だといわれる」及び「仕事において大きな責任を任せられる」が上位を占めています。

男性であることに責任を感じる時【男性／複数回答】



男性であることに責任を感じる時【男性、男性-年齢別／複数回答】

		とーい男男にわのだからにせらつに「け」	い男男にわのだからにせらつに「け」	とポ力がくツ弱みがいら苦しるだ	らき仕れな事る責に任をい任てせ大	かいの酒の席が飲めな	その他
男性(n=159)		32.1	60.4	6.3	57.2	8.8	11.9
男性   年 齡 別	10-20歳代(n=6)	50.0	0.0	16.7	50.0	0.0	16.7
	30歳代(n=9)	44.4	100.0	11.1	33.3	33.3	11.1
	40歳代(n=27)	33.3	55.6	7.4	66.7	7.4	14.8
	50歳代(n=33)	24.2	63.6	6.1	60.6	15.2	9.1
	60歳代(n=36)	16.7	66.7	5.6	55.6	5.6	13.9
	70歳以上(n=48)	43.8	56.3	4.2	56.3	4.2	10.4

※第1位の回答は■、第2位の回答は■。

## 8. 行政への要望について

### (1) 市として取り組むべきこと

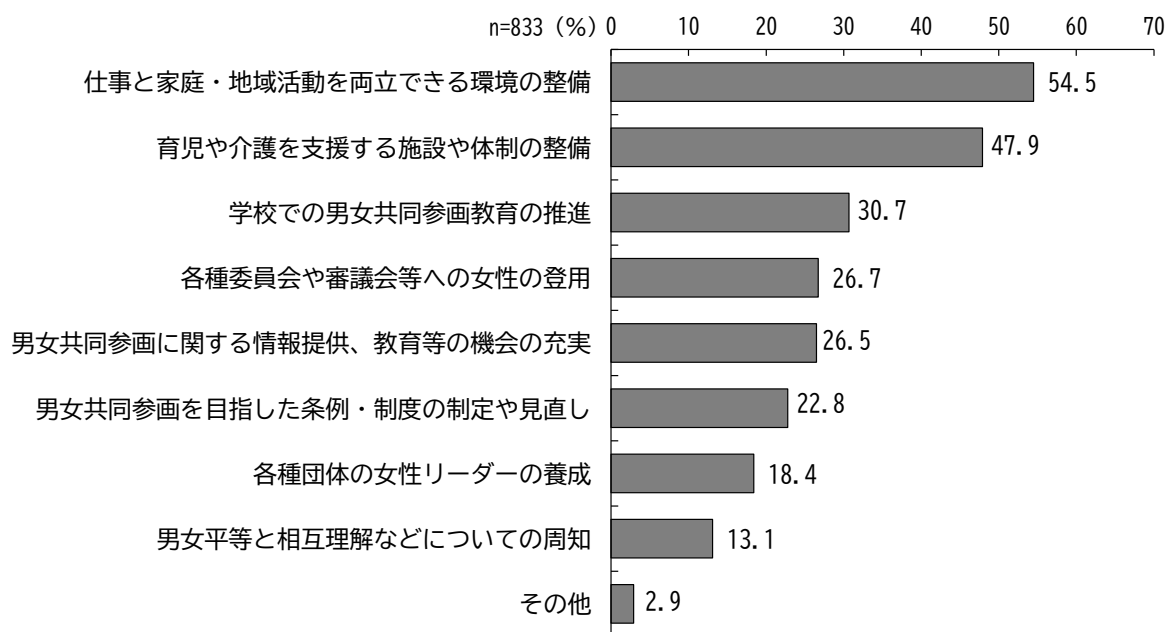
問24 男女共同参画を推進していくために、今後、市はどのようなことに力を入れる必要があると思いますか。  
【複数回答】

◆「仕事と家庭・地域活動を両立できる環境の整備」が最も多く、次いで「育児や介護を支援する施設や体制の整備」、「学校での男女共同参画教育の推進」の順。

男女共同参画を推進するため市として取り組むべきことについては、「仕事と家庭・地域活動を両立できる環境の整備」(54.5%)が最も多く、次いで「育児や介護を支援する施設や体制の整備」(47.9%)、「学校での男女共同参画教育の推進」(30.7%)が続きます。

性別、年齢別でも、すべての層で「仕事と家庭・地域活動を両立できる環境の整備」及び「育児や介護を支援する施設や体制の整備」が上位を占めます。

市として取り組むべきこと【全体／複数回答】



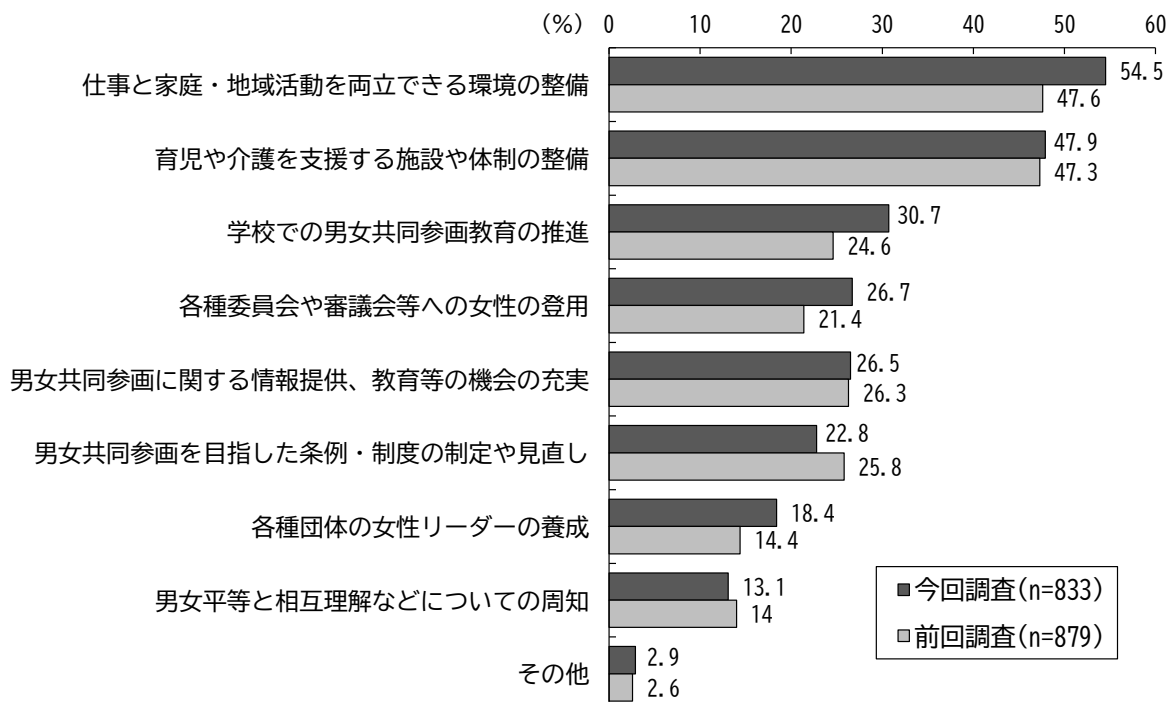
市として取り組むべきこと【全体、性別、年齢別／複数回答】

		見た男女共同参画の条例・制度の制定や見直し	各種委員会や審議会等への女性の登用	各種団体の女性リーダーの養成	男女共同参画に関する情報提供、教育等の機会の充実	男女平等と相互理解などについての周知	学校での男女共同参画教育の推進	育児や介護を支援する施設や体制の整備	仕事と家庭・地域活動を両立できる環境の整備	その他
全体(n=833)		22.8	26.7	18.4	26.5	13.1	30.7	47.9	54.5	2.9
性別	男性(n=378)	25.9	32.8	24.1	25.9	13.5	30.7	41.0	48.1	4.0
	女性(n=440)	20.0	20.9	13.2	27.3	12.5	30.2	53.9	60.2	2.0
年齢別	10-20歳代(n=57)	28.1	19.3	15.8	8.8	10.5	40.4	59.6	68.4	7.0
	30歳代(n=90)	18.9	26.7	21.1	16.7	8.9	32.2	53.3	63.3	2.2
	40歳代(n=104)	23.1	23.1	21.2	26.0	11.5	28.8	58.7	53.8	5.8
	50歳代(n=134)	23.9	26.9	18.7	27.6	14.2	26.9	54.5	60.4	1.5
	60歳代(n=169)	26.0	27.2	16.6	25.4	10.1	34.3	48.5	58.6	2.4
	70歳以上(n=266)	19.9	28.9	17.3	34.2	17.3	27.8	36.1	43.6	2.3

◎前回調査との比較（市として取り組むべきこと）

◆前回調査に引き続き、「仕事と家庭・地域活動を両立できる環境の整備」及び「育児や介護を支援する施設や体制の整備」が上位を占める。

市として取り組むべきこと【前回調査との比較／複数回答】



## (2) 市政への女性意見の反映

問25 あなたは、女性の意見が市の施策に反映されていると思いますか。

◆『反映されていない』と回答する割合は、女性が男性を上回る。

市政への女性意見の反映については、「わからない」が50.1%で約半数を占めていますが、「ある程度は反映されている」(22.8%)と「十分反映されている」(1.3%)をあわせた『反映されている』が24.1%となっています。一方、『反映されていない』(「あまり反映されていない」15.7%と「ほとんど反映されていない」7.1%の合計)は22.8%となっています。

性別で見ると、男性・女性ともに「わからない」がほぼ半数を占めていますが、女性では『反映されていない』(26.8%)が『反映されている』(20.2%)を上回っています。

年齢別では、『反映されていない』と回答する割合が30歳代(28.9%)、60歳代(29.0%)で多くなっています。

市政への女性意見の反映【全体、性別、年齢別】

